

琵琶湖博物館 年報

第 21 号

2016 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2017 年 9 月

ごあいさつ

2016年度は琵琶湖博物館が開館20周年を迎えた重要な年でありました。そして3期6年のリニューアル計画の第1期リニューアルを完成させた年でもありました。開館20周年を記念して行った第1期リニューアル計画の遂行は、単に展示や博物館施設のリニューアルというハードの側面ばかりではありません。リニューアルは新たな研究の展開や資料の新たな利活用などソフト的な側面も含んでおります。このことは年報のなかの第2章に5つの項目に分けて個別に述べております。

開館20周年記念事業のなかでは、今後の琵琶湖博物館の研究の方向性を示す国際シンポジウムを開催したことが特筆に値すると思います。琵琶湖博物館の国際化については古代湖の比較研究、東アジアの水系における比較研究が琵琶湖博物館の今後の向かうべき研究の方向性であります。ロシアのバイカル湖、アフリカのマラウィ湖、中国の揚子江水系などの研究に携わる研究者を招いてのシンポジウムは大きな成果でした。これを契機にヨーロッパで唯一の古代湖のあるマケドニア共和国のオフリド水生生物研究所との間にも、学術研究交流や事業協力に関する協定を調印することができました。また韓国の国立洛東江生物資源館とは、淡水生物の研究および展示・教育プログラムに関する合同セミナーを2回行い、国立洛東江生物資源館との間にも学術研究交流協定を結ぶ準備ができたことも大きな成果です。

博物館にとっては資料収集とその整理は博物館を特徴づける研究の重要な素材です。2016年度には、大型の標本資料の寄贈やすぐれた研究者の大きな一括寄贈図書などがあり、収蔵概数は100万点に近くなってきています。こうした資料にもとづく研究や展示が今後期待されるところであります。

博物館における研究で、館内外の有力な研究者と共同して「総合研究」や「共同研究」を立ち上げることができるのは琵琶湖博物館の誇るべき研究スタイルですが、2016年度の段階で総合研究1件、共同研究5件がさまざまなテーマで活動しました。琵琶湖博物館における研究も、開館して20年の経過や第1期リニューアルの完成、そして若い博物館研究者の増加によってひとつの転機を迎えています。新たな総合研究や共同研究を模索する段階に入っています。

博物館活動がもっとも可視化できるのは展示活動ですが、2016年度もさまざまな展示活動を行いました。なかでも特筆すべきは、琵琶湖博物館が誕生して20年間に発見できたことを一同に集めて紹介するという、例のない展示手法で好評を博した企画展示「開館20周年記念びわ博カルタ」を開催できたことです。博物館の学芸員、特別研究員、研究協力員、資料整理員、水族飼育員、展示交流員、フィールドレポーター、はしかけグループ、地域の団体などが52枚のカルタのかたちで紹介と発見を提示したものです。

琵琶湖博物館はフィールドレポーター制度やはしかけ制度などの市民参加型の活動をひとつの理念としています。この方向のひとつとして「琵琶湖博物館ブックレット」を出版することができました。この出版は琵琶湖博物館に関わる内外の研究者を書き手として、博物館における研究を市民にわかりやすく提供するものです。2016年度には3冊出版されましたが、今後年に数冊程度出版していく予定です。

琵琶湖博物館の活動記録の報告は私たち博物館員の社会的責任です。琵琶湖博物館の活動を日頃から積極的に支援してくださっている多くの方々に厚くお礼申し上げますと共に、本年報を是非ご覧になっていただき忌憚のないご意見、ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

2017年9月1日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 篠原 徹

目 次

ごあいさつ	1
I 開館 20 周年記念事業	
1 記念式典	4
2 国際シンポジウム	
(1) 古代湖の魅力：琵琶湖と世界の古代湖	4
(2) 研究交流事業	6
3 第 1 期リニューアルオープン	7
II 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	9
(2) 資料の活用	14
(3) 資料保管	17
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究推進	
(1) 総合研究	19
(2) 共同研究	19
(3) 専門研究	20
(4) 研究審査委員会	21
(5) 研究助成を受けた研究	21
(6) 研究員の受け入れ	23
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	25
(2) 新琵琶湖学セミナー	28
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	29
(4) 琵琶湖博物館ブックレット	30
研究交流	
(1) 国際協定	30
(2) 研究機関との協力	31
(3) 海外活動	33
研究部活動	
(1) 研修	34
(2) 外部監査対応	35
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	36
(2) 企画展示・水族企画展示	41
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	47
(4) 集う・使う・創る 新空間	48
展示交流	
(1) フロアートーク	48
(2) ディスカバリールームのイベント	48
(3) 展示交流員と話そう	49
(4) デジタルサイネージ	50
博物館連携	
(1) 滋賀県ミュージアム活性化推進事業	50
(2) 滋賀県博物館協議会	51
(3) 烏丸半島活性化連携事業	51

4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	53
(2) 講座	54
(3) 体験教室	54
(4) 体験学習	55
学校連携	
(1) 学校団体	56
(2) 教育指導者等研修	60
企業連携	61
研修・実習	
(1) 国際交流	61
(2) 博物館実習	63
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	64
(2) はしかけ制度	65
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	81
(2) 地域での支援活動	83
(3) 質問対応	84
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	85
(2) 環境学習の交流の場づくり	85
情報発信活動	
(1) サテライトミュージアム・地域発見！参加型移動博物館	86
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	87
(3) 印刷物	89
Ⅲ 新琵琶湖博物館の創造	90
Ⅳ 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	93
(2) 情報システムの整備	93
(3) 来館者アンケート調査	93
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	97
(2) 職員	98
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2016年度入館者数）	102
(2) 広報活動	104
(3) 予算	119
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	120
(2) 企画・計画	120
Ⅴ 2016年度をふり返って	
1 研究部	122
2 事業部	123
3 総務部	124

I 開館 20 周年記念事業

1 記念式典

2016年10月22日に、これまでの琵琶湖博物館へのご支援に感謝の気持ちを表す開館20周年記念式典を開催した。今後も琵琶湖博物館を応援して下さる皆様とともに、更なる琵琶湖博物館の発展を目指して、進化した展示や研究を進めるとともに、第2期、第3期のリニューアルに向かっていくことをお伝えし、引き続きのご支援をお願いした。また、アトリウムで20歳を迎えられた若い演奏家による記念演奏を行った。

○記念式典

開催日：2016年10月22日（土）

会場：琵琶湖博物館ホール

参加者数：126名（招待客含む）

式次第： ・オープニング演奏

- ・式辞（滋賀県副知事 西嶋栄治）
- ・来賓祝辞（滋賀県議会副議長 奥村芳正）
- ・20年の歩みと第1期リニューアルを終えて（琵琶湖博物館副館長 高橋啓一）
- ・謝辞（琵琶湖博物館館長 篠原徹）

○記念演奏（アトリウム）

- ・リニューアルの紹介、博物館のPR
- ・記念演奏

演奏者 ヴァイオリン 北条エレナ 氏
ヴァイオリン 堀内星良 氏



2 国際シンポジウム

(1) 古代湖の魅力：琵琶湖と世界の古代湖

開館20周年を記念し、今後の琵琶湖博物館の研究の方向性を示すシンポジウムとして、古代湖としての琵琶湖の魅力を再発見してもらう講演会を開催した。具体的には、古代湖として豊富な固有種を持つロシアのバイカル湖、アフリカのマラウイ湖や、人間活動や人々の暮らしに密接な関わりを持つ中国の湖や内湖での研究などを紹介することで、古代湖やそこでの人々と湖との関わり魅力を参加者に伝えた。あわせて琵琶湖の魅力についても、これまでの研究成果をわかりやすく紹介した。地域の人々とともに学び考え成長していくことを目指す博物館として、学術的、国際的なシンポジウムでありながらも専門分野以外の人々にも

わかりやすい講演を行った。世界の古代湖との比較から、琵琶湖の特徴や価値について地域の人々と一緒に改めて考えてみる機会とすることを目指した。

日時：2016年10月22日（土）13:30～17:00

場所：琵琶湖博物館ホール

主催：琵琶湖博物館

共催：バイカル博物館、中国科学院水生生物研究所、（公財）国際湖沼環境委員会

参加者：133名

プログラム：

開会あいさつ 篠原 徹（琵琶湖博物館 館長）

講演1：バイカル博物館とバイカル湖ーバイカル博物館は自然科学イノベーションセンターー

ウラジーミル フィアルコフ（バイカル博物館 館長）

コメント：琵琶湖の無脊椎動物の多様性の探求とその固有性

マーク J. グライガー（琵琶湖博物館 上席総括学芸員）

講演2：マラウイ湖の魚と漁業：その重要性と管理

ボスコ B. ルスワ（マラウイ大学チャンセラール校 准教授）

コメント：琵琶湖と固有魚類相の成り立ち

渡辺勝敏（京都大学大学院理学研究科 准教授）

休憩

講演3：長江流域における湖沼、魚類の多様性と人間活動の影響

何舜平（中国科学院水生生物研究所 教授）

代読：金尾滋史（琵琶湖博物館）スライド紹介

コメント：琵琶湖の漁業と人々のくらしの変化

藤岡康弘（滋賀県水産試験場 元場長）

閉会あいさつ 高橋啓一（琵琶湖博物館 副館長）

講演内容および成果：

海外から招聘した研究者によるロシアのバイカル湖、アフリカのマラウイ湖、中国の湖や内湖に関する講演と、それぞれの講演についての琵琶湖の研究者による3題のコメントが行われた。中国の湖や内湖を紹介する予定であった中国科学院水生生物研究所の何舜平教授が急きょ来日できなくなったので、琵琶湖博物館の金尾主任学芸員が代読した。

最初は、バイカル博物館のフィアルコフ館長が、世界最古の湖であるバイカル湖の固有生物を紹介した。あわせて、バイカル博物館とその将来のリニューアル計画についても話題提供があり、バイカル博物館は自然科学のイノベーションセンターであることを紹介した。この講演のコメントとして、グライガー上席総括学芸員が、琵琶湖に生息する無脊椎動物の研究史と多様性を紹介した。琵琶湖に生息する無脊椎動物には、「確かな」固有種と、調査が不十分なため固有種とはまだ認められない種があり、将来の琵琶湖の生物相の研究の重要性を強調した。

第2の講演では、マラウイ大学のボスコ准教授が、マラウイ湖の1千種に近い固有種であるシクリッド科魚類について、環境ごとに形態が異なることなど魚類の多様性について紹介した。また、近年、生息環境の劣化や乱獲、人口増加が漁業資源への大きな脅威となっていることを指摘した。この講演のコメントとして京都大学の渡辺准教授が、琵琶湖の固有魚類の起源については、ミトコンドリアDNAに基づいた調査研究の結果、現代型の新しい琵琶湖で進化した初期固有種という予測に反して、多くの固有種の起源が100～300万年前と現代型の琵琶湖が形成される以前に遡ることを紹介した。

第3の講演では、中国科学院水生生物研究所の何教授の講演スライドを琵琶湖博物館の金尾主任学芸員が代読した。中国長江流域の固有魚類は上流域で最も豊富で、そこに生息する約209種類ほどの魚類の半分以上を占めているという驚くべき多様性を紹介した。また、人間活動が資源の利用と保護に影響を及ぼしており、魚類資源の多様性と人間活動の影響を評価する保護戦略の策定が重要であると指摘された。この講演のコメントとして、藤岡滋賀県水産試験場元場長が、琵琶湖の漁獲量は大幅に減少しているが、その背景には、琵琶湖総合開発のほか、琵琶湖に対する人々の意識が「身近な琵琶湖」から「象徴的で遠い琵琶湖」へと変化していることが大きく関係していると指摘した。

本シンポジウムでは、写真などを多く使い、古代湖の魅力を海外の湖と琵琶湖を対比する形で一般にも分かりやすいように講演を行った。海外の古代湖や琵琶湖における固有種の多様性やその人間活動の影響について理解が深まるとともに、海外の湖沼と比較することで琵琶湖の価値がより理解できたのではないかとと思われる。

なお、今回のシンポジウムを開催するにあたり、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団の協賛を受けた。



受付の様子



篠原館長開会挨拶



フィアルコフ館長講演



講演者記念撮影

(2) 研究交流事業

1) 特別研究セミナー「古代湖研究最前線」

国際シンポジウムに併せ、海外の古代湖における研究成果と当館または他の研究機関による琵琶湖の研究成果の情報交換を行い、今後の研究推進に必要な実質的な議論や交流を行うことを目的に、国際シンポジウムの前日に海外の古代湖研究者による特別研究セミナーを開始した。

2016年10月21日(金)

参加者26名

- V. A. Fialkov (バイカル博物館)
- B. B. Rusuwa (マラウイ大学チャンセラール校)
- M. J. Grygier (琵琶湖博物館)
- 何舜平 (中国科学院水生生物研究所)

バイカル湖における生物資源の保全と利用
マラウイ湖のシクリッド魚類の進化、生態、重要性
琵琶湖の無脊椎動物の多様性の探求とその固有性
中国淡水魚類の多様性の系統再構築：パターン、プロセス、メカニズム

(代読 金尾滋史 (琵琶湖博物館))

第4講演では急きょ来日できなくなった講演者に代わり、琵琶湖博物館主任学芸員の金尾滋史が代読を行った。

なお、本特別セミナーは平成28年度 文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の助成のもと、琵琶湖博物館と滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の主催で開催した。

2) エクスカーション

特別研究セミナーと合わせて、琵琶湖周辺地域での研究成果について現地で解説し、より一層の研究交流を図ることを目的に、10月19日(水)と20日(木)にフィールドエクスカーションを実施した。

10月19日(水)

参加者：フィアルコフ館長(バイカル博物館)・夫人、ボスコ准教授(マラウイ大学)、
桑原雅之、亀田佳代子、山本充孝、金尾滋史、林竜馬(琵琶湖博物館)
中井まりえ(ロシア語通訳)

内容： 醒井養鱒場(ビデオ視聴+サケマス関連事業・研究紹介・見学)(菅原和宏主査)
マス専門料理店で昼食(養鱒場内)
水産試験場(研究紹介・見学)(場長、水試職員、山本充孝 他)
(終日、公用車で移動)

10月20日(木)

参加者：フィアルコフ館長(バイカル博物館)・夫人、ボスコ准教授(マラウイ大学)、
亀田佳代子、楊平、渡部圭一、林竜馬、鈴木隆仁(琵琶湖博物館)
中井まりえ(ロシア語通訳)

内容： 琵琶湖水鳥湿地センター、長浜城博物館見学

(終日、公用車で移動)

3) インターネットページ「古代湖の魅力」

今回の特別研究セミナーやシンポジウムでの発表内容をもとに、「古代湖の魅力」についてインターネットによる情報発信を行なった。

3 第1期リニューアルオープン

2020年度のグランドオープンを目指して、3期にわたるリニューアル事業を進めているが、第1期として工事を行っていたC展示室と水族展示室が完成し、2016年7月14日(木)にリニューアルオープンとなった。これに伴い、プレス向け内覧会とオープニングセレモニーを開催した。

(1) 内覧会

日時：2016年7月12日(火) 9:30~17:00

※学芸員の解説付きプレスツアーを開催。

場所：滋賀県立琵琶湖博物館(草津市下物町1091番地)

(2) オープニングセレモニー

日時：2016年7月14日(木) 9:10~9:30

場所：滋賀県立琵琶湖博物館 アトリウム

出席者：滋賀県知事

滋賀県議会議長

展示協力者代表（成安造形大学学生 青木優奈さん）

博物館利用者代表（フィールドレポーター・はしかけ 前田雅子さん）

式次第：・式辞

（滋賀県知事）

・来賓あいさつ・来賓紹介

（滋賀県議会議長）

・お礼のことば（リニューアル概要含む）

（琵琶湖博物館館長）

・テープカット

・一般来場者展示室へ入場



Ⅱ 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖とその集水域および淀川流域をはじめ、日本・世界の湖沼周辺地域において自然と文化にかかわる物や情報といった資料を体系的に収集・整理し、活用するとともに、次世代まで確実に保存することをめざしている。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。また、保存や維持管理のための技術、方法の開発にも努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。以下に2016年度の資料整備および利活用状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2016年度末現在で、博物館登録資料は530,949で、収蔵概数は963,057となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

1) 収蔵資料数

2017年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2016年度登録数	2016年度受入総数
地学	56,946	73,581	7,670	5,784
動物	141,521	356,310	745	28,350
植物	86,905	188,244	1,780	128
微生物	0	67,848	0	1,295
水族（生体）	17,388	17,388	22,546	22,546
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	2	211	0	1
民俗	6,721	6,837	0	0
環境	0	45箱と772	0	2
図書	140,800と 4,900タイトル	148,300	1,352と 347タイトル	6,747と 404タイトル
映像	75,766	101,700	0	0
合計	530,949	963,057	34,440	65,257

【各分野別の詳細】（*累積の登録資料数・収蔵概数について、2015年度のデータを一部訂正した箇所がある）

地学標本	2016年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	6,691	0	0	0	5,748	5,748		42,753	46,800
岩石・鉱物	979	0	0	0	36	36		10,132	18,881
堆積物	0	0	0	0	0	0		2,810	6,600
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,251	1,300
小 計	7,670	0	0	0	5,784	5,784		56,946	73,581

動物標本	2016年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	154	12	0	0	141	153		3,592	3,754	
内 訳	哺乳類骨格標本	57	1	0	0	56	57		884	887
	哺乳類剥製標本	27	5	0	0	22	27	登録分はDBに公開済	76	78
	哺乳類(その他)	38	2	0	0	36	38		870	1,027
	鳥類骨格標本	5	4	0	0	1	5	骨格標本5	237	237
	鳥類乾燥標本(巢卵、レプリカ等含む)	4	0	0	0	3	3	部分剥製標本3(後肢2.頭部1)、本剥製標本1(前年度受け入れ済み、登録のみ本年度)	1,007	1,007
	爬虫類骨格標本	14	0	0	0	14	14		43	43
	爬虫類剥製標本	4	0	0	0	4	4		11	11
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		44	44
	爬虫類(その他)	1	0	0	0	1	1		46	46
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		351	351
	両生類(その他)	4	0	0	0	4	4		16	16
魚類（淡水魚類）	574	0	0	0	16	16		56,567	85,587	
内 訳	乾燥骨格およびアクリル包埋標本	1	0	0	0	0	0	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった	2,678	2,678
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本を維持管理、データベースの修正などをおこなった	3,723	3,723
	その他の液浸標本	573	0	0	0	16	16	新規に提供された標本および前年度までの未登録標本を整理し、データベースへ573件を新規登録した	50,166	79,186
昆虫	9	242	25,786	0	196	26,224		67,015	234,899	
内 訳	昆虫液浸標本	9	9	0	0	4	13	新たに採集した標本をDBに登録した。以前に寄贈された資料を整理し、登録できる状態にする作業を進めている	12,504	31,065
	昆虫乾燥標本	0	233	25,786	0	192	26,211	滋賀県産標本の整理、宮田彬コレクションの登録作業	54,511	203,834
貝類	8	4	0	0	198	202	未整理標本および新規提供標本を整理して登録できる状態にした	14,347	17,467	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	0	0	0	1,755	1,755	仮データベースへの累積登録点数8046点（うち今年度登録点数：23点）	0	14,603	
小 計	745	258	25,786	0	2,306	28,350		141,521	356,310	

植物標本	2016年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	1,779	0	0	0	127	127	標本受入・登録・ラベル貼付・ 収蔵・管理・収蔵庫燻蒸	86,904	188,065
植物液浸標本	1	0	1	0	0	1		1	1
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	1,780	0	1	0	127	128		86,905	188,244

微生物標本	2016年度							累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	983	983		0	4,941
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	31
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,387
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	287	0	0	0	287		0	10,048
微小生物動画ファイル	0	25	0	0	0	25		0	866
小 計	0	312	0	0	983	1,295		0	67,848

水族資料 (生体)	2016年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	18,773	667	470	9,427	8,209	18,773		16,531	16,531
内 訳	哺乳類	22	0	8	0	14	22	15	15
	魚類	18,729	658	449	9,427	8,195	18,729	16,455	16,455
	両生類	8	8	0	0	0	8	19	19
	爬虫類	14	1	13	0	0	14	35	35
	鳥類	0	0	0	0	0	0	7	7
無脊椎動物	3,773	3,454	45	274	0	3,773		857	857
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0	0	0	0
	貝類	720	554	0	166	0	720	590	590
	甲殻類	2,495	2,342	45	108	0	2,495	255	255
	扁形動物	558	558	0	0	0	558	12	12
小 計	22,546	4,121	515	9,701	8,209	22,546		17,388	17,388

考古資料	2016年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21箱と3点
小 計	0	0		0	1,429箱と392点

歴史資料	2016年度					整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	1	0	0	1	大津百艘船仲間木村忠兵衛家文書(072号) 仮目録作成中(現在3601点)	2	163
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	41
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	1	0	0	1		2	211

民俗資料	2016年度			整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		2,588	2,589
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	0	0	0		6,721	6,837

環境資料	2016年度				整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	2	0	2		0	76
生活用具類	0	0	0	0		0	37
民具類	0	0	0	0		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	2	0	2		0	45箱と772

図書資料	2016年度				整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
書籍	925	99	2,600	2,699	その他、館外利用者サービスとして開架図書約10,000冊雑誌57件の整備、書籍レファレンス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検49,000点、ニュースレターの整理、図書装備約1,000冊。	87,000	92,000
文献	427	99	427	526		53,800	56,300
雑誌	347タイトル (うち新規95タイトル)	394 (57タイトル)	3,128	3,522 (404タイトル)		(*)4,900 タイトル	
小 計	1,352と 347タイトル	592と 57タイトル	6155	6,747と 404タイトル		140,800と 4,900タイトル	148,300

(*)ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2016年度						整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	琵琶湖文化館写真資料サムネイルアルバム化、琵琶湖文化館ネガのスキャン、大橋コレクション整理	75,766	92,931
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	8,769
小 計	0	0	0	0	0	0		75,766	101,700

2) 寄贈者および提供者

敬称省略(点数)

【地学資料】

岩石・鉱物：小谷富士夫(34) 岡村太一郎(2)

化石：岡村喜明(1) 田村 唯(1) 池田朝未(1) 馬越仁志(37) 北村 浩(2)

【動物標本】

哺乳類骨格標本：岡村喜明 (27)
 哺乳類生体：富士市ファミリーパーク (5)
 鳥類骨格標本：松本悠貴 (1)
 鳥類乾燥標本：佐治良雄 (3)
 両生爬虫類標本：岡村喜明 (18)
 昆虫乾燥標本：石田未基 (9) 遠藤真樹 (5) 細井正史 (1) 市川彰彦 (1) 河瀬直幹 (1)
 武田 滋 (163) 野原章宏 (11) 目方佳生 (1) 布籐美之 (25, 786)
 昆虫液浸標本：上西 実 (4)
 魚類液浸標本：琵琶湖博物館水族 (6) 河瀬成吾 (9)
 魚類生体 (当館にて液浸標本化)：玉津小津漁協 (1)
 貝類乾燥標本：本多和夫 (2) 石田未基 (1) 内藤順一 (7)
 貝類液浸標本：石田未基 (3) 瀬田町漁協共同組合 (2) 水資源機構 (183)
 昆虫と貝類以外の無脊椎動物：田んぼの生きもの調査グループ (1, 755)

【植物標本】

さく葉標本：大阪市立自然史博物館 (111) 山本義則 (15) 村上大介 (1)
 植物液浸標本：大野 葵 (1)

【微生物標本】

微小生物液浸標本：上田拓史 (983)

【水族資料】

宮島水族館 (10) 宮津エネルギー研究所水族館 (50) サケのふるさと千歳水族館 (300)
 富山市ファミリーパーク (5) 海の中道海洋生態科学館 (2) サンシャイン水族館 (1)

【民俗資料】

西村辰治 (1) 比良岡七郎 (1) 勝部自治会 (1) 西堀駒次 (1)

【図書資料】

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会 (5) まちづくり会社 (4) 北九州・魚部 (4)
 歴まち大津の未来を考える会 (2) びわこ豊穰の里 (2) 本庄町自治会 (1)
 伊吹山ネイチャーネットワーク (2) 香里ヶ丘植物研究会 (1) 日吉大社 (1)
 草津古文書学習会 (1) クリエーションギャラリーG8 (1) 橋本鉄男 (761)
 郷土日田の自然調査会 (1) 山口隆雄 (1) 用田政晴 (239) 川那部浩哉 (13)
 白神大輝・慶太 (3) 谷本 勇 (1) 布谷知夫 (1) 石田志朗 (1) 吉安克彦 (1)

3) 購入資料

なし

4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	150
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	234
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	104
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira ssp.</i>	50

種 名	学 名	個体数
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	122
タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	116
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	166
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	100
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	236
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	150
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	174
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i>	335
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	238
ドジョウ科		
アユモドキ	<i>Parabotia curta</i>	271
ナガレホトケドジョウ		34
メダカ科		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	83
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	56
サケ科		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou subsp.</i>	5,065
外国産魚類		
カワスズメ科		
レピドランプロログス・アテナアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	150
アウロノクラノス・デウィンディ	<i>Aulonocranus dewindli</i>	92
ジュリドクロミス・オルナータス	<i>Julidochromis ornatus</i>	5
ネオランプロログス・モーリー	<i>Neolamprologus morrii</i>	160
コパディクロミス・アズレウス	<i>Copadichromis azureus</i>	51
シュードトロフェウス・デマソニー	<i>Pseudotropheus demasoni</i>	10
スキアエノクロミス・フライエリー	<i>Sciaenochromis fryeri</i>	22
アウロノカラ・ヤコブフライベルギ	<i>Aulonokara jacobfreibergi</i>	12
ラビドクロミス・カエルレウス	<i>Labidochromis caeruleus</i>	9

(2) 資料の活用

1) 資料の貸出 (研究依頼を含む) 19件 2,363点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	21	岡山理科大学生物地球学部	魚類咽頭歯乾燥標本 2,143点	咽頭歯モノグラフ執筆のため
5	6	鳥羽水族館	ニッポンバラタナゴ 20点	企画展「SEA 7」における日本水槽展示種として
6	9	弘前大学教育学部	貧毛類プレパラート標本 30点	分類学的研究のため
5	19	大阪市立自然史博物館	琵琶湖湖底堆積物 6点	第47回企画展に展示するため
5	25	みなくち子どもの森自然館	ヘビトンボ類標本 20点	ヘビトンボ類標本の同定および県内ヘビトンボ目昆虫相の解明
6	16	栗東歴史民俗博物館	和漢三才図会 巻七十一 1冊 滋賀県管下六郡物産図説 巻一 1冊	草津市栗東市連携展示「KURITA BLUE-名産青花と青花紙のある風景-」に展示するため
7	7	大阪大学総合学術博物館	古琵琶湖層群産ウサギ化石 1点 古琵琶湖層群産ワニ化石 3点	2016年夏季特集展覧会で展示するため

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
7	8	草津宿街道交流館	和漢三才図会 巻七十一 1冊 滋賀県管下六郡物産図説 巻一 1冊	草津市栗東市連携展示「KURITA BLUE一名産青花と青花紙のある風景」に展示するため
7	14	富山県古生物研究会	足跡化石 6点 足跡現世標本 4点	富山市八尾化石資料館「海韻館」夏季企画展の展示資料
8	17	野洲市歴史民俗博物館	宇治・瀬田川・湖南図巻 1点 湊はん志やう画卷 1点 淡海録 3点 琵琶湖定置網えり漁業細目及び漁業図 1点 居初家文書 1点 瀬田川自普請組合村絵図 1点	平成28年度秋季企画展「湖辺のくらしー琵琶湖周辺の生活史ー」への出陳および図録・広報物掲載
8	19	野洲市歴史民俗博物館	企画展示「魚漁食」作成物 12点 シジミレプリカ 1点 氷レプリカ 一式	平成28年度秋季企画展「湖辺のくらしー琵琶湖周辺の生活史ー」への出陳および図録・広報物掲載
11	20	北九州市自然史・歴史博物館	エビノコバン 3点 66匹 ミズムシモドキ 12点	滋賀県産淡水等脚類の分類学的研究
11	24	韓国ハンヤン大学自然科学部生命学科	カイアシ類液浸標本 7点	共同研究で発見した未記載種の記載論文執筆のため
1	6	野洲市歴史民俗博物館	湖魚レプリカ(シジミ) 1点 氷レプリカ 一式	平成28年度テーマ展「半農半漁の村 菖蒲ー琵琶湖のほとりに生きるー」での展示、出版物掲載、学習会での活用
1	7	きしわだ自然資料館	マイルカ全身組立骨格 1点	展示
2	23	国際湖沼環境委員会	ホテイアオイ模型 1点	琵琶湖博物館ギャラリー展示に展示するため
2	23	国際湖沼環境委員会	石鹼箱 7点 烏丸半島模型 1点 石けん運動年表 1点 本をめくれる台 1点	琵琶湖博物館ギャラリー展示に展示するため
3	1	国際湖沼環境委員会	石けん運動の割烹着 1点 石けん運動のエプロン 1点 石けん運動のたすき 1点	琵琶湖博物館ギャラリー展示に展示するため
3	2	国際湖沼環境委員会	ユリカモメ剥製 1点 アカエリヒレアシシギ剥製 1点	琵琶湖博物館ギャラリー展示に展示するため

2) 資料の譲与 5件105点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	15	岡山理科大学生物地球学部	ゲンゴロウブナ死亡個体 5個体	分類学的研究
8	26	葛西臨海水族園	セニタナゴ 30個体	生息域外保全
9	28	相模川ふれあい科学館	セニタナゴ 20個体	展示による普及啓発
12	5	京都市動物園	イチモンジタナゴ 30個体	展示および希少魚繁殖
12	26	宮津エネルギー研究所水族館	ホトケドジョウ 20個体	展示による普及啓発

3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 23件180点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	5	本庄町自治会	ハリヨ 1点	本庄町郷土資料「ふるさと」誌への掲載
5	31	湖北土地改良区	魚類 3点 水路で魚を採る少年 1点	湖北土地改良区50周年誌掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
6	29	アズマックス	冬のヨシの写真 1点	テレビ番組 (NHK BS プレミアム)「発見！体験！にっぽん水紀行」での使用
6	29	読売テレビ	ミシシippアカミミガメ 2点 (幼体・生体)	報道番組「関西情報ネット ten」での放映
6	30	野々村直夫	橋本鉄男旧蔵資料ネガフィルム 1点	ホツマ文献に関する調査
8	15	野洲市歴史民俗博物館	災害写真 2点	平成 28 年度秋季企画展「湖辺のくらしー琵琶湖周辺の生活史ー」への出陣および図録・広報物掲載
9	16	秋山廣光	滋賀県に生息する魚類写真および魚類生息環境写真	龍谷大学理工学部夏季集中講座における講義使用
9	23	大津市科学館	魚類 10点	水槽展示している魚の説明資料
11	7	岸妙子	地引網漁 17点	野洲市歴史民俗博物館企画展「湖辺のくらし」講演会での使用
11	16	県民活動生活課	滋賀県管下六郡物産図説 3点	県政史料室における企画展示でパネル等として使用
11	16	ゴッズダイナミックワールド	魚類等 4点	BS-TBS「関口宏日本風土記」にて琵琶湖を紹介する際に使用
12	7	大津市農林水産課	前野コレクション 1点	大津市農業振興ビジョンへの掲載
1	3	西野麻知子	魚類 12点	書籍へのグラビア掲載
1	4	野洲市歴史民俗博物館	湊はん志やう画卷 1点	平成 28 年度テーマ展「半農半漁の村 菖蒲ー琵琶湖のほとりに生きるー」での展
1	5	富山市ファミリーパーク	ニワトリ小屋 1点	展示解説
1	15	山崎川グリーンマップ	マゴイ 1点 ヤマトゴイ 1点	山崎川生き物図鑑の制作
1	19	耕地課	藤村和夫コレクション 2点	県内水利変遷に関する県民への啓発資料への掲載
1	26	長浜市歴史遺産課	魚類 16点	「月出の湖岸集落景観調査報告書」への掲載
1	26	東近江市立八日市図書館	ホンモロコ 1点	地域情報冊子「そこら」への掲載
2	6	吉川弘文館	滋賀県教育委員会ホウ砂報告書写真 3点	佐野静代著「中近世の生業と里海の環境史」への掲載
2	20	近江八幡市水産協議会	魚類写真 14点	市内小学生の教材用下敷きおよびクリアファイルの作成
2	28	耕地課	藤村和夫コレクション 2点	県内水利変遷に関する県民への啓発資料への掲載
2	28	大塚柳太郎	スイゼンジタナゴ 1点 ホンモロコ 1点	環境省委託業務「絶滅危惧種保全カルテ」作成の資料への添付

<館内閲覧・撮影> 20件 1,242点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	5	藪内喜人	浜端悦治モンゴル水草標本 (未登録) 一式	論文作成のための標本確認
4	28	吉安裕	滋賀県産鱗翅目昆虫 100点	滋賀県産鱗翅目昆虫目録作成調査
4	28	吉田智幸	魚類咽頭歯 29点	カワウ胃内容物の魚種判別の参考
5	6	中川永	河口遺跡等表採遺物 71点	博士論文の執筆に関する調査
6	6	栗東歴史民俗博物館 草津宿街道交流館	和漢三才図会 巻 71 1冊 滋賀県管下六郡物産図説 巻 1 1冊	草津市栗東市連携展示「KURITA BLUE 一名産青花と青花紙のある風景」のための調査
6	6	上中央子	さく葉標本 (キカシグサ属) 33点	滋賀県周辺におけるキカシグサ属植物分布の調査

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
6	24	鈴木義忠	さく葉標本（ヒトツバテンナンシヨウ） 2点	ヒトツバテンナンシヨウの南限を調べるため
6	30	野洲市歴史民俗博物館	宇治・瀬田川・湖南図巻 1点 湊はん志やう画卷 1点 淡海録 全巻 琵琶湖定置網えり漁業細目及び漁業図 1点 居初家文書 4点	平成 28 年度秋季企画展「湖辺のくらしー琵琶湖周辺的生活史ー」の開催に向けての調査
7	15	黒沢高秀	さく葉標本（イワキアブラガヤ等） 21点	標本調査
7	15	野洲市歴史民俗博物館	企画展示「魚漁食」作成物 12点 シジミレプリカ 1点	平成 28 年度秋季企画展「湖辺のくらしー琵琶湖周辺的生活史ー」の開催に向けての調査
7	31	村上大介 中西康介	水生半翅類・甲虫類乾燥標本 12箱	滋賀県昆虫目録作成のため
8	7	中川永	河口遺跡等表採遺物 43点	博士論文の執筆に関する調査
8	19	名取和香子	烏丸地区深層ボーリングコア 140点	ボーリング資料の土壌化の状態観察
9	6	山本義則	さく葉標本（スマレ類） 60点	近畿地方のスマレ類の分布調査
10	1	鮫島悠甫	骨格標本 12点	化石シカの系統解明に向けた現生シカのカテゴリ形質の抽出
11	24	藪内喜人	浜端悦治モンゴル水草標本（未登録） 一式	論文作成のための標本確認
12	18	川瀬成吾	ヌマムツ・タモロコ標本 657点	魚類の分類学的研究
1	19	西山保典	昆虫乾燥標本 2点	Athyma 属の分類研究
2	1	細谷和海	タモロコ液浸標本 33点	学術研究
2	26	守袖啓行	昆虫乾燥標本 2点	カラスアゲハ類の分類学的研究

5) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2016 年度には以下の論文が公表された。

著者	年	タイトル	雑誌名	頁	種別	活用標本
Junya Watanabe and Hiroshige Matsuoka	2015	Flightless Diving Duck (AVES, Anatidae) from the Pleistocene of Shiriya, Northeast Japan	Journal of Vertebrate Paleontology	1-22	論文	鳥類資料

(3) 資料保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物トラップ調査、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

2016 年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。映像収蔵庫の湿度が不安定であったため、4～11 月のあいだ、除湿器を用いて湿度の調整を行った。また、液浸収蔵庫・環境収蔵庫において湿度の低下が見られたため、空調機内の加湿器の点検・交換を行い、安定させることができた。

1) 収蔵庫空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間ごとに計測し、全データを保存。 ・ 温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。 ・ (温湿度センサーの較正)
定期清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・ 収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃の実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内) 乳剤散布4回、委託業者清掃実施
生物環境調査	年3回の生物環境調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年6月24日～7月5日 昆虫トラップ調査 227カ所(設置・回収・分析) ・ 2016年11月4日～11月18日 昆虫トラップ調査 252カ所(設置・回収・分析) ・ 2017年2月24日～3月10日 昆虫トラップ調査 252カ所(設置・回収・分析) *当館のIPM基準値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種(チャタテムシ)の個体数(捕獲指数)が 1

2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理(IPM)と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、本年はC展示室のリニューアルに合わせ、昆虫トラップの設置箇所を見直し、調査を行った。その結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。チャタテムシ発生源となりうる一部資料については、燻蒸室にて燻蒸処理を行い、展示収蔵エリアの特別清掃を行った。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を4回、エキヒューム燻蒸を1回実施した。また、2004年度にフロン規制に伴って現在の設備に改修して以来、初めて小型燻蒸庫でのエキヒューム燻蒸を1回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2 研究を進めて活かせる博物館

研究推進

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

現在、研究部では2015年3月に策定された新琵琶湖博物館創造基本計画に従い、3つの役割である1)「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動する博物館、2)次代を担う人が育つ拠点となる博物館、3)地域活性化の核となる博物館を、博物館の研究活動を通じて具現化することを目指している。そのため、今年度から2016年度から2020年度の5年間の研究活動方針および行動計画を策定し、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探っていく。この役割や活動はこれからも継続していく予定である。主な研究の方向性は以下の3つである。

- ・琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進

琵琶湖博物館の専門、共同、総合研究や外部資金による研究を組み合わせる。

- ・「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究

国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究を行う。

- ・「木から森へ」の博物館学の追求

博物館機能を活用して誰もが琵琶湖博物館の活動を知り、研究や事業に参加できるための博物館学研究を行う。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究計画書ならびに説明によって、研究審査委員会の審査を受け、その結果を踏まえて、当館で行う研究課題が決まる。2016年度は、次の研究課題が実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の1件であった。

- ・前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究

代表者：橋本道範，研究期間：2014～2018年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の5件であった。

- ・古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～

代表者：大塚泰介，研究期間：2012～2016年度

- ・侵略的外来魚の生息抑制技術の新規開発・高度化に関する研究

代表者：中井克樹，研究期間：2014～2016年度

- ・大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元

代表者：林 竜馬，研究期間：2015～2017年度

- ・自然資源を活かした地域再生のありかたに関する研究

代表者：楊 平，研究期間：2016～2019年度

- ・微小な生物を用いた交流プログラムの開発

代表者：松田征也，研究期間：2016～2018年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとの区別している。

＜申請専門研究＞

- ・イバラモの繁殖生態に関する研究（芦谷美奈子）
- ・琵琶湖地域における化石ヒシ属の果実形態からみた分類とその変遷（山川千代美）
- ・滋賀県におけるカヤネズミの生息適地と連続性の評価（澤邊久美子）
- ・カワウと森と人の関係史に関するデータベース構築（亀田佳代子）
- ・南湖の沈水植物分布調査方法の開発（芳賀裕樹）
- ・寄生性生物および田んぼにおける甲殻類に関する研究（グライガー, M. J.）
- ・琵琶湖南湖の湖岸沖合堆積物に関する基礎的研究（里口保文）
- ・展示リニューアルのための琵琶湖誕生期の動植物相の解明（高橋啓一）

＜専門研究＞

- ・琵琶湖を中心とした人と自然の関係をめぐる研究・交流・展示（篠原 徹）

環境史研究領域担当

- ・日本中世史は「種」を問題とすることができるかー環境史への挑戦ー（橋本道範）
- ・棚田をめぐる文化的景観の保存（楊 平）
- ・琵琶湖地域での定量的植生復元に向けたシミュレーションモデルの検討（林 竜馬）
- ・現代の山村集落における森林の利用・管理（大久保実香）
- ・愛知川の土砂動態に関する研究（北井 剛）
- ・琵琶湖を介した縄文文化の情報網の解明（妹尾裕介）

生態系研究領域担当

（基礎地域研究班）

- ・琵琶湖とその集水域の昆虫相の変遷に関する研究（八尋克郎）
- ・希少淡水魚における性決定について（松田征也）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（柘永一宏）
- ・日本の田んぼのカイミジンコ分類学を再調査する（ロビン ジェームス スミス）
- ・農地制度等の変遷からみた滋賀県農業施策の方向性の研究（下松孝秀）
- ・自治体環境行政における「組織的知識」の解明（浦山重雄）

（応用地域研究班）

- ・琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究（桑原雅之）
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・木育の導入に向けて（安福俊幸）
- ・琵琶湖産アユにおける摂餌なわばりの長期観察（山本充孝）
- ・交雑マミズクラゲの性別の解析（鈴木隆仁）

博物館学研究領域担当

- ・水田における珪藻の環境指標性の研究（大塚泰介）
- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究（金尾滋史）
- ・近江村落における森林資源管理の多層性（渡部圭一）

- ・飼育下バイカルアザラシの移動による摂餌量の変化の分析（松岡由子）
- ・小学校における博物館の有効活用（岡部陽造）
- ・学校と博物館それぞれの特色を活かした連携のあり方（小林偉真）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
林田 明	同志社大学理工学部 教授
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
西 源二郎	公益財団法人東京動物園協会 理事
太田 義人	滋賀県総合教育センター 主査
濱崎 一志	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 教授
瀬田 勝哉	武蔵大学 名誉教授
細谷 和海	近畿大学農学部環境管理学科 教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
津田 清和	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

篠原 徹

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究代表者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「北東アジアにおける最終氷期最盛期の主要樹木分類群の分布と古植性」研究分担者（2014～2017年度）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究代表者（2015～2018年度）

楊 平

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究分担者（2013～2016年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」研究代表者（2013～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「北東アジアにおける最終氷期最盛期の主要樹木分類群の分布と古植性」研究分担者（2014～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「ボルネオ島泥炭掘削：過去4000年間の熱帯大気対流活動の復元」研究分担者（2015～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「人工減少後の地域コミュニティとその資源管理」研究代表者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

八尋克郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

榊永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2014～2016年度）

ロビン ジェームス スミス

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「新たな生物進化モデルの展開：日本海多様化工場説とその世界的インパクト」研究分担者（2014～2017年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

中井克樹

- ・環境省地球環境研究総合推進費「特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発」サブテーマ「琵琶湖におけるオオクチバス等の重点的防除対策」研究代表者（2014～2016年度）

澤邊久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「鉍質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」研究代表者（2015～2018年度）

芦谷美奈子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」研究分担者（2012～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツ

ルの開発」研究分担者（2013～2017年度）

渡部圭一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究 B）「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明：物質文化研究の視点から」研究代表者（2015～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東北型社会の特質に関する史的研究：地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」研究分担者（2015～2019年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「近代地方公文書アーカイブズと民間アーカイブズの構造・情報・関連性に関する総合研究」連携研究者（2014～2016年度）

用田政晴

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究代表者（2013～2016年度）

天野一葉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「遺伝情報に基づいた侵略的外来種ソウシチョウの駆除管理ユニットの策定」研究代表者（2015～2016年度）

朱 偉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「Microcystisの群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」研究代表者（2015～2017年度）

中野正俊

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「児童の理科学力と学習意欲向上に寄与する博物館・学校・地域連携モデルの開発と汎用化」研究代表者（2015～2017年度）

北村美香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」研究分担者（2012～2016年度）

川瀬成吾

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「スウェーデンのVega号資料に基づく明治初期の日本研究と琵琶湖環境の復元」研究分担者（2015～2018年度）

藤岡康弘

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

<研究調査業務受託>

- ・環境省 地球環境研究総合推進費「特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発」（2014～2016年度）

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・篠原耕平 2015年12月1日～2016年11月30日
テーマ：珪藻をマーカーとした藻食魚類の摂食場所の研究
- ・北村美香 2016年1月15日～2017年1月14日,
テーマ：利用者のための生涯学習システムの構築
- ・辻川智代 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史的変遷を通じた地域文化研究

- ・黒岩啓子 2016年6月1日～2017年3月31日
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びを支える展示評価・来館者調査
- ・柏尾珠紀 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：琵琶湖周辺部農漁村におけるジェンダーの社会的考察
- ・川瀬成吾 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：琵琶湖・淀川流域の魚類多様性をめぐる保全分類学的研究
- ・廣石伸互 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：アオコの溶藻細菌および溶藻酵素に関する研究
- ・朱 偉 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：吹送流による*Microcystis*の群体集積およびアオコ発生メカニズムの研究
- ・中野聰志 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：滋賀県琵琶湖周辺花崗岩類・国内外関連花崗岩類及びそれらに伴う鉱物類の地質学的研究及び
標本収集・整理
- ・天野一葉 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究
- ・草加伸吾 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：モンゴルフブスグル湖集水域および、半乾燥地での森林再生促進研究／湿地の植物と水質、水
環境の関わり研究
- ・中野正俊 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習
- ・矢田直樹 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：滋賀県内の祭礼行事や民間信仰に関する歴史民俗学研究
- ・高梨純次 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：近江の仏像からみた仏教の展開と生活空間
- ・瀬口眞司 2016年4月1日～2017年3月31日
テーマ：縄文時代を中心とする人類の資源利用と自然観の通時的変遷に関する研究
- ・Blakemore Robert John 2016年9月1日～2017年3月31日
テーマ：Ecological Biodiversity of Earthworms (mimizu) in and Around Lake Biwa Satoyama
- ・前畑政善 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：水田魚類の研究
- ・布谷知夫 2014年4月1日～2019年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・川那部浩哉 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・用田正晴 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究

研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/research/>) に掲載した。

<原著論文>

- Iijima, M., Takahashi, K. and Kobayashi, Y. (2016) The oldest record of Alligator sinensis from the Late Pliocene of Western Japan, and its biogeographic implication. *Journal of Asian Earth Sciences*, 124: 94-101.
- 高橋啓一・島口 天・馬場理香・北川博道 (2016) 青森県陸奥湾から産出した長鼻類化石の再検討. *化石研究会会誌*, 49: 87-91.
- 島口 天・高橋啓一 (2016) 青森県内で採集されたウマ標本の AMS¹⁴C 年代. *化石研究会会誌*, 49: 82-86.
- Kajihara, H., Takibata, M. and Grygier, M. J. (2016) Occurrence and molecular barcode of the freshwater heteronemertean *Apatronemertes albimaculosa* (Nemertea: Pilidiophora) from Japan. *Species Diversity*, 21 (2), 日本動物分類学会: 105-110.
- Yamakawa, C., Momohara, A., Saito, A. and Nunotani, T. (2017) Composition and paleoenvironment of wetland forests dominated by Glyptostrobus and Metasequoia in the latest Pliocene (2.6Ma) in central Japan. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 467: 191-210.
- Yabe, A. and Yamakawa, C. (2016) Revision of *Cunninghamia protokonishii* Tanai et Onoe (Pinopsida, Cupressaceae) from East Asia. *Paleontological Research*, 2016年12月15日.
- 里口保文 (2016) 宮崎層群とのテフラ対比からみた津房川層最下部の年代. *地質学雑誌*, 122: 223-229.
- 橋本道範 (2016) 地域環境史の課題. *日本史研究*, 649: 40-65.
- Hayashi, R., Takahara, H., Inouchi, Y., Takemura, K. and Igarashi, Y. (2017) Vegetation and endemic tree response to orbital-scale climate changes in the Japanese archipelago during the last glacial-interglacial cycle based on pollen records from Lake Biwa, western Japan. *Review of Palaeobotany and Palynology*, 241, Elsevier: 85-97.
- Hyodo, F., Kuwae, M., Sasaki, N., Hayashi, R., Makino, W., Kusaka, S., Narumi K. Tsugeki, Ishida, S., Ohtsuki, H., Omoto, K. and Urabe, j. (2017) Variations in lignin-derived phenols in sediments of Japanese lakes over the last century and their relation to watershed vegetation. *Organic Geochemistry*, 103, Elsevier: 125-135.
- 河瀬直幹・白神慶太・白神大輝・遠藤真樹・井野勝行・十亀正暉・澤田弘行・八尋克郎 (2016) 琵琶湖におけるメガネサナエ・オオサカサナエの羽化殻分布と羽化の季節消長. *Aeschina*, 52: 17-26.
- Matzke-Karasz, R., Smith, R. J. and Heß, M. (2016) Removal of extracellular coat from giant sperm in female receptacle induces sperm motility in *Mytilocypris mytiloides* (Cyprididae, Ostracoda, Crustacea). *Cell and Tissue Research*, DOI 10.1007/s00441-016-2507-6.
- Smith, R. J., Matzke-Karasz, R. and Kamiya, T. (2016) Sperm length variations in five species of cypridoidean non-marine ostracods (Crustacea). *Cell and Tissue Research*, DOI 10.1007/s00441-016-2459-x.
- 前田雅子・秋山弘之・芦谷美奈子 (2016) イチョウウキゴケの生活史 1 水田環境における生殖器官ならびに胞子体の成長の観察. *人と自然 Human and Nature*, 27, 兵庫県立人と自然の博物館: 45-54.
- Sawabe, K. and Natsuhara, Y. (2016) Extensive distribution models of the harvest mouse (*Micromys*

- minutus*) in different landscapes. *Global Ecology and Conservation*, 8: 108-115.
- Ohtsuka, T. (2016) Interactive museum activities that provide venues for innovation: case study from the Lake Biwa Museum. In: Sonoda, N. (ed.) *New Horizons for Asian Museums and Museology*, Springer, Berlin·Heidelberg: 155-163.
- Mimura, T. and Ohtsuka, T. (2016) Diatoms of Yamamuro Moor, a *Sphagnum* moor situated in the warm-temperate zone in Shiga Prefecture, central Japan. *Diatom*, 32, 日本珪藻学会: 24-32.
- 渡部圭一 (2016) 頭人差定文書の儀礼と管理—近江大篠原天王社の頭役祭祀を事例に. *宗教民俗研究*, 日本宗教民俗学会, 24・25 合併号: 52-71.
- 渡部圭一 (2016) 頭役祭祀における禁忌と神職. *淡海文化財論叢*, 淡海文化財論叢刊行会, 8: 259-264.
- 渡部圭一 (2017) 生活と習俗の史料学序説. *現代民俗学研究*, 現代民俗学会, 9: 77-81.
- 渡部圭一・芳賀和樹・福田 恵・湯澤規子・加藤衛弘 (2017) 公務日記にみる近代村の成立過程—秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻. *筑波大学農林社会経済研究*, 筑波大学大学院生命環境科学研究科農林社会経済学領域, 32: 1-67.

<専門分野の著述>

- International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2387 (Case 3645) - *Orthezia characias* [Bosc d' Antic], 1784 (Insecta, Hemiptera, ORTHEZIIDAE): generic and specific names available. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature: 158-160 [特にグライガー委員の意見: 159].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2389 (Case 3656) - *Cerambyx striatus* Goeze, 1777 (currently *Dorcadion glycyrrhizae striatum*) and *Cerambyx striatus* Fabricius, 1787 (currently *Chydarteres striatus*) (Insecta, Coleoptera, CERAMBYCIDAE): specific names conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature: 164-166 [特にグライガー委員の意見: 165].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2392 (Case 3665) - *Musca purpurascens* Walker, 1836 (Insecta, Diptera, CALLIPHORIDAE): conservation of prevailing usage of the specific name by designation of a neotype. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature: 172-174 [特にグライガー委員の意見: 173].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2394 (Case 3668) - *Conus antidiluvianus* Bruguiere, 1792: prevailing usage of the specific name conserved by setting aside the unidentifiable lectotype and replacing it with a neotype (Mollusca, Gastropoda, CONIDAE). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73 (2-4), International Commission on Zoological Nomenclature: 177-178 [特にグライガー委員の意見: 178].
- 山川千代美・神谷悦子・布谷知夫 (2017) 滋賀県多賀町四手産の大型植物化石に基づく古植生. 多賀町立博物館報告書: 27-37.
- Ito, M., Kameo, K., Satoguchi, Y., Masuda, F., Hiroki, Y., Takano, O., Nakajima, T. and Suzuki, N. (2016) Neogene-Quaternary sedimentary successions. In: Moreno, T., Wallis, S., Kojima, T. and Gibbons, W. (eds) *The Geology of Japan*. *Geological Society*, London: 306-337.
- 橋本道範 (2016) 室町時代の「ふなずし」—山科家と蜷川親元の日記から—. 橋本道範 編, *再考 ふなずしの歴史*, サンライズ出版, 滋賀県: 102-141.
- 橋本道範 (2016) 「湖辺」のムラの確立と創造—「非力の村」論からみる—. *神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報 LINK【地域・大学・文化】*, 8: 22-33.
- 橋本道範 (2016) わかってきた「ふなずし」の歴史. *日本調理科学会誌*, 50-1: 35-37.

- 橋本道範 (2017) 『近江水産図譜』を読むー琵琶湖漁撈の構図ー. *歴史と民俗*, 33, 神奈川大学日本常民文化研究所: 45-74.
- 楊 平 (2017) 名水の旅から見えてくるもの. まほら, 旅の文化研究所.
- 林 竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司 (2017) 滋賀県の遺跡における古生態学データの集成ー琵琶湖地域における人と森の相互関係史解明に向けてー. *紀要*, 30, 公益財団法人滋賀県文化財保護協会: 97-105.
- 大久保実香 (2017) 暮らしに息づく願いと祈り. *やまだらけ*, 80, 早川町フィールドミュージアム実行委員会: 1-4.
- 妹尾裕介 (2016) 船元式の変遷と展開ー友岡遺跡出土資料を軸としてー. 原 秀樹 編, 友岡遺跡ー長岡京跡右京第 325 次調査ー, 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター, 京都: 55-62.
- 妹尾裕介 (2016) 第 I 部 角間遺跡. 佐々木花江 編, 金沢大学構内遺跡ー角間遺跡、室町・鶴間遺跡ー, 金沢大学埋蔵文化財調査センター, 石川: 1-141.
- 妹尾裕介 (2017) 第 5 章第 8 節第 8 遺構面 2. 遺物 (1) 土器. 木許守・小泉翔太・村島有紀 編, 玉手遺跡, 御所市教育委員会, 奈良: 59-99.
- 森 誠一・小北智之・松田征也 (2016) 滋賀県ハリヨの危機. *魚類学雑誌*, 63 (2): 148-152.
- 吉武 啓・八尋克郎・伊藤元己 (2017) 滋賀県立琵琶湖博物館所蔵の日本産ゾウムシ上科標本 (江本健一コレクション) 目録 (2) ミツギリゾウムシ科. *象鼻虫*, 11: 7-11.
- 八尋克郎 (2016) 昆虫類の概要. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015 年版*, サンライズ出版: 410.
- 八尋克郎 (2016) クロカタビロオサムシ・セアカオサムシ・オサムシモドキ・クロケブカゴミムシ・コキベリアオゴミムシ・ヒメボタル・ムナグロチャイロテントウ・アキオサムシ・シガラキオサムシ・サメメクラチビゴミムシ・イシダメクラチビゴミムシ・オオヒョウタンゴミムシ・キベリマルクビゴミムシ. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015 年版*, サンライズ出版: 461・462・463・502・503・518・519.
- Motoko S. Fujita and Kayoko O. Kameda (2016) Nutrient Dynamics and Nutrient Cycling by Birds, *Çagan H. Sekercioglu, Daniel G. Wenny, and Christopher J. Whelan eds, Why Birds Matter: Avian Ecological Function and Ecosystem Services*, The University of Chicago Press: 271-297.
- 亀田佳代子 (2016) 鳥類 33 種の解説. 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県レッドデータブック 2015 年版ー*, サンライズ出版: 341, 345-346, 350-351, 353, 358-366, 373, 382-384, 386.
- 山本充孝 (2016) 士と師の違い (魚類防疫士と医師, 獣医師との違い). *魚類防疫士連絡協議会会報*, 魚類防疫士連絡協議会, 47: 16-17.
- 猪谷富雄・畑 信吾・大久保卓也・谷口真一・大塚泰介・近藤倫生・野田公夫・泉 泰弘 (2017) 日本作物学会第 242 回講演会シンポジウム 2 琵琶湖の環境と農業 (2016 年 9 月 10 日 於龍谷大学). *日本作物学会紀事*, 86, 日本作物学会: 87-96.
- 戸田 孝 (2017) ミュージアムへ行こう! 滋賀県立琵琶湖博物館. *理大科学フォーラム*, 34 (4), 東京理科大学: 48-51.
- 金尾滋史 (2016) ビワコガタスジシマドジョウ. *環境省第 5 次レッドリストチェックシート*, 環境省自然環境局野生生物課.
- 金尾滋史 (2016) ヨドコガタスジシマドジョウ. *環境省第 5 次レッドリストチェックシート*, 環境省自然環境局野生生物課.
- 金尾滋史 (2016) 淡水魚類 (ハリヨ、ホトケドジョウ等 11 種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015 年版*, サンライズ出版, 滋賀県: 547-573.

- 金尾滋史 (2016) 淡水貝類 (カタハガイ、オグラヌマガイ等8種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015年版, サンライズ出版, 滋賀県: 575-596.
- 金尾滋史 (2016) 陸産貝類 (ヤコビマイマイ、カナマルマイマイ等23種). 滋賀県生きもの総合調査委員会 編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015年版, サンライズ出版, 滋賀県: 597-621.
- 金尾滋史 (2017) DNA 解析による滋賀県内におけるスナヤツメ北方種・南方種の分布. 滋賀県生きもの総合調査報告書, 滋賀県生きもの総合調査委員会: 12.
- 渡部圭一 (2016) 泰福寺・高石神社のオビシヤ (高石神). 千葉県市川市史編さん民俗部会オビシヤ調査グループ 編, 市川のオビシヤとオビシヤ文書 (市川市史編さん事業調査報告書), 市川市文化スポーツ部文化振興課: 44-47.
- 渡部圭一 (2016) 幸津川すし切り神事. 橋本道範 編, 再考ふなずしの歴史, サンライズ出版: 143-148.
- 渡部圭一 (2017) 近代移行期の「村の年代記」—越谷市越巻中新田のオビシヤ文書. 埼玉民俗, 埼玉民俗の会, 41: 67-82.
- 渡部圭一 (2017) 戦後の地域自治会と村落組織—四丁目富士見会 (滝ノ上) の事例. 立川市史民俗部会 2016年度年次報告書, 立川市史民俗部会: 9-16.
- 松岡由子 (2017) バイカルアザラシが仲間入りしました. 滋賀県獣医師会会報 新春号, 1 (21), 公益財団法人 滋賀県獣医師会: 16-17.

(2015年度までの研究業績)

<専門分野の著述>

- 渡部圭一・村上忠喜 (2014) 新日吉神宮小五月会. 京都の民俗文化総合活性化プロジェクト実行委員会 編, 京都 研録のまつり 調査報告書2 民俗調査編: 75-84.

(2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。その研究成果発信の一環として、昨年度から引き続き「新琵琶湖学セミナー」を開催した。2016年度は、7月にC展示室・水族展示室がリニューアルオープンしたことから、計3回のセミナー全体のテーマを「リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み—」とした。リニューアルにかかわる研究成果を詳しく紹介することで、新展示の内容を深く理解してもらうことがねらいである。展示作成にかかわった学芸員がその制作過程やこだわりなどを紹介し、新展示の細部まで気付いて頂くこともねらいとした。

具体的な内容は下記の通りである。各回、当館学芸員1人と館外の研究者1人による2講演とし、講演時間は50分ずつで、テーマごとに深く掘り下げた講演内容を組み合わせた。一般参加者数はのべ137人で、熱心な参加者が多く、質疑も活発に行われた。

開講日: 2017年1月28日(土)・2月25日(土)・3月25日(土)

開講時間: 13:30~16:00

会場: 琵琶湖博物館セミナー室

- 第1回 1月28日(土) 琵琶湖の魚と魚をめぐる文化の多様性—水族展示室の舞台裏— 参加者52名
「水族展示で『魚と人の関わり』をどう伝えるか?」 金尾滋史 (琵琶湖博物館主任学芸員)
「琵琶湖の魚を食べる文化の多様性」 堀越昌子 (京都華頂大学現代家政学部教授)

- 第2回 2月25日(土) 森と生き物と人とのさまざまな関わり—C展示室の舞台裏— 参加者 39名
「カワウ—森と川と湖をつなぐやっかいもの— 亀田佳代子(琵琶湖博物館総括学芸員)
「竹生島におけるカワウと人とのかかわり」 藤井弘章(近畿大学文芸学部准教授)
- 第3回 3月25日(土) 古代湖・琵琶湖の固有種と生物多様性 参加者 46名
「琵琶湖の無脊椎動物を探る—その多様性と固有性」マーク・J・グライガー(琵琶湖博物館上席総括学芸員)
「琵琶湖固有種に固有の寄生虫はいるのか?」 浦部美佐子(滋賀県立大学環境科学部教授)

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

毎月第3金曜日 13:15~15:15 に以下の研究セミナーを開催した。(場所:琵琶湖博物館セミナー室)

- 第1回 2016年4月15日(金) 参加者 31名
大久保実香 現代山村における他出者の重要性
ロビン・ジェームス・スミス カイミジンコ(甲殻類)のキプリス上科の生殖について
松田征也 アユモドキの生息域外保全と連携展示
- 第2回 2016年5月20日(金) 参加者 44名
芦谷美奈子 内湖データベースが目指すもの
大塚泰介 21世紀の滋賀県におけるハッタミミズの分布
桑原雅之 琵琶湖水系に生息していたとされるアマゴの正体?
- 第3回 2016年6月17日(金) 参加者 34名
亀田佳代子 カワウと森と人の関係史に関するデータベース構築
八尋克郎・林 成多 滋賀県多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石—第四次発掘調査の成果—
金尾滋史 博物館は地域の疑問にどう挑む?~博物館によせられる質問から見た地域のニーズ~
- 第4回 2016年7月22日(金) 参加者 33名
戸田 孝 「自然史博物館」での「科学館的手法」—「駅前科学館」の役割からの考察—
山川千代美 滋賀県多賀町四手丘陵のアケボノゾウ発掘に伴う古植生復元
草加伸吾 半乾燥地での森林再生において倒木が雨を集めることの重要性
- 第5回 2016年8月19日(金) 参加者 34名
林 竜馬 琵琶湖地域での定量的植生復元に向けたシミュレーションモデルの検討
渡部圭一 「美しい松明」の民俗誌—ヨシ松明展示の制作過程から—
寺本憲之 ドングリの木はなぜイモムシ、ケムシだらけなのか?
- 第6回 2016年9月16日(金) 参加者 32名
橋本道範 地域環境史の課題Ⅲ—総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」の取り組み—
里口保文 琵琶湖堆積盆の堆積速度
藤岡康弘 ホンモロコ *Gnathopogon caerulescens* の繁殖戦略
- 第7回 2016年10月28日(金) 参加者 24名
山本充孝 琵琶湖産アユのなわばりと攻撃行動
澤邊久美子 滋賀県と大阪府におけるカヤネズミの分布特性の違い
北井 剛 愛知川の土砂移動に係る課題と今後の対策案について
- 第8回 2016年11月18日(金) 参加者 33名
鈴木隆仁 琵琶湖集水域の腹毛動物相

- 榊永一宏 アシナガバエ科 *Cemocarus* 属の分類と生物地理
 川那部浩哉 本を読むということ 3 (番外編 1) 小説・論文・展示をく作る>
 第9回 2016年12月16日(金) 参加者 27名
 下松孝秀 県における集落営農の増加要因と環境保全型農業について
 芳賀裕樹 2016年の南湖の水草の状況
 浦山重雄 県環境行政の過去とこれから
 第10回 2017年1月20日(金) 参加者 37名
 松岡由子 バイカルアザラシの移動による摂餌量の変化について
 楊 平 資源利用がコミュニティにもたらす意味
 中野聰志 長石微細組織の謎
 第11回 2017年2月17日(金) 参加者 29名
 岡部陽造 小学校における博物館の有効活用
 マーク・ジョセフ・グライガー 固有種の可能性がある数多くの琵琶湖産微小動物について
 柏尾珠紀 稲作農業の機械化と女性農業労働 ー湖東部平場地域集落の調査からー
 第12回 2017年3月17日(金) 参加者 32名
 小林偉真 学校と博物館それぞれの特色を活かした利用法
 高橋啓一 琵琶湖博物館と私の研究
 川瀬成吾 琵琶湖・淀川流域の魚類多様性をめぐる保全分類学的研究
 スウェーデンの冒険船Vega号が持ち帰った日本産淡水魚標本

なお、2016年10月21日に特別研究セミナーを開催したため、第7回のみ、第4金曜日(10月28日)に開催した。

2) 特別研究セミナー

2016年度は特別研究セミナーを10月21日(金) 13:00~16:40に開催した。
 詳細は、国際シンポジウム(2) P.6参照

(4) 琵琶湖博物館ブックレット

新琵琶湖博物館創造基本計画および行動計画に従い、研究成果をわかりやすく伝えていくため、新たに琵琶湖博物館ブックレットシリーズを刊行した。琵琶湖や近江の自然や文化を題材として、その面白さ、不思議さなどを語りながら、それらが全国的にあるいは世界的に見ても興味深いものであることを、県内外の人に発信することを目的としている。内容は、初めてそれを読む人にもわかりやすい書き方をするとともに、図や写真を豊富に使用して見て楽しめる本をめざしている。

第1期分：テーマ「琵琶湖のいきものの不思議」

- 第1号「ゾウやワニもいた琵琶湖」 高橋啓一(琵琶湖博物館)
 第2号「きみも寄生虫博士になろう」 浦部美佐子(滋賀県立大学)
 第3号「田んぼにいるイタチムシ」 鈴木隆仁(琵琶湖博物館)

研究交流

(1) 国際協定

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究・交流の国際的ネットワークを確立し、海外関係機関との連携を強化して研究活動および展示の国際化を推進するため、これまでの海外博物館

との関係を維持するとともに、必要に応じて新たな関係を構築している。締結内容としては、次の5項目である。そのほか、研究および資料、展示についての協力内容が特定される場合は、別途協議して契約を結ぶものとされる。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換（生きた生物を含む）
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2016年度は新たにマケドニア共和国オフリド水生生物研究所と国際協定を締結した。オフリド水生生物研究所は1935年に設立された研究と教育のための施設である。湖沼・河川・ダムを研究対象とし、物理化学・微生物・植物プランクトン・動物プランクトン、底性動物・水草・魚類・水産・毒性学・分子生物学の分野で研究を行っているほか、マス類の増殖事業にも取り組んでいる。同研究所はオフリド湖の湖畔に建っている。オフリド湖はマケドニア共和国とアルバニア共和国にまたがる面積358km²、最大水深288m、平均水深155mの淡水湖で、多数の固有種が生息する古代湖である。周囲には文化財も多く、ユネスコの世界遺産（複合遺産）に登録されている。

同研究所との最初の接触は2009年9月にオフリド水生生物研究所で開かれた国際古代湖学会（SIAL）に遡る。この会議に川那辺前館長が出席しており、オフリド水生生物研究所より両機関で協定を結ぶことについての提案を受けた。その後の調整はなかなか進まなかったが、このたび合意に至り、2017年1月17日にオフリド水生生物研究所で調印式を行うことができた。

相互協力の同意書の有効期日は、署名日から5年間、ただし、撤回しない限り自動更新するとしている。



オフリド水生生物研究所での調印式

右：エリザベータ・V・サラフィロスカ オフリド水生生物研究所 所長
左：篠原 徹 琵琶湖博物館 館長

(2) 研究機関との協力

新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針として、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究を進めるため、次のような活動を行った。

1) 韓国国立洛東江生物資源館

韓国国立洛東江生物資源館は、韓国の淡水生物を研究する専門機関で、淡水生物の発掘、確保、遺伝的特性研究、生理活性の研究、産業化などを研究している。これらの内容を教育と展示を通じて国民を対象に、様々な動物、植物、微生物に対して通知し、これに関連した多様な教育プログラムを開発し、提供活動を行う機関である。

2016年1月当館上席総括学芸員グライガー (Grygier, M. J.) 氏と洛東江生物資源館の張 (Dr. Cho Joo-Lae) 氏との間で研究協力について意見交換を行い、それを受けて、2016年7月29日に洛東江生物資源館のユンナム氏から当館に、韓国国立洛東江生物資源館では、琵琶湖博物館の博物学と生物学的研究活動について

て大きな関心を持っており、淡水生物の研究と展示・教育プログラムの情報を共有し、共同のイベント開催を推進したいという趣旨の連絡を受けた。

今後、韓国国立洛東江生物資源館と琵琶湖博物館が、博物学や生物学的研究活動について、淡水生物の研究と展示・教育プログラムの情報共有、共同のイベント等の開催について相互協力できるかどうかを模索するための情報交換、協議を行なった。

○第1回 合同セミナーの開催

期間：2016年11月8日（火）

場所：韓国 国立洛東江生物資源館 (Nakdonggang National Institute of Biological Resources)

内容：「滋賀県立琵琶湖博物館の研究活動について」

亀田佳代子総括学芸員 研究部生態系研究領域長

「琵琶湖博物館の展示と交流活動について」

松田征也総括学芸員 環境学習センター長

「琵琶湖博物館の国際的協力協定について」

芳賀裕樹総括学芸員 企画調整課長

他、洛東江生物資源館より2題の発表

○第2回 合同セミナーの開催

期間：2016年12月8日（木）

場所：滋賀県立琵琶湖博物館 セミナー室

参加者：韓国洛東江生物資源館からの参加者：6名

Nam Hyon Soo ナム・ヒョン展示教育室長

Kang Seok-Jae カン・ソクジェ教育部長

Kim Sun-Yu キム・ソンユ研究員

Kim Hak Joo キム・ハクジュ研究員

Yu Jeong-Nam ユ・ジョンナム淡水生物多様性研究室主任研究員

Lee Mi-Hwa イ・ミファ淡水生物調査研究室主任研究員

内容：

第1報告 Yu Jeong-Nam ユ・ジョンナム

Nakdonggang National Institute of Biological Resources :
Freshwater Bioresources Research Office.

「国立洛東江生物資源館：淡水生物資源研究室について」

第2報告 Lee Mi-Hwa イ・ミファ

Freshwater microorganisms : phylogenetic analysis and
identification of protist, fungi and bacteria.”

「淡水の微小生物：原生動物・菌類・バクテリアの系統解析と同定」

第3報告 Nam Hyon Soo ナム・ヒョン・スー

Nakdonggang National Institute of Biological Resources ;
Exhibition & Education Bureau.

「国立洛東江生物資源館：展示・教育部門について」

第4報告 KAWASE Seigo 川瀬成吾

Systematics and Evolution of small benthic *Biwia* and
Microphysogobio in far-eastern Asia

「極東アジアにおける小型底生魚ゼゼラ属とコブクロカマツカ属の系統と進化」

2) 試験研究機関の連絡活動

琵琶湖と滋賀県に関する試験研究機関連絡会議は、県立の9つの試験研究機関が、相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として設置運営している。

2016年度は、11月27日に琵琶湖博物館ホールにおいて「平成28年度 滋賀県試験研究機関研究発表会～淡海の明日を考える～」を開催した。今年度は、琵琶湖をはじめとする環境や湖魚、近江牛に関する試験研究など、アトリウムにて8件のポスター発表および各機関紹介、ホールにおいて6件の口頭発表が行われた。当館からは、ポスター発表として企画展示、口頭発表として常設展示リニューアルを題材に、研究成果の発信と展示の関係について紹介した。

(3) 海外活動

1) 研究に関する国際用務

橋本道範

- ・2016年12月11日～12月13日、台湾・故宫博物院、琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」にかかる研究調査

楊 平

- ・2016年6月27日～6月30日、中華人民共和国江蘇省常州市資料館および杭州市博物館ほか、科研費基盤研究(B)「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」にかかる研究会参加ならびに社会学会参加および現地調査
- ・2016年9月8日～9月17日、中華人民共和国無錫市無錫博物館・資料館、杭州市周辺、科研費新学術領域研究(研究領域提案型)「稲作と中国文明－総合稲作文明学の新構築－」研究調査にかかる打合せ会議および現地調査
- ・2016年11月6日～11月13日、インドネシア・バリ、科研費新学術領域研究(研究領域提案型)「稲作と中国文明－総合稲作文明学の新構築－」にかかる研究発表および世界湖沼会議への参加

林 竜馬

- ・2016年8月27日～9月5日、マレーシア ボルネオ島、科研費基盤(C)泥炭堆積物試料採取のための調査
- ・2016年10月21日～10月31日、ブラジル・サルバドール、科研費若手研究(B)「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」にかかる国際会議への参加および成果発表

柗永一宏

- ・2017年3月7日～30日、オマーン、カタール、セイシエル、モルディブ、科研費基盤(C)「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」野外調査

ロビン ジェームス スミス

- ・2016年6月26日～7月1日、中華人民共和国雲南省古生物重点研究所および雲南大学、第2回アジア貝形虫研究者会議への招聘による参加および講演

2) 事業に関する国際用務

篠原 徹

- ・2017年1月13日～20日、マケドニア共和国オフリド水生生物研究所、相互協力の合意書調印式

高橋啓一

- ・2017年1月13日～20日、マケドニア共和国オフリド水生生物研究所、相互協力の合意書調印式

亀田佳代子

・2016年11月7日～9日，韓国国立洛東江生物資源館，国際セミナー発表および施設見学

桑原雅之

・2016年10月3日～8日，ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ（バイカル博物館），水族展示リニューアル用務

松田征也

・2016年11月7日～9日，韓国国立洛東江生物資源館，国際セミナー発表および施設見学

芳賀裕樹

・2016年11月7日～9日，韓国国立洛東江生物資源館，国際セミナー発表および施設見学

ロビン ジェームス スミス

・2017年1月13日～20日，マケドニア共和国オフリド水生生物研究所，相互協力の合意書調印式

金尾滋史

・2016年10月3日～8日，ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ（バイカル博物館），水族展示リニューアル用務

研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、湖と人間との関係を過去から現在まで研究調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民・地域の人々とともに考え、今後の望ましいあり方を探求することを使命としている。博物館は県民や社会の期待を担い成長発展していく博物館であり、信頼される研究調査を行わなければならない。しかしながら近年、研究活動における不正行為が国内外で生じ、研究者や研究機関への社会的信用を失墜させる事態を招いている。このような状況を鑑み、博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版（平成25年1月25日）および「博物館関係者の行動規範」（日本博物館協会平成23年3月）に準拠した行動規範を定め、公正な博物館活動を推進していくこととなった。

2016年7月には「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」をはじめ、次のような研究活動に関する規程集の整備を行なった。

- 滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程（平成28年7月1日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範（平成28年7月1日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館調査研究活動における不正行為防止計画（平成28年7月1日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館の研究活動における不正行為に係る調査等に関する要綱（平成28年7月1日，平成29年3月27日改正）
- 滋賀県立琵琶湖博物館公的研究費取扱要領（平成28年7月1日）

また、研究活動の不正行為を防止する一環として、次のような研修を実施した。

1) 第1回研究部研修「著作権セミナー」 参加者：52名

日時：2016年6月15日（水）10：00～11：30

場所：琵琶湖博物館セミナー室

内容：「博物館における諸活動と著作権法上の留意点について」

講師：滋賀第一法律事務所 樋口 真也 弁護士

2) 日本学術振興会 (Japan Society for the Promotion of Science)

研究倫理 e ラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE] の受講

この研修では、人文・社会・自然科学の研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくために、研究者として心得ておかなければならない倫理や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切使用について、学芸職員および特別研究員を対象に Web 上での e ラーニングを実施した。終了したものには修了証明書が発行された。

実施期間：2017 年 2 月 21 日～3 月 16 日まで

受講時間：約 1 時間半

(2) 外部監査対応

今年度、滋賀県立試験研究機関として外部監査の対象となり、研究部に関わる内容だけでなく、博物館全体にわたり監査が行われた。その結果、22 の指摘事項と 4 の意見を受けた。主なものとして、1) これまで琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会設置要綱はあったが、専門研究についての評価体制に関する規程が現在ないことなどから、「滋賀県立試験研究機関等の研究課題に関する評価指針」に基づいた網羅的な規定を策定すること、2) 薬品類の棚卸がされておらず、劇物・毒物等薬品管理における体制や運用の整備に関して整備実施すること、3) これまで研究備品リストは作成されていたが、管理は個々の学芸員が対応している状況であったことから、研究備品の使用および管理状況が把握されていなかったため、機器類の有効活用を推進し、管理体制を整備することが求められた。

これらを受けて、1) 「滋賀県立琵琶湖博物館研究評価実施要綱」および「滋賀県立琵琶湖博物館内部評価委員会設置要項」を新たに策定し、「琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会設置要綱」の一部を改定した。2) 劇物・毒物等薬品類の全リストの作成と 2017 年 2 月に棚卸作業を実施した。また、これまでに定められていた琵琶湖博物館の薬品類に関することを見直し、「滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程」を策定した。3) 研究備品の管理については、使用不可能な機器類等は処分することを含め、「滋賀県立琵琶湖博物館研究用備品等運用および管理に関する要項」の策定に向けて見直しをしている。

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関する事柄で、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指している。展示関係者による展示室での解説や交流を不定期に開催している。

1. 「ときめく心を伝えたい」

期間：2016年4月13日～2016年9月29日

展示した人：飯村 強

2. 「ワニがいた！ゾウもいた！！400万年前の伊賀」

期間：2016年9月30日～2017年3月31日

展示した人：北田 稔

- ・地域の人々による展示コーナーの展示交流

展示に合わせて、展示コーナー前での標本採集や調査の話や、標本の解説、標本を触る体験など展示している方やその関係者による展示交流を実施した。

2016年4月12日：福井龍幸、小谷富士夫

2016年12月17日：田中光徳、田中節子

2016年4月29日：飯村 強

2016年12月25日：北田 稔

2016年5月1日：田中光徳、田中節子

2017年1月7日：飯村 強

2016年5月3日：田中光徳、田中節子

2017年1月8日：北田 稔

2016年5月15日：飯村 強、福井龍幸

2017年1月22日：北田 稔

2016年5月22日：飯村 強、小谷富士夫

2017年2月5日：北田 稔

2016年10月9日：北田 稔

2017年2月19日：北田 稔

2016年10月5日：飯村 強

2017年3月5日：北田 稔

2016年11月13日：北田 稔

2017年3月19日：北田 稔

2016年11月20日：北田 稔

2017年3月26日：北田 稔

2016年11月27日：北田 稔

2017年3月31日：北田 稔

- ・最近寄贈された標本

コレクションギャラリーのコーナーの一角にある展示で、寄贈いただいた標本を紹介するコーナーとして行っている。

2016年7月1日：県内産鉱物標本 11点、三重県産鉱物標本 1点

2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B 展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。2016年度の展示は次の通り。

期間	展示資料名
4月26日（火）～5月29日（日）	「芳年末広五十三次 草津」、『和漢三才図会 卷三十四』 『農具便利論 下』、「寸法帳」（南小松舟屋文書より）

期間	展示資料名
5月31日(火)～7月6日(水)	「京都大津間疏水線路之図」、『琵琶湖疏水要誌 巻一』 「琵琶湖疏水第一第二隧道開鑿預(予)算」 「疏水インクライン」(『日本地理歴史写真集』のうち)
7月14日(木)～9月4日(日)	「京都府滋賀県両管内交通地図」、『滋賀県近江国農商工便覧』 「湖南汽船発船時間並ニ賃金表」、『廻船宝富久呂』
9月10日(火)～11月13日(日)	『海道記 巻上』、『近江縣物語 巻四』 『近江名所図会 巻四』、「野洲郡第八区洲本村絵図」
11月15日(火)～12月25日(日)	『淡海録 巻一』、『和名類聚抄 巻十八』 『和漢三才図会 巻三十八』、「海陸風俗図巻」
2017年1月2日(月)～2月5日(日)	『和漢三才図会 巻四十一』、『大和本草 諸品図下』 『農業全書 巻十』、「広重近江八景 堅田落雁」
2月7日(火)～3月12日(日) 滋賀県ミュージアム活性委員会「代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし」 関連ミニ展示「琵琶湖地域のヨシ」	『和漢三才図会 巻九十四』、『淡海録 巻二』 「滋賀県管下近江国六郡物産図説 滋賀郡・栗太郡」 「湊はん志やう画卷」
3月14日(火)～4月23日(日)	『和漢三才図会 巻三十四』、『大和本草 巻十一』 『農稼業事 巻四』、「近江八景湖水名所図絵」

3) C展示室

2016年7月14日にリニューアルオープンを行った。新しいC展示室は、「湖のいまと私たち ～暮らしとつながる自然～」と題して、身近な風景を読み解き、暮らしと自然や琵琶湖とのつながりに気づくことができる展示を目指して、7つのゾーンで構成した。具体的な展示コーナーは以下の通り。

1. 琵琶湖へ出かけよう

- 1-1 空からみた琵琶湖
- 1-2 琵琶湖はどんな湖か?
- 1-3 琵琶湖のカタチと水の中
- 1-4 みんなでつくるびわこアルバム
- 1-5 琵琶湖の利用と変化
- 1-6 琵琶湖のおもしろ物理現象

鳥になってたどってみようー琵琶湖の水のつながりー

2. ヨシ原に入ってみよう

- 2-1 ヨシ原の生き物たち
- 2-2 人とヨシとのつきあい
- 2-3 これからのヨシ原
- 2-4 かつての湖辺大湿地

3. 田んぼへ

- 3-1 田んぼと人との関わり
- 3-2 田んぼの生き物たち
- 3-3 田んぼに集う人々

4. 川から森へ

- 4-1 川と琵琶湖
- 4-2 琵琶湖をかこむ森
- 4-3 川と森と人



1. 琵琶湖へ出かけよう

- 5. 私たちの暮らし
 - 5-1 スイッチひとつで
 - 5-2 暮らしは変わる
 - 5-3 1964年 農村の暮らし
 - 5-4 私の暮らし
- 6. 生き物コレクション
 - 6-1 生き物のにぎわい
 - 6-2 生き物のちがいと変化
- 7. これからの琵琶湖
 - 7-1 研究スタジアム
 - 7-2 みんなでつくるフィールド情報
 - 7-3 ピニオンボード



6. 生き物コレクション

撮影：乃村工藝社

4) 水族展示室

2016年7月14日にリニューアルオープンを行った。新しい水族展示室は、「湖のいまと私たち ～水の生き物と暮らし～」と題して、琵琶湖の魚たちと人の暮らしとの関係をわかりやすく紹介した展示や、古代湖である琵琶湖の価値を、バイカルアザラシなど世界の古代湖に生息する生物と比較して紹介する展示のほか、肉眼では観ることの難しい微小生物を、マイクロアクアリウムで展示紹介した。具体的な展示コーナーは以下の通り。

- 1. 琵琶湖の中へ出かけよう
 - 1-1 内湖・ヨシ原にすむ生き物たち
 - 1-2 沖合にすむ生き物たち
 - 1-3 琵琶湖の主 ビワコオオナマズ
 - 1-4 琵琶湖の深場を利用する生き物たち
 - 1-5 琵琶湖のコアユ
- 2. 暮らしの中の魚たち
 - 2-1 暮らしのなかの魚たち
 - 2-2 連れてこられた生き物たち
- 3. 川の中へ
 - 3-1 下流域の魚と築漁
 - 3-2 中流域の生き物たち
 - 3-3 河川上流(溪流)の生き物たち
- 4. 水辺の鳥
 - 4-1 琵琶湖の水鳥
- 5. よみがえれ! 日本の淡水魚
 - 5-1 国の天然記念物
 - 5-2 保護増殖センターの取り組み



1. 琵琶湖の中へ出かけよう

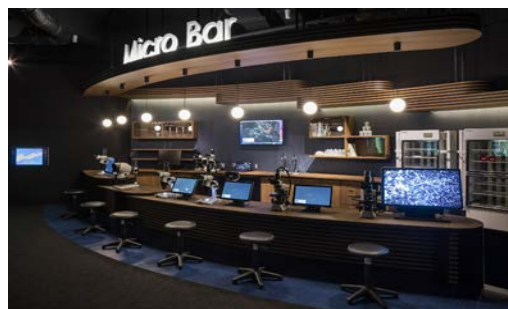


2. 暮らしの中の魚たち

- 6. 古代湖の世界
 - 6-1 最古の湖 バイカル湖
 - 6-1-1 バイカルアザラシ
 - 6-2 古代湖の世界
 - 6-2-1 タンガニーカ湖の魚たち
 - 6-2-2 マラウィ湖
 - 6-2-3 ヴィクトリア湖
- 7. 生きた化石 古代魚
 - 7-1 古代魚と魚の進化
- 8. ふれあい体験室
- 9. マイクロアクアリウム
 - 9-1 さまざまな小さな生き物
 - 9-2 小さな生き物たち
 - 9-3 マイクロバー
 - 9-4 マイクロワールドシアター
 - 9-5 マイクロワールドの物理学
 - 9-6 プランクトンと写ろう



6. 古代湖の世界



9. マイクロアクアリウム

撮影：乃村工藝社

5) ディスカバリールーム

季節に合わせた展示物の入れ替えを下記の通り行った。展示の老朽化による展示物の更新や展示内容の変更を行った。また、今年度はB展示室に関連したプログラムと展示更新として、ディスカバリーボックスの新規作成を行い、それを用いたプログラム「転がして発見！縄文土器のデザイン」を実施した。また第2期リニューアルに向けて、利用者の聞き取り調査を行った。その内容はリニューアルに反映される予定のものであるが、現状の展示室の満足度も高い結果であった。

○季節展示

展示場所	展示内容	展示期間
音のへや	アフリカの楽器	2016年4月3日～7月3日
	南米の楽器	2016年7月5日～12月2日
おばあちゃんの台所	春 version	2016年4月1日～5月31日
	こどもの日	2016年4月15日～5月5日
	夏 version①	2016年6月1日～7月6日
	七夕	2016年6月21日～7月6日
	夏 version②	2016年7月14日～8月31日
	土用	2016年7月19日～7月31日
	秋 version①	2016年9月1日～10月30日
	お月見	2016年9月10日～9月15日
	秋 version②	2016年11月1日～12月2日
	冬 version	2016年12月3日～2月17日
	冬至	2016年12月17日～12月21日
	お正月	2017年1月2日～1月15日
	節分	2017年1月24日～2月3日
ひな祭り	2017年2月21日～3月3日	
春 version	2017年2月18日～3月31日	

展示場所	展示内容	展示期間
ブックコーナー	春 version	2016年4月1日～7月18日
	夏 version	2016年7月19日～8月31日
	秋 version	2016年9月1日～10月30日
	冬 version①	2016年11月1日～12月2日
	冬 version②	2016年12月3日～2017年3月3日
	春 version	2017年3月4日～3月31日
石の下／水の中	春 version	2016年4月8日～5月31日
	初夏 version	2016年6月1日～7月3日
	夏 version	2016年7月5日～8月31日
	初秋 version	2016年9月1日～10月30日
	秋 version	2016年11月1日～12月2日
	冬 version	2016年12月3日～2017年3月1日
	春 version	2017年3月2日～3月31日
人形劇	春 version	2016年4月3日～7月3日
	夏 version①	2016年7月5日～9月16日
	夏 version②	2016年9月17日～10月30日
	秋 version	2016年11月1日～11月25日
	冬 version	2016年11月26日～2017年1月15日
	春 version	2017年1月17日～3月31日
ディスカバリーカウンター (生きものの展示)	ナマズ	常設
	アカハライモリ	常設
	ホウネンエビ、アメリカカブトエビ、トゲカイエビ、カイエビ、タマカイエビ	2016年6月4日
	カイコ	2016年7月16日～8月31日
	ノコギリクワガタ	2016年7月17日～10月15日
	ミヤマクワガタ	2016年7月17日～10月20日
	アカアシクワガタ	2016年7月17日～2017年3月31日

○常設展示

- ・「人形げきじょう」コーナー：新規（ノロ2、カイミジンコ2）、アメリカザリガニ2の人形6体を製作。
- ・「ザリガニになろう」コーナー：ザリガニのエサレプリカ（ミミズ1、オタマジャクシ1）製作。
- ・ディスカバリーボックスの新規制作：「転がして発見！縄文土器のデザイン」B展示室関連。
- ・入替え展示棚：「琵琶湖の岸辺でひろったよ！」琵琶湖周辺で拾ったもの（カメのこうら、ヒシの実、魚の骨）を新規展示。「ハチの巣をかんさつしてみよう」キアシナガバチ、フタモンアシナガバチの巣を更新。

○ その他

- ・新任研修

日時：2016年7月

対象：新任職員、新規展示交流員

内容：ディスカバリールームの主旨と展示室における展示交流員の業務内容を中心に研修を行った。

- ・展示評価 ディスカバリールーム来館者聞き取り調査報告

期間：2016年11月12日（51組・129人）

報告：来室回数は6回以上が最も多く、ディスカバリールームのみの利用は無かった。4～5歳の子どもの最も多く32.1%を占めていた。次に6～7歳が23%であった。未就学児と小学校低学年の組み合わせのグループが

多いことが分かった。大人子ども共に人気があったのは、ザリガニになろう、おばあちゃんの台所であった。子どもに人気があったのは、ディスカバリーコーナー、にんぎょうげきじょう、汽車をはしらせよう、音の部屋の4つ、大人に人気があったのは音の部屋、ディスカバリーコーナーであった。今回の聞き取り調査で新たに浮かび上がった要望としては、小学校高学年にも対応する展示が欲しい、本物を体験したいという声であった。これらを参考にして、博物館だからこそ可能な子ども向けの展示を十分議論し、リニューアルに活かしていきたい。

6) 屋外展示

- ・はしかけグループ「森人」による屋外展示の整備、活用

はしかけグループ「森人」の活動として、屋外展示の有効活用を目指した活動を年間通して実施した。その中で、びわ博フェスやはしかけ登録講座時に樹木の解説ガイドツアーを実施し、あわせて屋外展示の森の整備のための竹やクズなどの除去作業を実施した。

7) その他

- ・アール・ブリュット展示

滋賀県の「ふらっと美の間事業」の一環として、A展示室とB展示室の間の空間でアール・ブリュット作品を展示している。2015年1月20日より展示していたアール・ブリュット作品の展示は、2016年10月31日で終了した。

(2) 企画展示・水族企画展示

1) 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」

① 主旨

琵琶湖博物館がこの20年間に行ってきた活動をふりかえり、その中で発見したことを一挙に公開した。展示では、標本などの実物資料、パネル、研究や調査の様子を撮影した映像などを用いて、発見の成果だけではなく、発見に至る過程や調査方法など、ふだん展示室では見ることが出来ない博物館活動の舞台裏についても紹介した。この企画展示を通して、発見する喜びや、発見の対象は遠くにあるのではなく、身近な生活の場にもあることを伝えることを目指した。そして、リニューアル後の博物館活動への参加を促した。

② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：2016年9月17日（土）～2017年1月31日（火） 実質開催日数 115日

場 所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料金：小中学生 100円（80円）、高・大学生 160円（120円）、大人 200円（160円）

（）内は20名以上の団体料金）

観覧者数：38,664人

展示製作：柁永一宏（主担当）、渡部圭一（副担当）、谷川真紀、出口武洋、天野一葉

展示施行：株式会社本庄

展示協力：草津湖岸コハクチョウを愛する会、湖国もぐらの会、滋賀オサムシ研究会、ホテルの学校、資料整理員、水族飼育員、展示交流員、フィールドレポーター、うおの会（以下、はしかけグループ）、近江はたおり探検隊、大津の岩石調査隊、温故写新、暮らしをつづる会、湖をつなぐ会、古琵琶湖発掘調査隊、たんさいぼうの会、田んぼの生きもの調査グループ、びわたん、ほねほねくらぶ、森人、天野一葉（琵琶湖博物館特別研究員）、宮田彬（琵琶湖博物館研究協力員）、大津あきのた会

カルタ執筆：鈴木隆仁、草津湖岸コハクチョウを愛する会、楊平、はしかけグループ田んぼの生きもの調査グループ、ホタルの学校、浦山重雄、芦谷美奈子、マーク・グライガー、岡部陽造、はしかけグループ森人、はしかけグループ湖をつなぐ会、はしかけグループ温故写新、はしかけグループびわたん、澤邊久美子、ロビン・スミス、小林偉真、山本充孝、天野一葉、里口保文、松田征也、芳賀裕樹、はしかけグループほねほねくらぶ、高橋啓一、はしかけグループうおの会、はしかけグループ大津の岩石調査隊、下松孝秀、八尋克郎、滋賀オサムシ研究会、亀田佳代子、山川千代美、渡部圭一、大塚泰介、はしかけグループたんさいぼうの会、橋本道範、中井克樹、北井剛、大久保実香、榊永一宏、桑原雅之、篠原徹、金尾滋史、大島由子、フィールドレポーター、湖国もぐらの会、はしかけグループ暮らしをつづる会、宮田彬、安福俊幸、戸田孝、林竜馬、水族飼育員、はしかけグループ近江はたおり探検隊、はしかけグループ古琵琶湖発掘調査隊、展示交流員、資料整理員（カルタ順）

③ 展示内容

琵琶湖博物館が誕生してから 20 年間に発見してきたことを一堂に集めて紹介した。館長をはじめ、すべての学芸員、特別研究員、研究協力員、資料整理員、水族飼育員、展示交流員、フィールドレポーターやはしかけグループ、地域の団体などが総力をあげて、琵琶湖博物館の活動の中で発見したことをカルタ仕立てのパネルをたどりながら、発見した標本などの資料、発見方法、ここだけの話などを、見て、知って、楽しめる展示内容である。滋賀県の郷土カルタや日本各地のカルタ、世界のトランプやカードゲームなども紹介した。体験コーナーとして、展示室の中央部にはびわ博カルタを実際に楽しめるように 15 畳のタタミのコーナーを用意し、さらにカルタを自分で考えて作り、掲示出来るコーナーも設置した。

・カルタトンネル

カルタに使用した取り札（絵札）を中心に内照式照明ボックスを展示室入口に設置し、びわ博カルタの世界への誘いを演出。

・びわ博カルタ

びわ博カルタ 52 枚を「滋賀から新発見」、「日本から新発見」、「世界から新発見」の 3 つに分けて紹介した。読み札と取り札の前に、それにまつわる資料を展示した。

・カルタをやってみよう

15 畳の特設ステージで大型びわ博カルタが体験できる

・資料発見の旅

学芸員がフィールドや研究室で研究している様子を撮影したビデオがみられる。

・みんなのカルタ

カルタカードに自分で考えたカルタを書いて、みんなのカルタボードに掲示する。

・コレクションから新発見

博物館に寄贈された国内外の昆虫標本 120 箱を展示。

・カルタコレクション

滋賀県の郷土カルタ、日本各地のカルタ、漫画キャラクターカルタ、世界のトランプやカードゲームなどを紹介した。

びわ博カルタの内容：

びわ博カルタは「いろは」47 文字に、「びわこはく」の 5 文字を加えた 52 枚の札からなる。このカルタには大津あきのた会の上原美翔さん（全日本かるた協会 A 級公認読手）読み上げによる CD が附属されている。

各カルタの読み札の内容は以下のとおり。

い	イタチムシ	誰も知らない	イタチムシ	鈴木 隆仁 学芸技師
ろ	ロシアから	毎年来ます	コハクチョウ	草津湖岸コハクチョウを愛する会
は	針江には	水利用の	知恵がある	楊 平 主任学芸員
に	2種類の	カブトエビいる	滋賀の田に	田んぼの生きもの調査グループ はしかけグループ
ほ	ホテルとぶ	千丈川を	守ります	ホテルの学校
へ	編年史	環境行政	記録する	浦山 重雄 専門員
と	トゲをもち	小さな花咲く	イバラモは	芦谷 美奈子 主任学芸員
ち	地下水に	不思議な生き物	見つかるよ	マーク グライガー 上席総括学芸員
り	利用する	たびにわくわく	新発見	岡部 陽造 小学校教員
ぬ	沼地には	太古をしのぶ	スイショウの木	森人 はしかけグループ
る	ルルララ	生きている琵琶湖	うたおうよ	湖をつなぐ会 はしかけグループ
を	面白い	写真で比較	いまむかし	温故写新 はしかけグループ
わ	わくわくの	びわ博探検	わくたんで	びわたん はしかけグループ
か	カヤネズミ	日本で一番	小さいよ	澤邊 久美子 学芸員
よ	よく見ると	カイミジンコは	かわいいよ	ロビン スミス 専門学芸員
た	体験は	自ら進んで	やりましょう	小林 偉真 中学校教員
れ	冷水病	加温治療が	有効だ	山本 充孝 主査
そ	ソウシチョウ	あなたはどこから	来たのかな	天野 一葉 特別研究員
つ	積もりつつ	時代を記録	火山灰	里口 保文 専門学芸員
ね	願うのは	タナゴが泳ぐ	琵琶湖かな	松田 征也 総括学芸員
な	南湖には	水草しげり	サギ歩く	芳賀 裕樹 総括学芸員
ら	楽々と	骨格組み立て	お手のもの	ほねほねくらぶ はしかけグループ
む	昔はね	いたんだゾウが	滋賀県に	高橋 啓一 副館長
う	うおの会	魚つかんで	調査する	うおの会 はしかけグループ
ぬ	威張る石	断層粘土	なれのはて	大津の岩石調査隊 はしかけグループ
の	農業の	適地がわかる	地図作り	下松 孝秀 主任主査
お	オサムシは	滋賀に13種類も	いるんだぞ	滋賀オサムシ研究会
く	黒い羽	瞳は緑	カワウはね	亀田 佳代子 総括学芸員
や	野洲川に	メタセコイアの	湿地林	山川 千代美 総括学芸員
ま	祭りには	みな協力	かかせない	渡部 圭一 学芸技師
け	珪藻に	ひそむ幾何学	模様かな	大塚 泰介 専門学芸員、たんさいぼうの会 はしかけグループ
ふ	ふなずしは	近江の味だよ	食べてみて	橋本 道範 専門学芸員
こ	子育てを	オスがしている	オオクチバス	中井 克樹 専門学芸員
え	愛知川の	土砂は流れて	新海浜	北井 剛 主査
て	手仕事を	次の世代に	受け継ごう	大久保 実香 学芸員
あ	アシナガバエ	まだまだ見つかる	新種がね	榊永 一宏 専門学芸員
さ	最高だ	ピワマス料理に	舌鼓	桑原 雅之 総括学芸員
き	聞き書きと	観察が大事	民俗学	篠原 徹 館長
ゆ	ゆりかごだ	田んぼは魚の	育つ場所	金尾 滋史 学芸員
め	目は丸い	体も丸いよ	バイカルアザラシ	大島 由子 学芸員
み	ミノムシが	減った理由は	寄生バエ	フィールドレポーター
し	滋賀の石	みんなの心に	夢はこぼ	湖国もぐらの会
ゑ	縁側で	過去や未来を	語り聞く	暮らしをつづる会 はしかけグループ
ひ	標本は	そこにいたこと	物語る	宮田 彬 研究協力員

も	森と湖	つなぐ学習	やまのこで	安福 俊幸 専門員
せ	先生も	うまく使おう	博物館を	戸田 孝 専門学芸員
す	スギ花粉	くしゃみ出るけど	愛してる	林 竜馬 学芸員
び	琵琶湖かと	思っちゃったよ	この展示	水族飼育員
わ	綿を繰り	糸を紡いで	機を織る	近江はたおり探検隊 はしかけグループ
こ	古琵琶湖を	発掘するたび	大発見	古琵琶湖発掘調査隊 はしかけグループ
は	発見を	笑顔と会話で	お手伝い	展示交流員
く	苦労して	守る資料は	宝もの	資料整理員

④ 印刷物

展示図録	A4 サイズ 107 ページ+特別付録びわ博カルタ 総カラーページ	1,000 部	2016 年 9 月 17 日発行 販売価格 640 円
企画展示ポスター	A1 サイズ 表カラー	1,000 枚	2016 年 8 月 31 日発行
企画展示チラシ	A4 サイズ 両面カラー	50,000 枚	2016 年 8 月 31 日発行
企画展示関連イベントチラシ	A4 サイズ 両面カラー	10,000 枚	2016 年 12 月 15 日発行
CD 付箱入りカルタ		500 個	販売価格 2,000 円
トレーチラシ	ミュージアムレストラン「におのうみ」で使われているトレーの上に載せるタイプのチラシ	長方形 1,000 部、正方形 1,000 部	



CD 付びわ博カルタ



トレーチラシと三角柱 POP による企画展の宣伝

⑤ 博物館・地域との連携

これまで琵琶湖博物館と一緒に活動を行ってきた地域の団体である、草津湖岸コハクチョウを愛する会、湖国もぐらの会、滋賀オサムシ研究会、ホテルの学校、琵琶湖博物館のフィールドレポーターやはしかけグループのうおの会、近江はたおり探検隊、大津の岩石調査隊、温故写新、暮らしをつづる会、湖をつなぐ会、古琵琶湖発掘調査隊、たんさいぼうの会、田んぼの生きもの調査グループ、びわたん、ほねほねくらぶ、森人、館内で働く資料整理員、水族飼育員、展示交流員、天野一葉琵琶湖博物館特別研究員、宮田彬琵琶湖博物館研究協力員のみなさんにもそれぞれの活動について展示していただいた。

企画展示関連イベントでは、大津あきのた会と関連イベントとともに、「百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合」を企画・実施した。

⑥ 関連事業

○オープニングセレモニー

2016 年 9 月 17 日（土）。展示に協力いただいた方を招いて、館長挨拶、来賓の挨拶、担当学芸員による紹介、テープカットを行った。その後、担当学芸職員による展示の案内を実施。

○関連イベント

2016年11月12日 ありがとう交流会「びわ博フェス2016」。企画展示ガイドツアー、琵琶湖博物館企画展示室にて企画展示ガイドツアーを実施。

2016年11月12日 ありがとう交流会「びわ博フェス2016」。びわ博カルタ大会、琵琶湖博物館企画展示室にてびわ博カルタ大会を実施。

2016年11月13日 ありがとう交流会「びわ博フェス2016」。企画展示ガイドツアー、琵琶湖博物館企画展示室にて企画展示ガイドツアーを実施。

2016年11月13日 ありがとう交流会「びわ博フェス2016」。びわ博カルタ大会、琵琶湖博物館企画展示室にてびわ博カルタ大会を実施。

2017年1月2日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会、琵琶湖博物館企画展示室にてびわ博カルタ大会を実施。

2017年1月3日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク 貝覆い(貝合わせ)を作って遊ぼう、琵琶湖博物館実習室・企画展示室にて貝覆いを作りと貝合わせ体験を実施。

2017年1月4日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会、琵琶湖博物館企画展示室にてびわ博カルタ大会を実施。

2017年1月5日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク 貝覆い(貝合わせ)を作って遊ぼう、琵琶湖博物館実習室・企画展示室にて貝覆いを作りと貝合わせ体験を実施。

2017年1月6日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会、琵琶湖博物館企画展示室にてびわ博カルタ大会を実施。

2017年1月7日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク 貝覆い(貝合わせ)を作って遊ぼう、琵琶湖博物館実習室・企画展示室にて貝覆いを作りと貝合わせ体験を実施。

2017年1月8日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク びわ博カルタ大会、琵琶湖博物館企画展示室にてびわ博カルタ大会を実施。

2017年1月9日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。びわ博カルタウィーク 貝覆い(貝合わせ)を作って遊ぼう、琵琶湖博物館実習室・企画展示室にて貝覆いを作りと貝合わせ体験を実施。

2017年1月15日「第24回企画展示 開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」関連イベント。百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合を企画展示室にて実施。

○来場者3万人達成式典

2016年12月10日に来場された方が3万人目となり、津田副館長の挨拶、記念品と花束の贈呈などの式典を行った。また、当日は、アトリウムコンサートが開催されており、甲南中学校吹奏楽部にファンファーレの生演奏をして頂き、華やかな贈呈式となった。

⑦ 取材対応

2016年9月18日掲載、京都新聞、かるた形式で活動表現。

2016年9月23日掲載、読売新聞、びわ博カルタで新発見 開館20年研究紹介展。

2016年10月3日掲載、中日新聞、琵琶湖博物館開館20年 研究成果かるたに。

2016年10月28日掲載、産経新聞、開館20周年記念「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」案内。

2016年12月21日掲載、読売新聞、よく分かるたのしいね 湖の特徴や生態 琵琶湖博物館。

2016年12月25日掲載、朝日新聞、研究テーマや発見を五七五調「カルタ」に。

2016年12月30日掲載、毎日新聞、琵琶博はカルタ週間。

2016年12月30日掲載、読売新聞、お正月はびわ博へ！みんなで遊ぼう「びわ博カルタ」。

2017年1月1日掲載、産経新聞、琵琶湖博物館で新春イベント。

2017年1月4日放送、ZTV、びわ博カルタ大会。

2017年1月4日掲載、中日新聞、湖国かるた色 札の題材当地ネタ草津 琵琶湖博物館で「びわ博カルタ大会」。

2017年1月10日掲載、読売新聞、合うかな？手作り貝覆い 琵琶博で体験。

2017年1月11日掲載、産経新聞、自然学べる「びわ博カルタ」作成 滋賀県立琵琶湖博物館。

2017年1月13日掲載、朝日新聞、「百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合」。



企画展示室の入り口



カルタトンネル



展示室の様子



特設ステージでカルタをする様子



貝覆いを体験している様子



みんなのカルタを掲示したカルタボード

2) 水族企画展示

2016年度は実施していない。

(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

① 琵琶湖フォトコンテスト作品展「～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく。～」

期間：2016年4月27日（水）～5月29日（日）

主催：伊藤園 / 滋賀県琵琶湖政策課 / 琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：伊藤園が行っているさまざまな琵琶湖環境保全に関わる活動の一つである「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーンで実施されたフォトコンテストの応募作品の中から、琵琶湖や身近な自然に関係した入選作品を展示。伊藤園が行っている CSR 活動の紹介をするパネル等もあわせて展示した。

② ILEC 設立 30 周年記念特別企画展示「湖と生きる－琵琶湖から世界へ 未来へ！－」

期間：2017年3月4日（土）～4月9日（日）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）設立 30 周年を記念して、世界の湖がさらされている危機と湖を守るためには何が必要かについて、ILEC 事業（世界湖沼会議の開催や人材育成事業など）を中心に紹介。展示資料は、Mother Lake パネル、ホテイアオイ模型、びわ湖会議シンボルマーク決定時や琵琶湖条例制定時の記事、今昔の洗剤パッケージ、第 1 回世界湖沼環境会議資料および関係者インタビュー映像、世界 65 か国の研修員のお土産、ILEC への寄贈絵画、子ども交流事業映像など。

2) トピック展示

① 「ビワッシーができるまで」

期間：6月7日（火）～19日（日）トピック展示

場所：琵琶湖博物館 企画展示室前

内容：映画「マザーレイク」の撮影に使用された恐竜模型や小道具類、空びわ、映画ポスターなどを展示した。

② 平成 28 年度「ごみ減量化と環境美化に関する標語・ポスター」入賞作品展

期間：2017年1月13日（金）～20日（金）

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：「ポイ捨てごみのない美しい湖国滋賀」の実現を目指して、ポイ捨て禁止、ごみの減量化、リサイクルや環境美化に関する啓発と意識の向上を図るために、広く県民から標語・ポスターを募集し、審査会で決定した入賞作品（標語 16 作品、ポスター 16 作品）を展示した。

主催：琵琶湖環境部循環社会推進課

③ JA 滋賀中央会第 41 回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクールの作品展（図画部門）

期間：2017年3月14日（火）～4月9日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会、琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品、1,041 点の中から選ばれた入賞作品 47 点を紹介した。

3) 水族展示

水族トピック展示

2016 年度は実施していない。

(4) 集う・使う・創る 新空間

地域の人びとが、自分たちの行っている活動や考えなどについて、この展示室で自ら情報を発信し、来館された方々と意見を交換し、交流を深めていただくための空間として運営している。2016年度は9件の利用があり、来館者への説明やイベントなど、交流を行った。また、3月4日に写真展石橋まんぼの取材があり、8日付の中日新聞滋賀県版に、記事が載った。

期間	タイトル	主催者
4月2日～5月5日	TANAKAMI こども環境クラブ 2015年度活動報告	TANAKAMI こども環境クラブ
7月1日～7月30日	写真展「河川のある暮らし」河川と暮らした地域の記憶	琵琶湖河川レンジャー (水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶)
8月1日～8月27日	多羅尾水害ー水害から63年、語り継ぐ記憶ー	暮らしをつづる会
9月1日～9月30日	「針江・生水の郷」展	針江生水の郷委員会
10月1日～ 10月30日	山門水源の森の自然と保全 氷河期からの森の危機	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会
11月1日～12月5日	稲作と中国文明～食文化の過去と現在～	新学術領域研究「総合稲作文明学」グループ
2016年12月12日～ 2017年1月28日	冬の使者「コハクチョウと仲間たち」環境展 ～びわ湖を美しくいつまでも残したい良い環境～	環境ボランティア草津湖岸コハクチョウを愛する会
2月7日～2月26日	代々続くヨシ間屋 西川嘉右衛門家の暮らし	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会
3月4日～3月26日	写真展 石橋まんぼ	森野秀三

展示交流

(1) フロアートーク

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアートーク」を行っている。学芸職員が日替わりで担当する「質問コーナー」の当日担当学芸職員がフロアートークを行う。学芸職員は、基本的には月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回、午前11時から展示を使ってレクチャーを実施する。フロアートークの場所や内容は当日担当の学芸職員が決定し、場合によっては実施時間の変更されることがあり、玄関入口にある催し物ボードにも、当日のフロアートークの案内を掲示している。

(2) ディスカバリー・ルームのイベント

ディスカバリー・ルームでは、季節展示に効果を加える目的で、参加型のイベントを実施した。ザ！ディスカバはしかけ主催によるイベントも含めて13件のプログラムを実施した。今年度は、常設展示B展示室の連携イベントとして、ディスカバリーボックス「「転がして発見！縄文土器のデザイン」とB展示室を利用したプログラムを実施した。また、第1期リニューアルオープンに関連し、「マヤマックスさんと一緒に ～みんなで描こう！琵琶湖の生き物たち～」を実施した。常設展示室の生きものを観察し、大きなシートに絵を描いて、ディスカバリー・ルーム前にて展示を行った。

イベント開催日	イベント名	参加者
4月12日(火)～5月3日(火)	みんなで作ろう！ ※展示期間：5月4日(水)～5月31日(火)	316名
5月5日(木)	カブトを作ろう！	98名

イベント開催日	イベント名	参加者
6月19日(日)	飛ぶタネと紙ヘリコプター作り(はしかけ主催)	20名
6月21日(火)～7月6日(水)	短冊に願いをかこう!	約190名
7月3日(日)	足跡化石をみてみよう!	12名
7月16日(土)～8月31日(水)	みんなで「かいこ絵日記」をつくろう!	多数
9月11日(日)	ヤマックスさんと一緒に～みんなで描こう!琵琶湖の生き物たち～	約25名
11月13日(日)	まつぼっくりでつくろう (ありがとう交流会)(はしかけ主催)	約50名
12月17日(土)	はたきを作ろう!	30名
1月25日(水)～2月3日(金)	節分☆オニのお面をつくろう!	20名
2月12日(日)	あずま袋を縫ってみよう(はしかけ主催)	16名
2月21日(火)～3月3日(木)	おひなさまをつくろう!	70名
3月30日(木)	転がして発見!縄文土器のデザイン	12名

(3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1)安全確保、2)快適な環境の提供、3)展示室での発見のサポート(展示交流)といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。そのいっそうの充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施した。

展示交流員が普段の展示交流によって得られた「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施にあたっては、事前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行った。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫を行った。

実施期間：2016年12月1日～2017年3月31日

実施人数：展示交流員 23名

実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

実施内容

展示室	氏名	実施テーマ	実施展示コーナー
A展示室	柳原 徳子	地球46億年の長さ	コレクションギャラリー
	酒井 紀美恵	紫香楽狸のまったりゆったりはんなり	コレクションギャラリー
	登尾 尚美	テーブルの中をのぞいたら・・・	コレクションギャラリー
	芦田 弘美	琵琶湖は北に向かうの?	入り口付近
B展示室	森 みさと	蒸気船湖龍丸	長浜駅舎
	鍛冶 真弓	明治時代の水害	水への取り組み
C展示室	笹山 恵里奈	魚のゆりかご水田	田んぼへ
	板垣 真由美	サギたち	生き物コレクション 鳥
	野口 千晴	カヤネズミ	ヨシ原に入ってみよう
	西之園みどり	山 川 城 などの位置	入口付近
	奥村 恵子	火まつり 大好き	これからのヨシ原
	今泉 美保	昭和時代の暮らし	富江家
	木下 睦司	前方後円墳	入口付近
水族展示室	坂上 麻理	最古の湖 バイカル湖(魚・アザラシ)	バイカル湖
	本田 幸子	チョウザメ	チョウザメ水槽

展示室	氏名	実施テーマ	実施展示コーナー
水族展示室	木村 寿枝	水鳥	水辺の鳥
	橘川 絢	ゾウミジンコの魅力	マイクロバー
	井出 範子	プランクトンの世界	マイクロバー
	林 克子	ヤナ漁	カトリヤナ漁とアユ
	坂井 麻紀	投網ってなあに？	水族
	深谷 真弓	ナガレヒキガエルの生態	カエル水槽
	斉藤 文子	マラウイ湖の魚たち	マラウイ湖
ディスカバリー ルーム	北田 昌子	アブラコウモリの紙フィギュアをつくろ う	ディスカバリーコーナー

(4) デジタルサイネージ

2017年2月8日に株式会社商工組合中央金庫大津支店様よりデジタルサイネージの寄贈があった。贈呈式が行われた8日より運用を開始し、3件の試験運用を含む7件の館内イベントの掲示を行った。また、恒常的に琵琶湖博物館そのものの紹介動画1本を流している。

掲示期間	イベント名	代表者
2月8日～3月31日	ワニがいた！ゾウもいた！400万年前の伊賀	展示係*
2月10日～2月11日	化石のレプリカを作ってみよう	わくわく探検隊、展示係*
2月17日～2月26日	代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会、展示係*
2月25日～3月3日	ディスカバリールームひな祭りイベント	ディスカバリールーム担当
3月4日～3月26日	写真展「石橋まんぼ」	森野秀三
3月4日～4月9日	湖と生きる－琵琶湖から世界へ 未来へ－	ILEC
3月25日～3月30日	転がして発見！縄文土器のデザイン	ディスカバリールーム担当

*試験運用

博物館連携

(1) 滋賀県ミュージアム活性化推進事業「琵琶湖の文化を世界に発信する事業」

日本最大の湖、琵琶湖は400万年の歴史を持つ世界的にも貴重な古代湖で、湖の周りに人間が住み着いた2万年前以降、人と湖との間に深く長い関わりの歴史を持つ点で、世界的にも例を見ない「生命文化複合体」としての価値を持つ。その湖と人の関わりの歴史や先人の暮らしや知恵など歴史的・文化的特徴や価値を見出し、国際比較を通して、古代湖の魅力を発信した。具体的には、湖と人との織りなす文化の象徴でもあるヨシ文化の資料調査研究と国際比較を取り入れた展示会を行い、また、海外から古代湖研究者（ロシア、マラウイ、中国）を招聘し、海外の古代湖事例の情報交換となる特別セミナーを開催したことで、琵琶湖の価値を認識し、インターネットを通じて古代湖文化についての国際比較を世界に発信した。

1) 地域文化の価値発見発信事業

古代湖である琵琶湖の内湖で、近世より代々ヨシ卸売業を営んできた西川嘉右衛門家の代々受け継がれてきたヨシ生業に関わる民具および古文書等の資料を、博物館、NPO法人、滋賀県内の大学、自治体などが協働して調査研究を行い、地域ぐるみで地域文化の価値を見出すことを目的とした。

まず、西川嘉右衛門家の主屋内にのこる民具についての所在確認と点数、種類等の把握を行った。その後、一点ごとに民具の情報を台帳へ記入、併せてデジタルカメラによる撮影を行った。情報は名称、寸法、員数、

墨書の有無、欠損や破損の状況等である。このほか、収蔵場所等における整理作業およびクリーニングについても必要時に随時実施した。実際の作業は民俗資料の調査歴のある作業員、学生が中心となって進めており、現在までに163点の民具に関して調査を終えている。これらの民具整理から、今後研究者や管理者が西川家の民具を活用するための基礎的なデータが、一定程度収集できたと考える。次に、活動の成果を公開するため「代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし」と題し、琵琶湖博物館内において西川嘉右衛門家の民具の展示を行った。展示については滋賀県立大学の教員、学生が中心となって展示解説の作成や陳列作業を進め、手桶や籠、藁袋等の生活資料を中心に約30点の資料を展示した。また、交流事業として、展示期間中の2017年2月18日（土）に「琵琶湖のヨシのお話会」を実施、滋賀県内外から43名の方々にご参加いただき、本事業における成果等の発表を行った。この交流事業では、ヨシを生態学の視点から研究されておられる金子有子氏に「琵琶湖のヨシのお話しー遺伝構造の解析からー」をテーマにお話をいただき、琵琶湖のヨシについて幅広い視点からの知識の交流を図ることができた。交流事業は、地域の文化財である西川嘉右衛門家や琵琶湖のヨシに関する重要性について地域の方々とともに再確認するとともに、今後の活動への意欲や関心を向上させる機会とすることができた。

2) 地域文化の発信ー国際古代湖プロジェクトー

400万年の歴史を持つ琵琶湖は古代湖であり、人と湖との間に深く長い関わりの歴史を持つ点で「生命文化複合体」としての価値を持つ。その歴史的・文化的特徴や価値を見出し、国際比較を通して古代湖としての琵琶湖の魅力を伝えるために、特別セミナーを開催した。海外から古代湖研究者（ロシア、マラウィ、中国）を招聘し、海外の古代湖事例を紹介することで琵琶湖の特徴を明らかにし、世界の古代湖との情報交換も行った。滋賀県内だけでなく近畿圏内から研究者や博物館関係者の参加があり、琵琶湖地域で調査をしている地元研究者と共に総勢37名で、活発な意見交換が行われた。その時の様子については、フェイスブックを使ってタイムリーに発信を行った。また、特別セミナーで紹介された情報を元に、古代湖の文化とそれをはぐくむ自然環境についての国際比較を世界に発信していくためのインターネットページ「古代湖の魅力」を開設した。本事業を通して、それぞれの古代湖について研究者自らが行っている研究の最新情報を見聞きすることができ、個性豊かな古代湖の魅力が鮮明となると同時に、古代湖を取り巻く諸事情や共通の課題として、固有種の保全と人々の暮らしや文化の持続性、そしてそのバランスの重要性などを認識することができた。地域博物館が中核となって、国際的な視点から地域の魅力を再認識する機会や交流を展開し、その情報を博物館のインターネット環境を活用して広く公開することで、多くの人々に古代湖としての琵琶湖の魅力を伝えることができた。

なお、上記の事業を行うにあたり、平成28年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）を受けた。

(2) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の68館（2017年3月末現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。開館以来、事務局を務めてきたが、7月の総会において会長館が長浜城歴史博物館に移行し、事務局も移動した。引き続き記念事業委員会に1名が参加し、活動の一翼を担っている。

(3) 烏丸半島活性化連携事業

琵琶湖博物館をはじめ、烏丸半島に関連する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会の事業として、各構成団体が連携・協力し烏丸半島への誘客を促進する取組を行った。

1) からすまいちばんカレンダーの作成

各構成団体に関わる7月から11月までのイベントを紹介するチラシを作成した。

作成枚数：20,000枚

配布先：各構成団体の施設、常盤学区内の各戸、周辺の幼稚園・保育園等の施設、
琵琶湖博物館リニューアル内覧会資料に同封 他

2) からすまいちばんスタンプラリー2016の実施

構成団体の施設等をポイントとするスタンプラリーを実施した。

実施期間：2016年11月12日(土)～2017年1月31日(火)

チラシ作成：15,000枚

配布先：各構成団体の施設、常盤学区内(回覧)、周辺の幼稚園・保育園等の施設 他

商品提供：琵琶湖汽船、ホテルポストプラザ草津、近江スエヒロ本店、太田酒造、草津市観光物産協会、
道の駅草津グリーンプラザからすま、ミュージアムショップおいでや

応募数：212人

当選者数：34人

3) 各種広報媒体の活用による情報発信

各構成団体が発行する広報やリーフレットをはじめ、パブリシティ・Facebookの活用により烏丸半島の情報を発信した。

4) その他

- ①「びわ博フェス2016 ありがとう交流会」への物産等販売出店(道の駅草津、草津北部まちづくり協議会)
- ②夏休み期間におけるバスの増便(近江鉄道)
- ③お盆期間における「草津烏丸半島湖上遊覧クルーズ」の運航(琵琶湖汽船)

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス

(1) 観察会・見学会等

2016年度は、C展示室と水族展示室がリニューアルオープンした8月以降に博物館周辺や県内各地で観察会等13件の事業を実施した。特に、リニューアルによって新しくなったC展示室と水族展示室の魅力を紹介するために、展示室や屋外展示、博物館の周辺を活用した体験と交流を通して、フィールドを感じてもらえる観察会・見学会を中心に開催した。地域での観察会・見学会は、4件全てで地域の他団体や個人と協働して実施した。また、「びわ博フェス☆2016」ありがとう交流会では、はしかけ各グループやフィールドレポーターによる活動紹介やワークショップを開催するとともに、様々な企業が行っている環境保全・CSR活動紹介をポスター展示し、交流活動を盛り上げることができた。どの観察会・見学会も参加者には好評だった。なお、本年度からイベントの主な申込方法をしがネット受付で行えるように変更した。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
8月 6日	土	生き物コレクション（昆虫類）	30	17	
8月 20日	土	生き物コレクション（甲殻類・寄生生物・その他無脊椎動物・固有種）	30	8	
8月 27日	土	生き物コレクション（鳥類）	30	6	
9月 24日	土	マイクロアクアリウム プランクトンでビンゴ	30	15	
10月 2日	日	化石観察会	30	28	伊賀盆地化石研究会
11月 5日	土	朽木の森の観察会 ～新展示ジオラマの本物を見に行こう！～	30	11	森林公園「くつきの森」
11月 12日 ・13日	土・日	ありがとう交流会「びわ博フェス☆2016」	—	3,830	はしかけ各グループ フィールドレポーター
11月 26日	土	秋の里山 宝物をさがしにいこう	30	11	カワセミ自然の会
12月 3日	土	暮らしと魚	20	15	滋賀県漁業協同組合連合会 青年会・滋賀県水産課
12月 4日	日	第2回カヤ・サミットーカヤネズミ保全のための生態研究と展示ー	200	98	全国カヤネズミ・ネットワ ーク
12月 4日	日	カヤネズミ観察会とカヤストラップ作り	20	36	富山市ファミリーパーク・ びわたん
12月 24日	土	バイカルの生き物	30	30	
1月 3日	火	お祭り見学会	15	12	勝部自治会

■ありがとう交流会「びわ博フェス☆2016」のワークショップのようす



(2) 講座

2016年度は、以下に示した事業を実施した。

	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者	講 師
1	はしかけ登録講座（全3回）	5月 8日 10月 24日 3月 12日	日		13 27 45	大塚泰介 山本充孝 妹尾裕介
2	琵琶湖地域の水田生物研究会 共催：近江地域学会生きもの豊 かな農村づくり研究会	12月 18日	日	250	152	口頭発表 14件 ポスター発表 7件 シンポジウムでの発表 5件
3	新琵琶湖学セミナー（全3回） （詳細は研究発信(2)P. 28参照）	1月 28日 2月 25日 3月 25日	土	各回 70	52 39 46	金尾滋史・堀越昌子 亀田佳代子・藤井弘章 M. J. グラウバー・浦部美佐子

(3) 体験教室

1) 里山体験教室（担当：安福俊幸・草加伸吾）

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない。子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ったことがない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」の協力により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年4回実施している。

参加者は、家族単位での参加がほとんどで、子どもたちの体験の機会として応募されているが熱心なのは保護者の方という場合も多い。

春は、里山を歩き、春の息吹が感じられるよう植物を中心に観察する予定であったが、雨のため中止。会員だけ集まり、雨の中での焚き火の起し方、簡易タープの作り方など行った。

夏は、夏の里山遊びの王道「虫とり」を午前中楽しんだ。午後は、木製名札づくり、ロープを使った簡易木琴を演奏や簡易ハンモックを体験した。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」、午後は、森の素材や竹を使った笛や琴を作り、みんなで森の音楽会を体験した。

冬は、「はしかけ里山の会」のプロデュースにより、冬の里山めぐり、花炭、煙の空気砲遊びなどを予定していたが、大雪により中止した。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月 17日	里山の春をみつけよう	中止	安福、草加
2	7月 17日	里山の夏を楽しもう	16	安福、草加
3	10月 16日	里山の秋さがし	25	安福、草加
4	1月 15日	冬の里山を楽しもう	中止	安福、草加



夏：簡易ハンモック



秋：森の音楽会

2) 生活実験工房 田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施し、4月から11月初旬までは、主に水稻栽培に関する体験を行い、11月中旬から翌年3月までは、わらなど収穫した材料や工房周辺にある材料を使った体験活動を実施している。水稻栽培では、昔ながらの苗代づくりから手作業による田植えや稲刈り、脱穀までを昔の農具を使いながら体験を行ってきた。11月の収穫祭では、収穫したモチ米を利用したもちつきを行い農の恵みを体験することができた。

また、農閑期となる冬季には、工房内でしめ縄やわら細工など、わらを有効活用した手作業による体験活動を行い、農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んだ。参加者の中には、家族で継続した参加もあり、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める良い機会として頂いた。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月	種まき、苗代づくり	職員対応
5月 15日	田植え、さなぶり	44名
7月 24日	昆虫採集	60名
9月 11日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	36名
10月 2日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	13名
11月 23日	収穫祭	36名
12月 23日	しめ縄づくり	45名
1月 16日	どんど焼き	職員対応
2月 11日	わら細工	14名
3月 11日	一年間のふりかえり	6名



5月 田植え風景



9月 稲刈り、ハサ掛け

(4) 体験学習

1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

(担当：岡部陽造、小林偉真、黄瀬金司、小嶋陽太)

当館を訪れる小・中学生を対象に、博物館の展示室への興味や関心を高めるための体験活動を「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けイベントではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらえるよう保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能とした。基本的には、第2土曜日の午後1時より受付を開始し、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。今年度も、はしかけグループの「びわたん」を中心に企画と運営を行った。第1期リニューアルオープンのため、4月～8月までの開催がなかったものの、年間7回、283名の参加者に楽しんでもらうことができた。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	9月 10日	マイクロアクアリウムを楽しもう	33
2	10月 8日	バイカルの魚たちを見てみよう	36
3	11月 12日	秋の色さがし	26
4	12月 10日	綿に触れてみよう	30
5	1月 14日	水鳥を観察してみよう	35
6	2月 11日	化石のレプリカをつくってみよう	72
7	3月 11日	火起こし体験	51
		合 計	283

■わくわく探検隊のようす



2) 一般団体向け（担当：岡部陽造、小林偉真、黄瀬金司、小嶋陽太）

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、親御さんの理解を深めるため、地域子ども会や学童保育所に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
6団体（231名）	ヨシ笛づくり、化石のレプリカづくり、プランクトン観察

学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。

7月までのリニューアル工事継続の影響は見られるものの、第1期リニューアルオープンにより、来館学校数の回復が見られた。閉鎖していたC展示室・水族展示室がオープンしたこと、生きものコレクションや五感で感じる展示の魅力などを理由に、小学校低学年や特別支援学校などの来館が多くなった。しかし、中学校や高等学校の利用は減少傾向にある。授業時数の確保など校外学習に出づらくなった学校事情もあるが、中学校・高等学校の高度利用についても広く呼びかけていきたい。また、来年度12月頃から第2期リニューアル工事が開始されるが、A展示室・B展示室・C展示室・水族展示室は通常通り利用いただけることや校種・学年に応じた博物館の具体的活用例などを伝える機会も積極的に設け、学校団体の利用増につなげていきたい。

1) 学校団体の受け入れ (担当：岡部陽造、小林偉真、黄瀬金司、小嶋陽太、草加伸吾)

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H27年度	今年度	増減	H27年度	今年度	増減
県内	小学校	108	164	56	7,920	11,093	3,173
	中学校	20	18	-2	1,890	1,550	-340
	高等学校	17	13	-4	1,206	727	-479
	特別支援学校	7	23	16	200	332	132
	大学など	12	12	0	708	688	-20
	合計	164	230	66	11,924	14,390	2,466
県外	小学校	127	166	39	11,343	14,137	2,794
	中学校	66	39	-27	8,996	5,289	-3,707
	高等学校	36	32	-4	3,495	2,318	-1,177
	特別支援学校	8	10	2	245	377	132
	大学など	42	41	-1	1,919	1,976	57
	合計	279	288	9	25,998	24,097	-1,901
総合計		443	518	75	37,922	38,487	565

2) 学校団体向け体験学習 (担当：岡部陽造、小林偉真、黄瀬金司、小嶋陽太)

7月のリニューアルオープンを境に来館学校数の増加が見られた。それに伴い体験学習を希望する学校数も増加したが、来館人数や滞在時間といった受け入れ条件があるだけでなく、学校の来館時期が重なったこともあり、顕著な増加にはつながらなかった。しかし、見学の目的や利用学年に合った体験学習になるよう、希望校から十分な聞き取りをおこない、子どもたちの興味・関心を促す活動となるよう配慮することができた。実習室・ホール・セミナー室・生活実験工房などを利用して行った今年度の体験学習を下記に挙げる。

校種	主な活動内容
小学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、博物館の展示についてなど)、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、プランクトンの採集と観察、昔くらし体験(足踏み脱穀、石臼、手押しポンプ)、生活実験工房の施設見学、質問対応
中学校	講義(琵琶湖と環境、琵琶湖条例ができるまで、琵琶湖総合開発、博物館の展示についてなど)、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、質問対応
高等学校	講義(琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど)、プランクトンの採集と観察、化石のレプリカづくり、外来魚の解剖実習、火山灰の観察実習、課題研究、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり

■体験学習実施数

校種	県内		県外		合計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	39	2,543	41	3,109	80	5,652
中学校	12	1,580	11	1,778	23	3,358
高等学校	8	212	6	400	14	612
特別支援学校	7	55	2	44	9	99
大学など	1	31	0	0	1	31
合計	67	4,421	60	5,331	127	9,752

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営 (担当：岡部陽造、小林偉真)

2016年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生 159名が参加し、3回の展示見学と学芸員等の講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。特に、課題解決型学習を進めるにあたってのポイントを学芸員から直接指導を受け、データやグラフの読み取りや分析など研究手法を学ぶ機会となった。

① 2016年5月28日(土) 琵琶湖博物館

- ・ 9:40～10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(岡部)：ホール
- ・ 10:40～11:50 常設展示見学

② 2016年6月18日(土) 琵琶湖博物館

- ・ 9:40～10:40 講義「問題解決へのアプローチの方法」(八尋)：ホール
- ・ 9:45～11:15 常設展示見学

■夏休み…展示見学と講義から琵琶湖について特に興味を持ったことがらについて、各自が夏休みに実践的研究や調査を行う。

③ 2016年11月19日(土) 琵琶湖博物館

- ・ 9:40～11:30 班ごとのテーマに合わせて各交流ゾーンで中間報告及び指導助言
松田・大塚・里口・大久保・鈴木・草加・岡部・小林より指導助言を受ける

④ 2017年2月25日(土) 立命館守山中学校

- ・ 学習発表会
- ・ 学芸員のアドバイスをもとに仕上げたものを保護者向けに発表。
- ・ 琵琶湖学習発表会(立命館守山中学校メディアホール) 審査・講評

■ミュージアムスクールのようす



4) 自然調査ゼミナール (担当：小林偉真、岡部陽造)

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。昨年度と同様に主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。中学生64名、教員26名が参加した。中学生たちは学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールにて結果をグループごとに発表した。

① 期日 2016年8月2日(火)

② 内容

午前の部		午後の部	
9:30～10:00	受付	12:45～15:00	班別調査活動Ⅱ (各活動場所)
10:00～10:30	開講式・オリエンテーション	15:00～15:50	調査結果のまとめ
10:40～12:00	班別調査活動Ⅰ (各活動場所)	16:00～16:55	調査報告会(ホール)
12:00～12:45	昼食および休憩 展示室見学	16:55～17:00	閉講式
18:30～19:30		8:00～8:10	

■昼の部班別テーマ

調査班	テーマ	講師	生徒数	教員数
昆虫班	採集や標本づくりを通して昆虫について学ぼう	八尋克郎 (学芸員)	13	2
水草班	採取や種類分けを通して水草の生態を調べよう	芦谷美奈子 (学芸員)	9	3
ほ乳類班	巢の調査や映像資料からほ乳類の生態を調べよう	寺田雅章(教員)	7	3
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて、分類方法と特徴について調べよう	鈴木隆仁 (学芸員)	12	4
魚類班	琵琶湖にいる魚の解剖を通して、魚の生態を調べよう	西垣 亨 (教員)	12	4
貝類班	貝の採集や解剖を通して、貝の生態を調べよう	間所忠昌(教員)	11	3

■自然調査ゼミナールのようす



5) 職場体験実習受け入れ (担当：小林偉真、岡部陽造)

2016年度は、草津市立新堂中学校2年生5名を受け入れた。中学校が設定している5日間のうち、休館日(月曜日)を除いた火～金曜日の4日間で実施した。博物館の業務内容の中から、交流事業の体験学習や工房実習、収蔵物の管理、水族展示室の維持管理などを職場体験学習のプログラムに取り入れた。

月日	体験内容	担当職員
11月15日(火)	博物館の概要、ヨシ笛体験学習について 講義による琵琶湖学習、体験学習補助(ヨシ笛) 体験学習準備(ヨシ笛)	小林、岡部

月日	体験内容	担当職員
11月16日(水)	外来魚駆除実習 ヨシ原の生物調査 民族・考古学実習(収蔵庫にて)	小林、岡部、小嶋、渡部
11月17日(木)	水族系実習(調餌、逆洗) 琵琶湖のプランクトン実習 化石レプリカ実習	小林、松田、右川、長田、池田
11月18日(金)	工房実習 学習発表会	小林、岡部、中川、小嶋

■職場体験のようす



(2) 教育指導者等研修 (担当：岡部陽造、小林偉真)

1) 教職員研修

本年度も学校などへの出張講座、滋賀県教育委員会や県総合教育センターなどと連携した研修、各地の理科教育研究会からの依頼を受けた研修など多岐にわたり、528名の受講があった。県内外の学校の先生方に琵琶湖博物館を知っていただくよい機会となった。博物館を有効に活用いただくきっかけになればと考えている。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
6月23日	木	平成28年度10年経験者研修【選択】 「綿花を育てた後の活用について」	15	滋賀県総合教育センター
7月13日	水	高島市立湖西中学校	6	高島市立湖西中学校
8月3日	水	滋賀県小中学校教育研究会栗東支部夏季研修会	14	滋賀県栗東市立小学校理科部会
8月4日	木	滋賀県小学校教育研究会理科部会研究委員総会	30	滋賀県小学校教育研究会理科部会
8月5日	金	H28しが環境教育研究協議会	120	滋賀県教育委員会
8月25日	木	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会研修会	13	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会
11月14日	月	安曇っ子博物館	7	高島市立安曇小学校
11月17日	木	平成28年度10年経験者研修【選択】 「見学で利用できる学習シートの作成」	12	滋賀県総合教育センター
11月26日	土	滋賀の教師塾	135	滋賀県教育委員会
11月30日	水	近江八幡市立八幡中学校	8	近江八幡市立八幡中学校
1月17日	火	初任者研修	39	滋賀県総合教育センター
1月19日	木	初任者研修	43	滋賀県総合教育センター
1月24日	火	初任者研修	42	滋賀県総合教育センター
1月26日	木	初任者研修	34	滋賀県総合教育センター
1月31日	火	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会研修会	6	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会
2月7日	火	高島市中学校教育研究会環境部会研修会	4	高島市中学校教育研究会環境部会
合 計			528	

■教員研修の様子（10年次研修・初任者研修）



2) その他の視察研修（担当：岡部陽造、小林偉真）

2016年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計6件58名であった。

月日	来館団体名（目的）等	人数
8月 3日	日本旅行（社員研修）	15
9月 10日	九州国立博物館（視察）	4
9月 28日	滋賀県私立中学高等学校連合会（視察研修）	20
12月 10日	さくらサイエンスプラン交流事業（中国湖南省からの視察）	8
1月 13日	芝山文化生態緑園（台湾からの視察）	9
1月 18日	長野県立歴史館（視察）	2

企業連携

当館のリニューアル展示をはじめ、今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、企業連携の強化を図った。

今年度としては、次のような連携事業を展開した。

6月17日：株式会社セブンーイレブン・ジャパンオーナー研修会

11月1日～12月10日：企業の環境保全・CSR活動パネル展示

2月14日、24日：株式会社叶匠寿庵社員研修

研修・実習

(1) 国際交流

1) JICA 博物館とコミュニティ開発コースの実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館との共催で「博物館とコミュニティ開発」と題する研修を、2015年から2018年の3カ年事業で行っている。2016度の研修事業は、当館からは運営委員2名（グライガー上席総括学芸員、楊平主任学芸員）と専門委員1名（戸田専門学芸員）として、全体の運営に関わった。この研修では、2016年11月1日から6日まで「博物館とコミュニティ開発」コース（6日間）のプログラムを実施し、海外の9か国の博物館施設から計12名の研修員が参加した。

① 研修員の国名・人数

Armenia(1名)	Egypt(2名)	Iran(1名),
Laos(1名)	Mexico(2名)	Peru(1名),
Samoa(1名)	Jordan(1名)	Palestine(2名)

② 琵琶湖博物館での研修

日時	内 容
11月 1日	琵琶湖博物館の概要と設立理念、展示概要の説明、展示見学および解説、琵琶湖博物館リニューアルと企業連携
11月 2日	コミュニティ開発と保全、コミュニティ活動紹介および現地見学、ハリヨ生息域外保全ビオトープ見学
11月 3日	博物館と交流事業のありかた、学校と体験学習の実践、ヨシ笛体験学習、博物館活動に参加する仕組み
11月 4日	東近江市能登川博物館の展示とコミュニティ活動、ボードレス・アートミュージアムNOMA 展示見学、近江八幡市立資料館見学、近江八幡の水文化・現地見学等
11月 5日	参加型研究と博物館活動、地域住民による調査活動と博物館的フィールド等
11月 6日	移動博・サテライト博物館展示物のふれあい及び発表準備等、専門レポート、琵琶湖博物館の学芸員とディスカッション及び意見交換、総合討論

2) 海外からの視察・研修

当館では、上記 JICA 研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修に対応しており、今年度は 31 件に対応した。

* JICA ; (独法)国際協力機構、JICE ; (一財) 日本国際協力センター、ILEC ; (公財) 国際湖沼環境委員会

月日	視察者	依頼者	人数	対応
4月10日	中国 長江委員会長官	琵琶湖河川事務所	6	高橋
4月26日	中国 華東理工大学学生	大阪成蹊大学	8	高橋、楊
5月11日	中国 常州市政府代表団	中国江蘇省常州市人民政府	4	高橋、楊
5月24日	米国 ミシガン州立大学連合日本センター学生	ミシガン州立大学連合日本センター	4	グライガー
6月14日	JICA 研修「水環境行政」コース研修生(中東、中南米、アジア等)	(公財)北九州国際技術協力協会	12	スミス
6月16日	タイ カセサート大学学生	京都大学	19	グライガー
7月5日	中国 湖南省・長沙明証学院校長	県国際室	2	岡部
7月29日	韓国 江原大学学生	県国際室・(社法)近江ふるさと会	12	(浦山)
8月16日	JST 研修 カンボジア湖沼環境専門家	東京工業大学	15	浦山
8月25日	台湾 慈濟科技大学学生	県国際室・(社法)近江ふるさと会	14	(浦山)
9月1日	JICA 研修「統合的流域管理による水資源の持続可能な利用と保全」研修員	ILEC	10	グライガー、スミス、岡部
9月10日	韓国 扶餘博物館・公州博物館職員	九州国立博物館	4	岡部
9月11日	JICA 研修 ミャンマー上下水道局研修員	北九州市	6	芳賀
10月7日	タイ 第1ロイヤルプロジェクト工場と博物館職員	タイ 第1ロイヤルプロジェクト工場と博物館	41	下松、中川、芳賀、浦山
10月18日	JICA 研修「イラン国アンザリ湿原環境管理プロジェクト」研修員	日本工営(株)	9	芳賀
11月9日	JICA 草の根事業 ウガンダ野生生物教育センター職員	(公財)横浜市緑の協会	5	スミス
11月15日	京都フランス語学校(リセ・フランセ・ド・京都)教員	京都フランス語学校(リセ・フランセ・ド・京都)	1	岡部、大久保、浦山
11月17日	JST さくらサイエンスプラン 中国 南京湖沼研究所 若手研究者	金沢大学	10	林
12月10日	JST さくらサイエンスプラン 中国 湖南省・湖南師範大学研究教育センター、同大学付属小中学校の教員、中学生	ILEC	9	岡部、浦山

月日	視察者	依頼者	人数	対応
12月15日	JICA研修「タイ未来型都市構築」研修員	JICA	12	高橋
1月13日	台湾 芝山文化生態緑園職員	台湾 芝山文化生態緑園	9	山本、下松、妹尾、浦山
1月19日	インドネシア ボゴール農業大学留学生	京都大学	20	グライガー
2月7日	JICA研修 ミャンマーヤンゴン市環境技術職員	大五産業(株)	8	浦山
2月9日	JICA草の根事業 中国湖南省下水技術者等専門家	下水道課、(公財)淡海環境保全財団	10	(浦山)
2月14日	台湾 屏東科技大学教員	日台里山交流会議2016サポーター	20	林
2月23日	中国 浙江水利標準化管理訪日研修団	(一社)日中協会	23	スミス
2月26日	京都大学への留学生(欧米、アジア等11か国)	京都大学	16	スミス
3月1日	国際エメックスセンター来賓(イラン、中国、ロシア)	(公財)国際エメックスセンター	8	グライガー、スミス
3月4日	JICE研修 中米7ヶ国 社会人・学生	JICE	34	浦山
3月8日	インドネシア科学研究所研究者	京都大学	2	金尾
3月28日	湖南省湖水地域環境整備・保全視察団	(一社)日中協会	4	篠原、楊

(2) 博物館実習

・期間：2016年8月25日(木)～8月30日(火)までの5日間(8月28日は休み)

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内9大学、15名の大学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、交流、展示などの活動について、講義および実習を行った。最終日には課題の発表会を行い、博物館職員との意見交換も行われた。

・実習日程と内容

月日	内容(午前)	内容(午後)
8月25日(木)	・全体オリエンテーション ・講義「琵琶湖博物館の概要」 ・講義「琵琶湖博物館の研究活動」	・講義「博物館展示とは」 ・見学「常設展示室の見学」 ・実習「展示交流とは」
8月26日(金)	・講義「琵琶湖博物館における交流事業」	・講義「ユニバサールデザインと博物館」
8月27日(土)	・講義「展示リニューアルと広報・営業」 ・講義「企画展示について」 ・講義「環境学習と博物館」	・実習「発表課題内容の検討」
8月29日(月)	・講義「博物館資料とその整理について」 ・講義「IPMについて」 ・見学「収蔵庫空間見学」	・実習「各資料分野に分れて実習」
8月30日(火)	・実習「発表課題内容の準備・まとめ」	・実習成果発表会 ・修了式

・実習生の大学と人数：9大学、15名(内訳)

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	2	龍谷大学	3
成安造形大学	2	近畿大学	3
京都学園大学	1	東海大学	1
京都橘大学	1	京都産業大学	1
立命館大学	1	合 計	15

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2016年度の登録者数は222名（2016年度登録更新者176名）である。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施・参加がある。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2016年度は、フィールドレポータースタッフを中心に、毎月第1・3土曜日（原則）の『定例会』等の会合・行事を計29回開催した。

2016年度のアンケート型調査として、4月から6月にかけて「飛び出し坊やを調べよう」調査、12月から2月にかけて「2016年度ミノムシ調査」を実施した。調査票の作成や報告書執筆に関しては、飛び出し坊や調査はフィールドレポータースタッフの中野敬二氏、ミノムシ調査はフィールドレポータースタッフの柁島昭紘氏を中心になって行った。2015年度の「セイタカアワダチソウを調べよう」、2016年度の「飛び出し坊やを調べよう」について、報告書として「フィールドレポーターだより」計2号（通巻46,47号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計4号（通巻83-86号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの前田雅子氏が務めた。

フィールドでの観察会や調査会としては、2008年から継続している「アキアカネふるさと探し」調査として、びわこバレイ蓬萊山頂付近でのアキアカネのマーキング調査（8月7日）と、大津市伊香立での追跡調査（9月30日～10月2日）を実施した。また、福井県敦賀市中池見人と自然のふれあいの里での「中池見湿地観察交流会」を、フィールドレポータースタッフの藤野勇馬氏の案内で実施した（9月17日）。

琵琶湖博物館の事業では、企画展示と「ありがとう交流会 びわ博フェス2016」に参加した。企画展示「びわ博カルタ見る知る楽しむ新発見」では、2006年度、2011年度に実施したミノムシ調査の結果を報告すると共に、2016年度調査への参加を呼び掛けた。「ありがとう交流会 びわ博フェス2016」では、ワークショップ「おちばのアート」を実施した。色付いた様々な形の落ち葉を利用して参加者に作品作りをしてもらうもので、60名以上の参加があり好評だった。また、これまでの調査結果やフィールドレポーターの活動に関するポスターを制作し、展示した。

フィールドレポーターの調査内容等一覧

内 容	実施期間	報告(件)
1) 飛び出し坊やを調べよう	4月～6月	調査票-1 40件 調査票-2 436件
2) 2016年度ミノムシ調査	12月～2月	29件（3月18日現在）
3) 自由形調査(掲示板)	通年	通巻83～86号

フィールドレポーター 活動の記録

	月日	曜日	出席者	内 容	
1	4月 2日	土	8	定例会	飛び出し坊や調査調査票発送、年間予定の打ち合わせ
2	4月 16日	土	11	定例会	掲示板 82 号の発送、交流会の打ち合わせ、セイタカアワダチソウ調査の結果検討
3	5月 7日	土	7	定例会	だより 46 号の発送、交流会の準備
4	5月 21日	土	19	交流会	タンポポ調査・セイタカアワダチソウ調査の報告、懇親会
5	5月 24日	土	3		ABC ラジオ中継出演(飛び出し坊や調査について) Rajio
6	6月 4日	土	8	定例会	アキアカネ調査の打ち合わせ、飛び出し坊や調査の進捗報告
7	6月 18日	土		定例会	掲示板 83 号の発送、企画展示出展の相談
8	6月 21日	土	5	現地調査	飛び出し坊やに関する聞き取り調査
9	6月 22日	日	4	現地調査	飛び出し坊やに関する聞き取り調査
10	7月 2日	土	6	定例会	飛び出し坊や調査の進捗確認と相談、次回調査テーマの相談
11	7月 16日	土	9	定例会	アキアカネ調査の準備、次回調査テーマの相談
12	8月 7日	日	12	調査会	アキアカネのマーキング調査(びわこバレイ)
13	8月 20日	土	7	定例会	飛び出し坊や調査の中間報告、次回調査テーマの決定、アキアカネ調査の報告
14	9月 3日	土	8	定例会	掲示板 84 号の発送、ありがとう交流会の相談
15	9月 17日	土	10	観察交流会	中池見湿地観察交流会(福井県敦賀市)
16	9月 17日 ～1月 31日			企画展示	企画展示琵琶博カルタへの出展
17	9月 30日～ 10月 2日	土	6	調査会	里に降りてきたアカトンボの調査と観察(大津市伊香立) (予定していた 10 月 1 日が雨天のため、各自で調査を実施)
18	10月 15日	土	10	定例会	ミノムシ調査の調査票検討、ありがとう交流会の準備
19	11月 5日	土	9	定例会	ありがとう交流会の準備、飛び出し坊や調査の報告準備
20	11月 12日	土	8	ありがとう 交流会びわ 博フェス	ワークショップ「おちばのアート」の実施 ポスターの展示
21	11月 19日	土	5	定例会	飛び出し坊や調査の報告書検討
22	12月 3日	土	7	定例会	掲示板 85 号の発送、ミノムシ調査の調査票の発送
23	12月 17日	日	7	定例会	飛び出し坊やの報告書検討、掲示板の原稿確認
24	1月 7日	土	5	定例会	飛び出し坊やの報告書検討、次回調査テーマの検討
25	1月 21日	土	6	定例会	飛び出し坊やの報告書検討、ミノムシ調査の進捗報告、次回調査テーマの検討
26	2月 4日	土	7	定例会	飛び出し坊やの報告書の検討、からすま半島でのミノムシと水鳥観察
27	2月 18日	土	8	定例会	だより 47 号の発送作業、カイツブリ調査の調査票検討
28	3月 4日	土	12	定例会	からすま半島での水鳥観察、ミノムシの同定、カイツブリ調査の調査票検討
29	3月 18日	土	7	定例会	掲示板 86 号の発送、ミノムシ調査の報告、カイツブリ調査の調査票検討

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていこうとする利用者のための登録制度として、2000 年 8 月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボラ

ンティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。

2016年度は登録講座を、5月8日(日)、10月23日(日)、3月12日(日)の3回実施し、それぞれ5名、17名、35名の新規登録者があり、2016年度末の会員数は329人となった。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の設置理念と、中長期基本計画の核心である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力となってきた。2016年度には、「ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ)」「近江 巡礼の歴史勉強会」「虫架け」の3グループが新たに設立され、2016年度末時点で22グループが、琵琶湖博物館および県内を中心とした各地で活動を展開している。

2016年度末に「はしかフェ」を再開した。再開第1回目の「はしかフェ」では、あらたに出来る交流空間の基本構想について説明し、はしかけ会員と学芸員の協同による活動のこれからについて議論した。また新規登録者の活動相談やグループ活動への導入、はしかけ会員同士の交流など、新たな交流活動の展開を目指した。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行 担当学芸員：松田征也 会員数：59名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、お魚採りが大好きな人々が集まって結成されたうおの会。魚つかみを楽しみながら調査結果を記録として残し、身近な環境を見つめなおすことを目的としている。2000年の発足以来、お魚採りが大好きな皆さんに博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 原則として月1回の定例調査を琵琶湖流域の各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。定例調査は原則として河川単位で実施しており、今年度は大戸川、大石川、喜撰川、家棟川、高時川、安曇川中上流、天野川の各河川と周辺支川、水路で実施し、43種4,464尾の魚の採集記録を残すことができた。喜撰川では季節別調査を昨年度から引き続き実施しており、琵琶湖流入河川の魚類相の季節変化を調査した。また、会員の研鑽の場として、冬季には勉強会を実施した。調査活動のほか、琵琶湖博物館行事「びわ博フェス2016」への参加をはじめとして、琵琶湖を戻す会、琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会、早崎内湖再生保全協議会、水資源機構、草津市不動浜自治会等の各種団体による自然観察会や環境学習等への協力を行った。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、10名の運営委員が中心となって行った。

「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月17日	第117回定例調査 大戸川、大石川	23名
5月15日	第118回定例調査 喜撰川	19名
6月19日	第119回定例調査 家棟川	22名
7月17日	第120回定例調査 高時川	17名
9月10日	親睦会	8名
9月18日	第121回定例調査 喜撰川	雨天中止
10月16日	第122回定例調査 安曇川	19名
11月12日	「びわ博フェス2016」に「お魚キーホルダーを作ろう」を出展 来場者：約120名	14名
11月20日	第123回定例調査 天野川	20名

活動日	内 容	参加者数
12月18日	第124回定例調査 喜撰川	21名
1月15日	勉強会	積雪により中止
2月19日	勉強会、2016年度データまとめの会	23名
3月26日	総会	

(上記の他に運営会議を4回開催)

○淡海スケッチの会

担当学芸員：篠原 徹、榊永一宏

[設立趣旨] 滋賀県内の現場へ赴き、絵画や俳句等により、風景等を写生することを目的とする。

[活動概要] 月1回（基本的に第4日曜日）、滋賀県内各地でスケッチ会および吟行句会を行っている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月24日	写生会・吟行	八幡掘（近江八幡）	4名
5月22日	写生会・吟行	石田川・新旭水鳥観察センター付近	4名
6月26日	写生会・吟行	銅鐸博物館周辺（野洲）	7名
7月24日	写生会・吟行	水生植物園（草津）	3名
8月28日	写生会・吟行	琵琶湖博物館周辺	4名
9月25日	写生会・吟行	西ノ湖（近江八幡）	4名
10月23日		ありがとう交流会パネル展示制作	6名
11月27日		平湖（草津市）雨天中止	
12月11日		ミーティング	4名
1月22日	写生会・吟行	琵琶湖博物館・館内写生	3名
2月26日	写生会・吟行	琵琶湖博物館内にて植物写生	6名
3月26日	写生会・吟行	沖島（近江八幡）	13名
3月31日	写生会・吟行	里山（日野町）下見	2名

○近江はたおり探検隊

担当学芸員：林 竜馬

運営・ホームページ担当：辻川智代

会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月16日	織姫の会	生活実験工房	参加者：7名
4月27日	織姫の会	生活実験工房	参加者：6名
5月14日	織姫の会	生活実験工房	参加者：8名
5月25日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
6月11日	織姫の会	生活実験工房	参加者：6名
6月23日	織姫の会（教員研修・綿に触れてみよう協力）	生活実験工房	参加者：6名 体験者：14名
7月16日	織姫の会	生活実験工房	参加者：7名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
7月27日	織姫の会（「朽木の知恵と技発見・復元プロジェクト」メンバーが見学）	生活実験工房	参加者：4名 見学者：7名
9月3日	織姫の会	生活実験工房	参加者：7名
9月28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
10月12日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
10月29日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
11月9日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
11月20日	朽木の知恵と技発見・復元プロジェクト主催 「苧績み体験」協力	大津市朽木	参加者：6名
11月30日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
12月10日	織姫の会・わく探と共催「綿に触れてみよう」	生活実験工房	参加者：4名
12月24日	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
1月7日	織姫の会	生活実験工房	参加者：6名
1月25日	織姫の会	生活実験工房	参加者：6名
2月4日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
2月22日	織姫の会	生活実験工房	参加者：7名
3月8日	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
3月25日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫

担当学芸員：里口保文

会員数：16名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要] 大津市周辺地域を中心に、この地域で見られる岩石やそれに伴う地質事象（断層など）の観察と調査を行ってきたが、今年度からは、隊員が持ち回りで自分の興味ある事柄について発表をする勉強会や、野外の観察も、各隊員が主体になって地域を案内しながら全員で観察することを始めている。そのため、活動場所は大津市に限定せず、滋賀県全域や場合によっては県外での活動も実施することとなった。また、今年度の企画展示「びわ博カルタ」へ参加し、これまでの活動で得た断層写真や岩石の展示を行った。

「大津の岩石調査隊はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月12日（木）	吾妻川沿いの岩石がみられる崖の観察・調査	大津市・吾妻川源流域、鶴の里・西の谷	4名
6月12日（日）	相模川沿いに見られる断層破碎帯の観察	大津市・相模川源流地域	7名
7月22日（金）	隊員2名の発表による三上山の岩石と地形、堅田断層についての勉強会	琵琶湖博物館	9名
8月28日（日）	隊員2名の発表による、音羽山周辺断層調査のまとめ、京滋阪周辺の付加帯と断層についての勉強会	琵琶湖博物館	12名
10月10日（月・祝）	湖東流紋岩類の観察	近江八幡市長命寺付近	6名
11月6日（日）	三上山の地形と岩石の観察	野洲市・三上山	7名
12月17日（土）	顧問による花崗岩と流紋岩に関する解説、隊員の根尾谷断層についての発表による勉強会	琵琶湖博物館	10名
1月20日（金）	隊員の発表による島根県益田市の岩石等についての勉強会、研究セミナーへの参加（顧問の発表）	琵琶湖博物館	8名

活動日	内容	場所	参加者
3月11日(土)	根尾谷地震断層観察館の見学、根尾谷断層周辺の断層と岩石の観察	岐阜県本巣市・根尾谷付近	13名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史 会員数：20名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動の概要] 今年度は「おすすめの琵琶湖の風景」というテーマを設け、活動を行った。館外での撮影会も3回実施し、湖岸、山間部なども含めて滋賀県内での風景を撮影した。これらで撮影された写真は、リニューアルしたC展示室「おすすめの琵琶湖の風景」にも多く使用されており、同様のテーマでびわ博フェスでの写真展も開催した。このほか、博物館映像資料(大橋コレクション)の整理作業、びわ博フェスなど博物館行事での記録写真撮影も行った。いずれの活動も写真を通じて博物館活動に貢献できるようなはじまったものであり、今後のはしかけ活動を通じてさらなる交流と展開を目指していきたい。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者数
4月9日	撮影会：高島の湖岸	高島市新旭町、高島町	13名
5月14日	撮影会：初夏の沖島	近江八幡市沖島	13名
7月14日	博物館リニューアルオープニングセレモニーでの記録	博物館アトリウム	3名
8月20日	大橋コレクションの整理	博物館会議室	5名
9月25日	びわ博フェス2016の出展内容計画	博物館会議室	5名
10月15日	撮影会：びわ湖バレイ	大津市	8名
11月11日	びわ博フェスでの展示の準備	博物館ホール前	3名
11月12日	びわ博フェス2016への出展、写真撮影	博物館	7名
12月10日	第4回写真の撮影講座	博物館応接室	7名
1月14日	大橋コレクションの整理	博物館会議室	4名
2月12日	これまで撮影してきた写真のデータ整理	博物館会議室	6名
3月12日	2016年度総会	博物館会議室	12名

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当学芸員：大久保実香 会員数：3名

[設立の趣旨] 地域の生活のあり方を考えながら地域の生活誌を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2016年は、前年の多羅尾での聞き取りをきっかけに多羅尾大水害の展示を新空間で行う計画をした。8月1日から8月27日まで、「多羅尾大水害－水害から63年語り継ぐ記憶」展を、無事行うことができた。展示を行うにあたって、甲賀市社会福祉協議会や多羅尾公民館、多羅尾小学校、多羅尾いきいきサロン、多羅尾自治会などの皆さんに協力を頂いた。展示期間には、京都新聞の取材や多羅尾の地元の方々から反響を頂いたが、話を聞かせていただいた当事者の皆さんが高齢のため博物館に足を運んでいただくことができなかった。このことは今後の課題である。また、企画展示「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」では、以前安土町でお話をいただいた方に協力をさせていただいた。本年度の活動を通して、滋賀の各地域にお住まいの高齢の方々が、昔の出来事や記憶を伝えていけないかと強く思っておられることに気が付いた。話す機会があれば熱心に話をしてくださる方は、たくさんおられるのではないかと。今後とも思いを受け取り、次世代に伝えていけるような活動を今後も続けていきたいと考える。

「暮らしをつづる会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月12日	信楽町多羅尾公民館にて「水害展」の打ち合わせ	信楽町多羅尾
5月18日	多羅尾小学校と展示物の打ち合わせ	信楽町多羅尾
5月31日	水害展の打ち合わせ	琵琶湖博物館
6月4日	水害展の準備、打ち合わせ	近江八幡市安土町
6月6日	びわ博カルタの準備、安土町の奥田さんと打ち合わせ	琵琶湖博物館
6月9日	多羅尾小学校、いきいきサロン、写真DVDの使用について連絡調整	信楽町多羅尾
6月11日	奥田さんの写真撮影	近江八幡市安土町
7月6日	水害展の展示について打ち合わせ	琵琶湖博物館
7月12日	展示について話し合い	琵琶湖博物館
7月18日	展示準備	琵琶湖博物館
7月25日	水害展の展示物を小学校、下畑さん宅、公民館に借りに行く	信楽町多羅尾
7月30日	展示準備	琵琶湖博物館
7月31日	展示準備	琵琶湖博物館
8月1日～	「多羅尾大水害展」	琵琶湖博物館
8月27日	展示物の撤収	琵琶湖博物館
9月14日	多羅尾小学校、下畑さん宅、公民館に資料の返却	信楽町多羅尾
11月9日	「ありがとう交流会」の展示打ち合わせ	琵琶湖博物館
1月24日	新メンバーの顔合わせと守山の漁師さんにお話を聞く	琵琶湖博物館
2月11日	守山の漁師さんのお話を聞く	琵琶湖博物館

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：杉山國雄 事務局長：安原 輝 担当学芸員：高橋啓一 会員数：23名

[設立の趣旨] 多賀町四手で計画された 180 万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

[活動の概要] 古琵琶湖発掘調査隊も設立から 4 年目に入り、継続的に参加してきた多賀町四手の発掘調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)も、一旦、区切りの年を迎えた。活動内容も、多賀町四手の発掘への参加、および、発掘現場で採集された化石のクリーニング・標本化作業などを行うことと並行して、それぞれの会員が個人的に興味を持ったことや、調べたことについても勉強会で取り上げるようになった。会員が相互に教えあいながら、月に1回程度、古琵琶湖層群の露出している現場や屋内での勉強会を行い、自主的に学んでいる。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月23日～5月1日	多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第四次発掘調査	多賀町四手
5月22日	化石観察会	柘植川・服部川
6月4日	足跡化石の観察	大垣市上石津
6月6日	足跡化石の観察	湖南市野洲川
6月18日	地層ができる環境についての勉強会	琵琶湖博物館
7月9日	貝化石のクリーニング①	琵琶湖博物館
7月25日	貝化石のクリーニング②	琵琶湖博物館
8月7日	親子化石発掘体験に協力	多賀町立博物館
8月21日	植物化石(野洲川産)の勉強会	琵琶湖博物館
9月25日	足跡化石の勉強会・観察	みなくち子どもの森 自然館・湖南市野洲川

活動日	内 容	場 所
11月 3日	地層の観察会・植物化石の採集	湖南省野洲川
12月 11日	古琵琶湖の時代の気候についての勉強会	琵琶湖博物館
2月 18日	第32回地学研究発表会にて会員2名がそれぞれ研究発表を行った	滋賀大学大津サテライトプラザ
3月 26日	総会・イガタニシのクリーニング・A展示室の展示鑑賞など	琵琶湖博物館

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当学芸員：林 竜馬 会員数：5名

〔設立の趣旨〕 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

〔活動の概要〕 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもらい活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵琶湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで聞いたことがある歌だなどと思ってもらえるようになればと活動を続けている。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
11月 13日(日)	びわ博フェス☆2016 参加 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館会議室
2月 5日(日)	「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
3月 12日(日)	はしかけ登録講座 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：澤邊久美子、鈴木隆仁、森 智美、片淵綾香 会員数：8名

〔設立の趣旨〕 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

〔活動の概要〕 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動で、2016年度はメンバーの入れ替わりもあり、さらに活動の幅が広がりつつある。2016年度は、「飛ぶタネと紙ヘリコプター」、「まつぼっくりで作ろう」、「あずま袋をつくろう」の3件の新しいプログラムを実施した。メンバーのアイデアを持ち寄り、参加者にも楽しんでもらった。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

実施日	タイトル	内 容	参加者数
6月 12日(日)	総会+紙ヘリコプター練習	1年の予定を決めた。飛ぶタネイベントの準備と練習をした	4名
6月 19日(日) 13:00～ 14:00～	はしかけイベント「飛ぶタネと紙ヘリコプター作り」	飛ぶタネを観察して、飛ぶタネの模型を作ってアトリウムで飛ばした 参加者 10名×2回	5名
11月 13日(日)	まつぼっくりで作ろう！	好きなまつぼっくりと台を選んで、木の実やリボンなどで素敵に飾り付けをした。定員を超える方に楽しんでもらった	50人+α
12月 17日(土)	はたきをつくろう！（ディスカバ主催イベント補助）	年末恒例のはたき作りのサポートをした。みんな上手に作っていた。埃がたくさんとた 参加者 30名	3名
1月 20日(金)	障子の張り替え	障子の張り替えをした。のぞいてくれたみんなにお手伝いもしてもらった	1名
2月 12日(日) ①13:00～ ②14:00～	あずま袋をつくろう	今年の針仕事はあずま袋作りです。一枚の布を、2か所縫うだけでふくろが完成！みんな自分の袋を嬉しそうに持って帰ってくれた 参加者 16名	4名

実施日	タイトル	内容	参加者数
3月 12日(日)	はしかけ登録講座	はしかけ登録講座で、グループ紹介をした。その後、新しいメンバーの方と話をした。	2名

○里山の会

世話役：千田はる恵、寺尾尚純、古川まや子、前田博美、松里香織、宮本直興、柳原徳子、山川栄樹、

吉井 隆 担当学芸員：安福俊幸 会員数：39名

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかき除くことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火(伐採した木々を使い、火おこし術、花炭、焼き芋など里山の燃料を使った遊び)など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動地域での認知度も高まってきている。また、琵琶湖博物館内でそば、きのこ栽培など里山関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 12日	里山体験教室(春) 下見	野洲市大篠原 はしかけの森
4月 19日	里山体験教室(春) 本番「里山の春をみつけよう」	中止、会員のみ
5月 16日	春の大篠原里山遊び	野洲市大篠原 はしかけの森
6月 6日	潮干狩り	三重県津市 御殿場浜
7月 10日	里山体験教室(夏) 下見	野洲市大篠原 はしかけの森
7月 17日	里山体験教室(夏) 本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原 はしかけの森
8月 29日	夏の里山祭り、ソバ種蒔き	琵琶湖博物館
9月 13日	ソバ畑手入れ	琵琶湖博物館
10月 9日	里山体験教室(秋) 下見	野洲市大篠原 はしかけの森
10月 16日	里山体験教室(秋) 本番「里山の秋さがし」	野洲市大篠原 はしかけの森
10月 29日	ありがとう交流会準備	高取山ふれあい公園
11月 13日	ありがとう交流会	琵琶湖博物館
11月 19日	秋の里山観察会下見	大津市仰木の里
11月 20日	秋の大篠原里山遊び	野洲市大篠原 はしかけの森
11月 26日	秋の里山観察会本番「秋の里山を歩こう」	大津市仰木の里
11月 27日	ソバ刈取り	中止
12月 11日	ソバ脱穀、乾燥	琵琶湖博物館
1月 8日	里山体験教室(冬) 下見、ソバ収穫祭	琵琶湖博物館
1月 15日	里山体験教室(冬) 本番「冬の里山を楽しもう」	中止
2月 25日	染色、キノコ菌打ち	中止
3月 6日	里山の会総会、キノコ菌打ち	琵琶湖博物館

○植物観察の会

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 講師：布谷知夫 会員数：名簿なし

[設立の趣旨] 2004年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。

[活動の概要] グループとしては名簿作成を行わず、随時参加とした。2016年度前半は、博物館の展示リニューアルなどの関連と今後の継続方法を改めて検討する機会とするため、観察会は実施しない形をとった。今までの観察会は、専門知識がなくても楽しく植物について学ぶことができる場と考え、目についた植物について観察することを続けてきた。名前を覚えるのではなく、初心者でも純粋に植物の面白さを感じてもらいたいという講師側からの思いもあった。しかし、「はしかけグループ」としての自主的な活動に移行していかなければならないのではないかと、という思いもあり、新しい形の模索期間とした。後半は、11月20日(日)「食卓の植物学(植物形態学の基礎)」、3月19日(日)「植物図鑑を使いこなそう」を布谷さんに教えていただく座学の会を行った。その後、来年度の会の方向性と月1回の開催に向けて日にちの調整について、集まったメンバーで話し合い、4月からメンバー募集を行い基本は登録制にすることとした。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
11月20日(日)	食卓の植物学(植物形態学の基礎)	琵琶湖博物館 実習室1	5名
3月19日(日)	植物図鑑を使いこなそう	琵琶湖博物館 実習室1	12名

○たんさいぼうの会

会長：木原靖郎 会長補佐：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介 会員数：23名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。今年度も、会の研究成果が学術論文になった。また、会員を主発表者とし、少なくとも部分的には会の活動成果による学会等での発表が、計6件行われた。(下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会名義での発表)。

Mimura, T. & Ohtsuka, T. (2016) Diatoms of Yamamuro Moor, a *Sphagnum* moor situated in the warm-temperate zone in Shiga Prefecture, central Japan. *Diatom*, 32, 日本珪藻学会: 24-32.

芝崎美世子・松原孝典・小滝篤夫・石田志朗・大塚泰介 (2016年5月15日) 丹後半島の黒部貝層に見られる微小貝と珪藻群集. 日本珪藻学会第37回大会, 日本珪藻学会, 神戸大学(神戸市灘区), [口頭発表].

富小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・石川俊之 (2016年5月15日) 水田珪藻群集と環境条件の対応. 日本珪藻学会第37回大会, 日本珪藻学会, 神戸大学(神戸市灘区), [口頭発表].

根来 健・大塚泰介 (2016年5月15日) 浄水処理障害生物 *Synedra acus* の再検討. 日本珪藻学会第37回大会, 日本珪藻学会, 神戸大学(神戸市灘区), [口頭発表].

富小由紀・大塚泰介・中村優介・打越崇子・中西康介・石川俊之 (2016年10月22日) 水田における珪藻出現パターンのGLMを用いた解析. 日本珪藻学会第36回研究集会, 日本珪藻学会, 高宮ビレッジホテル樹林(山形県山形市), [口頭発表].

富小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・打越崇子・石川俊之 (2016年12月18日) 水田に多い珪藻種の生態的最適点. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館(滋賀県草津市), [口頭発表].

服部圭治・大塚泰介・里口保文・堂満華子 (2017年2月18日) 東海層群亀山層から産出した *Praestephanos*

suzukii 類似種化石. 第 32 回地学研究発表会, 地学研究会・滋賀大学, 滋賀大学大津サテライトプラザ (滋賀県大津市), [口頭発表].

現在、愛知県の鈹質土壌湿地群、藤前干潟 (愛知県名古屋市)、瀬田公園 (滋賀県大津市) などの珪藻植生を研究している。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月10日	たんさいぼうの会第49回総会・花見	近江富士花緑公園	担当：山本真里子 参加者：9名
5月14・15日	日本珪藻学会第37回大会	神戸大学	発表：芝崎美世子ら3題 参加者：5名
8月22日	たんさいぼうの会第50回総会	草津市まちづくりセンター	担当：芝崎美世子 参加者：7名
8月27・28日	珪藻研究基礎講座	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：6名
9月17日～1月31日	企画展示「びわ博カルタ」に研究成果を出展	琵琶湖博物館	
9月26日	たんさいぼうの小さな旅 XIX 信太山惚ヶ池湿地	大阪府和泉市	担当者：芝崎美世子 参加者：4名
10月22・23日	日本珪藻学会第36回研究集会	山形県山形市	発表：富小由紀 参加者：2名
11月12・13日	「ありがとう交流会」でポスター展示	琵琶湖博物館	
12月18日	第7回琵琶湖地域の水田生物研究会	琵琶湖博物館	発表：富小由紀
12月28日	山室湿原の珪藻に関する論文を出版		著者：三村武士・大塚泰介
1月11日	たんさいぼうの会第51回総会・新年会	草津市まちづくりセンター	担当：人見勅輔・津田久美子 参加者：12名

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：マーク・ジョセフ・グライガー 副担当学芸員：鈴木隆仁 会員数：約20名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 5月、6月に滋賀県各地の水田においてカブトエビ・ホウネンエビ・カイエビ類の分布調査を行い、秋までに標本の同定、採集データ登録、分布図作成などを行う。また、分布パターンとその変化、生活史を解明するために、土壌調査、定点調査や飼育活動も進めている。また、学会等での発表や研究論文により、調査結果の公開も行った。2016年度は、エビ類を観察する共同調査を4回行った(うち1回は同日に班を分けて2地域を調査)。調査はグループに分かれて車に分乗し、調査地を回りながら行った。また、共同調査および個人調査で得られたサンプルの同定会を2回、結果報告会を2回、総会を1回行った。さらに、2016年度企画展示「びわ博カルタ」にて、展示協力を行った。

2016年度の調査結果

- ・大津市の瀬田地域では、昨年以前と比較してエビ類の大まかな分布はあまり変わっていない。高島市の湖沿いでは、詳細な調査にもかかわらずエビ類は発見できなかった。
- ・大津市街地の山沿いで今年度新しく見つかったアジアカブトエビは、分布を拡大していると考えられる。
- ・守山では、以前よりエビ類の分布が広がっている。
信楽町では、洪水によってエビ類の分布が広がったと考えられる。
- ・安曇川町でヒメカイエビを、また、安曇川より北の湖岸近くでカイエビを初めて発見した。

研究発表など

- ・Mark J. Grygier, 楠岡泰, 前田雅子, 田んぼの生き物調査グループ (2016年11月17, 18日) 「滋賀県

の水田におけるアジアカブトエビの分布状況について」, 第 22 回国際動物学会, 第 87 回日本動物学会合同大会(沖縄県宜野湾市沖縄コンベンションセンター) [ポスター発表]

- ・ 田んぼの生き物調査グループ (2016 年 12 月 4 日) 夏原グラントの交流会 (草津市立まちづくりセンター 301・302 会議室) [ポスター1 点]
- ・ 山川栄樹, 田んぼの生き物調査グループ (2016 年 12 月 18 日) 「洪水に見舞われた滋賀県の水田における大型鯉脚類の分布の拡大について」 第 7 回琵琶湖地域の水田生物研究会 (琵琶湖博物館ホール) [口頭発表]
- ・ 山川栄樹, 田んぼの生き物調査グループ (2017 年 3 月 31 日) 「2013 年台風第 18 号による洪水が滋賀県の水田における大型鯉脚類の分布に及ぼした影響」 社会安全学研究 7, 25-46. [研究論文]

「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4 月 24 日	エビ類講習会と調査の準備:エビ類の見分け方、探し方の講習と、調査で使用する瓶などの準備を行った	琵琶湖博物館	9 名
5 月 28 日	信楽地域分布調査:昨年度の調査でエビ類の分布の広がりが確認できた地域であるが、本年度は昨年度調査できなかった場所を中心に調査し、多数のカイエビ類、ホウネンエビ類を確認した	甲賀市信楽町	5 名
5 月 29 日	高島地域分布調査: 安曇川以北と以南でエビ類の分布が大きく異なっている。本年度の調査は、これまで見つかっていなかった安曇川以北からも、1 匹のみだがカイエビが採集された	高島市安曇川の南北	9 名
5 月 29 日	大津市街地周辺分布調査: 山手の棚田や市街地の孤立した水田を調査した。本調査地点ではこれまで瀬田川付近でしか見つかっていなかったアジアカブトエビが発見された	大津市東部山側	6 名
6 月 5 日	守山地域分布調査: これまでデータが少ない地域だったが、今回の調査ではカイエビ類、カブトエビ類の両方が見つかった	守山市	8 名
6 月 12 日	瀬田地域分布調査:アジアカブトエビとアメリカカブトエビの分布が重なる地域であり、分布の変遷が重要となる。しかし、水田の放棄や宅地開発が進んでおり、カブトエビ類の生息地そのものが失われつつある	瀬田地域	12 名
7 月 30 日	サンプル同定会:主に瀬田調査のカブトエビ類の分類に時間を費やした。典型的でない個体も見られるため、同地域に 2 種のカブトエビが出る地点の種同定は慎重に行う必要がある	琵琶湖博物館	13 名
8 月 28 日	サンプル同定会: 個人調査のサンプルも含めて同定を行った	琵琶湖博物館	12 名
10 月 9 日	報告会: 各イベントへの参加の打ち合わせ、調査結果の報告を行った	琵琶湖博物館	11 名
12 月 4 日	報告会: 守山調査、および個人調査の結果報告を行った	琵琶湖博物館	9 名
3 月 12 日	総会: 今年度調査の総まとめ、来年度の日程調整、来年度の担当学芸員との調整を行った	琵琶湖博物館	17 名

○タンポポ調査はしかけ

代表者: 不在 担当学芸員: 芦谷美奈子 会員数: 10名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 2014年度および2015年度は、「タンポポ調査・西日本2015」への協力ということで、参加者を募る目的の「わくたん」や観察会、標本の整理やデータの入力などを行った。2016年度は、個々のメンバーが自主的に調査を行い、それらの情報を何人かのメンバーで共有するなどした。

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎 担当学芸員：大塚泰介 会員数：12名

[設立の趣旨] 私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要] 琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。今のところ月に1回集まって、琵琶湖沿岸の小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察している。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
4月17日	採集・観察会	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	5名
5月21日	採集・観察会 (ビワカマカなど)	旧草津川河口 琵琶湖博物館	2名
6月17日	採集・観察会 ヨコエビ・ワムシなど)	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	1名
8月7日	採集・観察会 (ヨコエビ・ワムシなど)	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	3名
9月22日	採集・観察会 びわ博フェスの打ち合わせ	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	2名
10月30日	びわ博フェスの打ち合わせ	琵琶湖博物館	7名
11月13日	びわ博フェスでのワークショップ	琵琶湖博物館	7名
12月17日	採集・観察会 (ヨコエビ・コケムシなど)	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	1名
1月21日	採集・観察会 (ヨコエビなど)	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	1名
2月25日	採集・観察会 (クマムシなど)	琵琶湖博物館	3名
3月19日	採集・観察会 (クマムシなど)	琵琶湖博物館	3名

○びわたん

担当学芸員：岡部陽造・小林偉真 会員数：27名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊 (通称: わくたん)」事業は第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。今年度は7月にリニューアルオープンがあったため、4~8月はわくたん開催ができなかった。その間をプログラムの改善・開発にあて、「びわたん会議」をおこなった。リニューアル後初の9月わくたんでは、新しくできたマイクロアクアリウムをテーマに、楠岡元学芸員や成安造形大学の宇野先生 (マイクロアクアリウムのリニューアルに携わった方々) に支援協力を得てプログラムの運営を行った。また、昨年につき12月わくたんでは、「近江はたおり探検隊」の協力を得た。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業 (館内)

活動日	内容	一般参加者	びわたん
9月10日	マイクロアクアリウムを楽しもう	21名	12名
10月8日	バイカルの魚たちを見てみよう	26名	10名
11月12日	秋の色さがし	15名	11名

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
12月 10日	綿に触れてみよう	21名	5名 近江はたおり探検隊4
1月 14日	水鳥を観察してみよう	24名	11名
2月 11日	化石のレプリカをつくってみよう	56名	16名
3月 11日	火起こし体験	47名	4名

びわたん会議等（館内）

活動日	内 容	場 所	びわたん
4月 9日	・新メンバー紹介 ・年間計画 ・春の草花でしおりづくり	実習室2 屋外展示（工房周辺）	20名
5月 14日	・10月プログラムの検討 ・全国カヤサミットへの協力について	実習室2	15名
6月 11日	・お魚モビール（10月）の試作	実習室2	13名
12月 11日	全国カヤサミット（ワークショップ協力）	セミナー室	11名

○ほねほねくらぶ

会長：西村 有巧 副会長：榎本真司、納屋内高史 広報担当：宇野 翔 担当学芸員：高橋 啓一
会員数：大人20名 子ども2名 計22名

〔設立の趣旨〕 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

〔活動の概要〕 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。2016年度は、普段の活動として標本製作を続けながら、前年度の2月から引き続き、高橋学芸員にお願いし解剖の講義を行っていただいた。その他、琵琶湖博物館の企画展「びわ博かるた」にパネル製作と標本展示の形で参加させていただいたり、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、琵琶博フェス2016に参加、来館者との交流活動を行った。また、大阪自然史博物館で行われたホネホネサミット2017にポスター展示で参加した。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	10日 高橋学芸員による解剖講義の第2回目。 アナグマの頭部の解剖を進めながらの講義	琵琶湖博物館
	30日 高橋学芸員による解剖講義の第3回目。 アナグマの前肢の解剖を進めながらの講義	
5月例会	7日 高橋学芸員による解剖講義の第4回目。 頭骨に注目してその観察の仕方を教えていただいた。	琵琶湖博物館
	8日 はしかけ登録講座で活動紹介	
	29日 高橋学芸員による解剖講義の第5回目 ゲンゴウロウブナの解剖を進めながらの講義	
6月例会	19日 シカの骨の洗浄	琵琶湖博物館
	26日 シカの角切り、カモの除肉、シカの骨の整理	
7月例会	10日 ヒミズの除肉、アライグマの除肉	琵琶湖博物館
	24日 アライグマの除肉	
8月例会	6日 アライグマの除肉	琵琶湖博物館
	20日 カモの骨の洗浄、イタチの解剖、アライグマの除肉	
9月例会	11日 イノシシ2体の除肉	琵琶湖博物館
	19日 アライグマの骨の洗浄、イノシシ2体の除肉	

活動日	内 容	場 所
10 月例会	22 日 アライグマの骨の洗浄作業	琵琶湖博物館
	23 日 はしかけ登録講座において活動紹介	
	30 日 ネコの除肉、ニワトリの除肉、キジの除肉、アライグマの骨の洗浄作業	
11 月例会	12・13 日 ネコの除肉、ニワトリの除肉、キジの除肉 琵琶博フェス 2016 にて来館者との交流活動を行った	琵琶湖博物館
	23 日 ネコの除肉、イノシシの骨の洗浄作業、キジの除肉、 カメやアライグマの骨の収蔵作業	
12 月例会	3 日 ハクビシンの除肉、イノシシの骨の整理作業	琵琶湖博物館
	23 日 キジの除肉、イノシシ（うり坊）の骨の洗浄、ネコの骨の洗浄、イノシシの骨の整理作業	
1 月例会	22 日 猫の骨の洗浄、タヌキの骨の洗浄、標本の整理、 ホネホネサミット 2017 のための準備作業	琵琶湖博物館
	28 日 猫の骨の洗浄、タヌキの骨の洗浄、標本の整理 ホネホネサミット 2017 のための準備作業	
2 月例会	5 日 魚（フナ）の解剖、ホネホネサミット 2017 のための準備作業	琵琶湖博物館
	11 日 大阪自然史博物館において開催されたホネホネサミット 2017 にポ 12 日 スター展示で参加	
	19 日 アナグマの除肉、標本データの整理	
3 月例会	12 日 はしかけ登録講座で活動紹介	琵琶湖博物館
	19 日 アナグマの除肉、標本データの整理	
	26 日 キジの除肉、アナグマの除肉	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ

担当学芸員：大久保実香

会員数：18名

〔設立の趣旨〕 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト 8 名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

〔活動の概要〕 今年度は「身近にある薬草の利用法」をテーマに、実践と情報交換を行った。

特にヨモギやドクダミ、紫蘇など、普段から身近にあり、生活に取り入れやすい薬草の利用法を、今年度は、より深く研究することが出来たのではないかと感じる。さらに来年度の研究のにもつながるテーマを見つけられるイベントが開催できたと思う。「ありがとう交流会」では、野草バスソルトのワークショップ及び野草茶の試飲を開催し、緑のくすり箱の活動内容を紹介しながら、メンバーと一般のお客様との交流が出来たと思う。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4 月 23 日	新年度総会 赤紫蘇の種まき ヨモギ採取（餅・パン用）	琵琶湖博物館 研究棟交流室 生活実験工房	担当：吉野ま・草加・ 柳原・愛須・吉野千 参加者：15 名
5 月 21 日	ヨモギ採取（もぐさ用） ヨモギ餅とヨモギベーグル作り	琵琶湖博物館 野外 実習室 2	担当：吉野千・吉野ま 参加者：14 名
5 月 29 日	ドクダミチンキ作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：堀田 参加者：6 名
6 月 26 日	チンキの活用・化粧水作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：堀田・深田 参加者：12 名
7 月 10 日	赤紫蘇ジュース作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：堀田・愛須 参加者：13 名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
9月 7日	藍染体験	紺喜藍工房 (下田)	担当者：加藤 参加者：8名
10月29日	ありがとう交流会のポスター作り ワークショップ準備	琵琶湖博物館 研究棟交流室	担当者：全員 参加者：11名
11月13日	ありがとう交流会 野草バスソルト作りと野草茶試飲	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：全員 参加者：12名
12月18日	薬草ピザ作り チンキの活用・ミツロウクリーム作り	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：田井中・久保・ 深田・岩本 参加者：17名
2月 4日	七草スコーン作り 廃油石鹸作り もぐさ作りとお灸体験	琵琶湖博物館 実習室2	担当者：堀田・山本・ 吉野千・吉野ま・草加 参加者：16名
3月12日	年度末総会・水族展示見学	琵琶湖博物館 研究交流室 水族展示	担当者：吉野ま・熊谷 参加者：15名
3月27日	藍の種まき	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：柳原 参加者：7名

○森人（もりひと）

代表者：福岡敏雄 担当学芸員：林 竜馬 会員数：13名

[設立の趣旨]2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

[活動の概要]「太古の森、縄文・弥生の森の保全と観察をもとに森人同志および来館者との交流を図る。」を目的としほぼ月2回の活動を行っている。

「森人」のおもな活動

月日	内 容	場 所	参加者
4月 5日(火)	森人打ち合わせ	交流室	3
5月 1日(日)	森の観察会と活動方針説明、登録募集(第1回)	実習室1	9
5月 8日(日)	はしかけ登録講座での森人の説明とガイドツアー	セミナー室、屋外展示の森	7
6月 5日(日)	大阪市立大学附属植物園見学	大阪府交野市	10
6月18日(土)	森の観察会&樹木説明版と番号札メンテ、クズの調査	生活実験工房、屋外展示の森	8
7月 9日(土)	森の観察会&クズ退治	生活実験工房、屋外展示の森	7
7月23日(土)	川辺いきものの森見学(林冠トレイルなど)	東近江市	8
8月 6日(土)	博物館C展示の勉強会	博物館C展示室	7
8月27日(土)	竹の伐採	生活実験工房、屋外展示の森	4
9月10日(土)	竹の伐採	生活実験工房、屋外展示の森	4
9月24日(土)	竹の伐採	生活実験工房、屋外展示の森	6
10月23日(日)	はしかけ登録講座での森人の説明	セミナー室	2
11月 5日(土)	朽木の森観察会	高島市朽木麻生	4
11月12日(土)	ありがとう交流会参加(ポスター展示とガイドツアー)	実習室2、屋外展示の森	3
11月26日(土)	動物カメラの設置など	生活実験工房、屋外展示の森	7
12月 4日(日)	環境学習センター主催、環境ほっとカフェで森のガイド担当	生活実験工房、屋外展示の森	2
12月24日(土)	竹の伐採、動物カメラの確認	生活実験工房、屋外展示の森	6
1月14日(土)	動物カメラの確認、樹冠トレイル関連など	生活実験工房、屋外展示の森	6

月日	内容	場所	参加者
1月28日(土)	クズ、キカラスウリ伐採作業	生活実験工房、屋外展示の森	2
2月25日(土)	動物カメラの確認	生活実験工房、屋外展示の森	3
2月25日(土)	西ノ湖ヨシ調査	B&G 海洋センター (近江八幡市)	1
3月12日(日)	動物カメラの確認、樹冠トレイル関連など	生活実験工房、屋外展示の森	4
3月12日(日)	はしかけ登録講座での 森人の説明	セミナー室	3
3月25日(土)	屋外展示の森の観察会	生活実験工房、屋外展示の森	3

○ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

担当：澤邊久美子

会員数：2名

[設立の趣旨] 幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指している。

[活動の概要] 2012年環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」として開催し、2016年9月からはしかけ活動として立ち上げた。毎月おおよそ第3水曜日に、約10組弱の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して頂いたり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施している。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいるが、時には0歳児や6歳児、おじいちゃんおばあちゃんもおられ、年齢幅広く、自然で遊んでいる。本年中頃から、大学生が加わり、子どもや保護者の声を録音し、自然物や展示物と子どもの成長を比較調査している。

「ちこあそ」のおもな活動

実施日	タイトル	内容
4月20日(水) 10:00～14:00	あったかい春になりました～お外でいっぱいあそぼう！	ルーペでの自然観察、森探検、田んぼや畑散策、食体験など 参加：幼児8名、保護者8名
5月18日(水) 10:00～14:00	日差しがまぶしい五月、たくさんの生き物を探して遊ぼう	田植え 参加：幼児6名、保護者5名
6月15日(水) 10:00～14:00	梅雨と夏が近づくと、博物館の森や田んぼ、野原で遊ぼう！	イモムシを観察 参加：幼児10名、保護者9名
9月21日(水) 10:00～14:00	夏が終わりつつ、秋が近づく博物館の森や野原で遊ぼう！	ゲスト（絵本作家のはやしますみさん） 参加：幼児7名、保護者6名
10月19日(水) 10:00～14:00	涼しくなって、お外で遊ぶのが心地良いです。	火おこしをして焼き芋 参加：幼児10名、保護者9名
11月16日(水) 10:00～14:00	秋から冬へ、季節の自然を楽しみましょう	かまどでご飯を炊いた 参加：幼児17名、保護者14名
12月18日(水) 10:00～14:00	寒い冬がやってきた、冬の自然を楽しみましょう！	注連縄づくり 参加：幼児10名、保護者8名
1月19日(水) 10:00～14:00	雪の季節です。博物館の森で冬を楽しもう	雪遊び 参加：幼児8名、保護者7名
2月15日(水) 10:00～14:00	寒さを吹き飛ばして、博物館の森で遊ぼう！	スイバのジャムを食べた 参加：幼児12名、保護者10名
3月12日(日) 13:30～	はしかけ登録講座	はしかけ登録講座でのグループ紹介
3月15日(水) 10:00～14:00	春ですよ～博物館の森で、春の自然で楽しもう！	雨の森で遊んだ 参加：幼児10名、保護者9名

地域交流活動への支援

地域連携は、中長期基本計画の目標である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現を目指し、地域や企業、大学などと連携し、講義を通して博物館における展示や研究の魅力を利用者に伝える手法であり、地域における自主的な人づくりとなる活動の支援を行うものである。具体的には、学芸員の専門性を活かした展示に関する興味深い内容の講義や博物館の利用者に対するスキルアップを目指した研修・講演および観察会を行い、参加型の利用者ニーズに応えた博物館づくりを目指している。2016年度は、館内59件、参加者2,245名となり、館外では30件、参加者1,722名の活動実績となった。

(1) 博物館内での支援事業

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4月20日	子どもと自然の研究所	ちっちゃな子どもの自然あそび(ちこあそ)	中川優	21
5月8日	京都造形芸術大学大学院	琵琶湖を核とした一般市民との活動・博物館における資料保存	渡部圭一	8
5月18日	あさがらの子どもと自然舎	ちっちゃな子どもの自然あそび	松田征也	21
5月21日	鹿児島大学水産学部	JICA 国際研修事業/持続可能な沿岸漁業コース	松田征也	10
5月22日	京都文教大学総合社会学部	博物館における資料保存について	渡部圭一	15
6月15日	あさがら野 子どもと自然舎	ちっちゃな子どもの自然あそび	松田征也 中川優	21
6月17日	(株)セブン-イレブン・ジャパン	滋賀プロジェクト「びわこの日」勉強会	高橋啓一	250
6月26日	関西大学博物館	設立に至る経緯/展示のコンセプト	渡部圭一	50
6月30日	ミシガン州高校生派遣団	琵琶湖の生物多様性について	グライガー	59
7月26日	佛教大学	博物館実習	渡部圭一	23
8月3日	亀山市教育委員合理科部	琵琶湖の生い立ちについて	里口保文	14
8月3日	奈良・人と自然の会	琵琶湖の自然・歴史・人の暮らし	楊平	20
8月4日	上野南部地区住民自治協議会	琵琶湖における外来種植物	芦谷美奈子	37
8月10日	草津市民センター	知ってますか?琵琶湖の話~琵琶湖とフナとフナずしと~	橋本道範	50
8月11日	関西大学 久保田賢一ゼミ	滋賀県の外来魚駆除事業について	山本充孝	20
8月17日	宮津高校フィールド探求同好会	琵琶湖のスズエビについて	山本充孝	20
8月18日	伊川を愛する会	ホテルについて	榊永一宏	22
8月20日	草津市観光ボランティアガイド協会	琵琶湖博物館での活動内容や展示及び施設概要	高橋啓一	15
8月21日	イオン西大津チアーズクラブ	外来魚釣り・解剖	岡部陽造 小林偉真 小嶋陽太	36
8月25日	愛荘町さわやかまちづくり推進会議	県の石に指定された湖東流紋岩・地震で影響がある鈴鹿西縁断層帯	里口保文	22
8月26日	(公財)滋賀県建設技術センター	琵琶湖博物館設立の経緯等	高橋啓一	24
8月28日	天理大学国際学部外国語学科	琵琶湖が有する様々な価値について	橋本道範	42
9月3日	環境レイカーズ	びわこ今昔物語~環境問題とたちむかう滋賀県民	大塚泰介	60
9月3日	生活協同組合コープしが	琵琶湖の在来魚、「琵琶湖八珍」の素材となる魚の生態や特徴、暮らしとの関わり	桑原雅之	100
9月10日	福井県自然観察指導員の会	琵琶湖産アユのなわばりと攻撃行動	山本充孝	20
9月13日	岐阜女子大学	琵琶湖博物館の概要説明・展示リニューアルの概要説明・資料管理	戸田孝	55

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
9月 13・14日	京都府立大学生命環境学部	環境微生物学	大塚泰介	10
9月15日	桜美林大学リベラルアーツ学群	琵琶湖辺の水田における生物多様性と魚のゆりかご水田	大塚泰介	16
9月24日	草津青年会議所	滋賀県の外来魚問題の現状	山本充孝	30
9月25日	イオン草津チアーズクラブ	琵琶湖で採集した動物プランクトンの顕微鏡観察	大塚泰介	24
9月30日	京都大学農学研究科	琵琶湖辺の水田における生物多様性と魚のゆりかご水田	大塚泰介	36
9月30日	龍谷大学農学部食糧農業システム学科	滋賀県の農政とゆりかご水田/変わる暮らし・変わる環境	下松孝秀 大久保実香	233
10月6日	たかつき市民環境大学	琵琶湖・淀川流域における魚類の多様性の保全について	松田征也	20
10月7日	龍谷大学農学部食糧農業システム学科	滋賀県の農政とゆりかご水田/変わる暮らし・変わる環境	下松孝秀 大久保実香	233
10月14日	泉佐野市土地改良事業団体連絡協議会	滋賀の農業の現状と施策について	下松孝秀	30
10月26日	吹田市人権啓発推進協議会千二地区委員会	琵琶湖総合開発について	北井剛	35
10月27日	福島大学菊池ゼミ	琵琶湖博物館の設置・運営等に関して	大久保実香	9
10月30日	近畿大学農学部水産学科	琵琶湖博物館の仕事、琵琶湖の固有種、滋賀県の外来魚駆除事業	松田征也 山本充孝	11
11月4日	栗東自然観察の森	琵琶湖博物館周辺の樹木についての観察会	草加伸吾	10
11月10日	(株)データ設計	琵琶湖の環境と生物および住民との関わり	大久保実香	17
11月19日	栗東市商工会	琵琶湖の固有種について	山本充孝	9
11月20日	特定非営利活動法人 自然と緑	琵琶湖のプランクトン検鏡観察	大塚泰介 鈴木隆仁	70
11月23日	おうみ映像ラボ	見聞会「ごつつおう なれずし ～魚のお供えもの～」	大久保実香	20
11月25日	草津市まちづくりセンター	ハスの生態、外来種オオバナミズキンバイについて	芦谷美奈子	29
12月3日	ながはまアメニティ会議	山と湖の自然環境のつながりについて	亀田佳代子	27
12月7日	愛壮町秦庄老人クラブ	くらしの変化について	大久保実香	35
12月13日	滋賀県商工会議所女性連合会	リニューアルの経緯とこれからの取り組み	亀田佳代子	48
12月20日	滋賀県教育委員会	琵琶湖の水環境の変化について学ぶ	浦山重雄	32
1月7日	いまづ自然観察クラブ	琵琶湖岸の生態系、外来生物の生態系	中井克樹	15
1月9日	きしわだ自然資料館	カヤネズミ飼育技術および施設	澤邊久美子	15
1月24日	滋賀大学「学習支援士」会	古琵琶湖について	里口保文	8
2月2日	せた♪森のようちえん	滋賀県の環境・農について	下松孝秀 岡部陽造 中川優	51
2月8日	滋賀県レイカディア大学	琵琶湖のプランクトンを見てみよう 外来魚が脅かす琵琶湖の生物多様性	鈴木隆仁 山本充孝	24
2月11日	京都外国語大学校友会 滋賀支部	魚のゆりかご水田について	大塚泰介	30
2月18日	龍谷大学里山学研究センター	野洲市須原の魚ゆりかご水田	金尾滋文	15
2月28日	里環境の会 OPU	ヨシ原の生きものについて(保全と活用)	澤邊久美子	5
3月9日	岐阜聖徳大学	学芸員の仕事	芳賀裕樹	28
3月11日	釣り人による清掃活動	滋賀県の水産業について	山本充孝 金尾滋史	5

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
3月29日	金沢大学大学院 人間社会環境研究科	文化資源学現地研修にかかる小講義とガイド	妹尾裕介	12

(2) 地域での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4月16日	TANAKAMI こども環境クラブ	田上・天神川の中の生き物探し (水辺の生き物を見つけよう)	榊永一宏	30
4月19日	大阪府立豊中高等学校 SSH	無脊椎動物の観察 (イカの解剖)	鈴木隆仁	18
5月9日	草津市立草津第二小学校	田んぼの生きものについて	大塚泰介	111
6月6日	草津市立笠縫東小学校	ハッタミミズ探し	大塚泰介	108
6月12日	栗見出在家魚のゆりかご水田協議会	魚のゆりかご水田観察会	大塚泰介	180
6月18日	公益財団法人国際湖沼環境委員会	水田の一年/田んぼの生き物	下松孝秀 大塚泰介	10
6月25日	滋賀県立大学同窓会「湖風会」滋賀支部	琵琶湖の誕生	里口保文	30
7月17日	守山市勝部自治会	第8回かつべ水フェスタ	金尾滋史	235
7月24日	認定NPO法人びわこ豊穰の郷	琵琶湖～赤野井湾の生い立ち	里口保文	60
7月28日	守山市下之郷遺跡公園	魚つかみと観察	松田征也	20
8月2日	快適環境づくりをすすめる会	川の生き物観察会	金尾滋史	30
8月18日	守山市下之郷遺跡公園	魚つかみの成果とお話し	松田征也	20
9月3日	TANAKAMI こども環境クラブ	田上山秋の自然観察	澤邊久美子	20
9月25日	森林マッチングセンター運営協議会	気候の変化で森はどう変わってきたか	林竜馬	100
9月30日	琵琶湖の水と環境を守る会	オオバナミズキンバイなど外来水草問題	芦谷美奈子	10
10月29日	TANAKAMI こども環境クラブ	植物を知ろう～水辺の植物の調べ方を学ぶ～	澤邊久美子	20
11月5日	TANAKAMI こども環境クラブ	田上山の自然観察 哺乳類編	澤邊久美子	20
11月11日	立命館守山高校	Lake Biwa International Science Fair (貝類の分類)	松田征也	40
11月29日	愛東南小学校	キャリア教育～仕事人と語ろう～	大島由子	40
11月30日	渋川小学校	ふなずし試食会	橋本道範	100
12月4日	吹田市環境部環境政策室	すいたまちなか水族館・生物多様性学習講座	金尾滋史	60
12月5日	日本産動物研究会	かやねずみの生息場所の解説	澤邊久美子	20
12月13日	ヤンマーミュージアム	ビオトープ維持・管理	澤邊久美子	10
12月21日	京都新聞文化部	疏水の生き物、水辺の生き物 人間の暮らしとの関わりをめぐって	金尾滋史	60
1月8日	大阪府立大学 里環境の会 OPU	博物館の仕事について	澤邊久美子	50
1月16日	米原市	ビワマスの生態について	桑原雅之	40
2月7日	逢坂小学校	エコスクール支援委員会	松田征也	20
2月18日	多賀町教育委員会	「『蜂にさされたほうがまし』の真実～多賀の祭りを支えた人びと～」	渡部圭一	50
2月19日	滋賀県庁 農政課	「世界農業遺産」認定をめざして 第2回シンポジウムリレートーク 研究者の視点	橋本道範	100
2月22日	成安造形大学	琵琶湖の民俗史	橋本道範	100

(3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

1) 質問コーナー

開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、図書閲覧室の一角に「質問コーナー」を設置し、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーに学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に答えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べられることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。対応学芸職員が日替わりで担当し、当日展示室で行う「フロアトーク」の担当も兼ねている。担当学芸職員の予定を博物館ホームページや図書閲覧室の入口壁に掲示し、専門分野の担当者がある日に質問ができるよう配慮している。質問には担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べたりして後日回答している。質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

なお、リニューアル工事に伴い、4月8日から7月3日までは土曜、日曜、祝日のみ学芸職員が質問コーナーに常駐した。

質問コーナーにおける質問受付数

期間	2016年4月1日～2017年3月31日	
総質問数	717件（937名）	
質問形態	来訪による質問	652件
	その他による質問	65件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@lbn.go.jp）を設定し、受付担当者が受信した電子メールの内容に応じて専門の学芸職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2016年度は総数227件あった。

専門的な内容を含む質問 生物（魚貝類27・その他水域17・陸域の昆虫6・その他陸域5・植物14） 地学6 歴史・民俗7 環境8 その他5	95件
施設利用や行事の問合せ・案内資料請求	21件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	5件
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	3件
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）	49件
上記質問に対する再質問等	54件

回答に回答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。
担当者を特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。
その他、一般利用者に公表されているメールアドレスとしては以下のものがある。
photo@lbn.go.jp 画像データベースに関する問い合わせ・要望・情報提供
db-admin@lbn.go.jp データベースに関する連絡
dantai@lbn.go.jp 団体利用に関する問い合わせ・打ち合わせ
chiiki_renkei@lbn.go.jp 地域連携活動に関する問い合わせ・打ち合わせ
meteo@lbn.go.jp 気象情報提供に関する各種連絡
jisshu@lbn.go.jp 学芸員実習に関する問い合わせ
hashi-adm@lbn.go.jp はしかけ制度に関する問い合わせ
press@lbn.go.jp 記者発表や報道資料提供に関する問合せ先

琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習の活動の場づくりを応援した。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 195 件 教材貸出件数 110 件

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーガ」の運用

アクセス数 449,885 件

3) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 計 21 回 登録者数 1,068 人

4) ブース出展

7月23日・24日	第9回水辺の匠面白ステージ（ウォーターステーション琵琶）
7月27日	近江八幡市学校支援メニューフェア（近江八幡市立桐原小学校）
8月20日	マザーレイクフォーラム びわコミ会議（コラボしが21）
8月31日	草津エコフォーラム2016（草津市役所）
9月21日	立命館大学琵琶湖Σ研究センター・生物資源研究センター合同シンポジウム
1月28日	草津市こども環境会議（草津市役所）

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境学習活動者交流会

取組事例の発表をもとに活動者・指導者が情報交換や交流を深めるとともに、各団体のプログラムへの相互参加や連携のきっかけづくりなど、活動者・指導者のネットワーク強化を促進するための場を設けた。

・2017年2月2日 参加者 25名（琵琶湖博物館）



2) 環境・ほっと・カフェ

環境学習活動実施者および実施を考えている人の、指導者としてのスキルアップを目的に開催するもので、今年度については、滋賀大学環境学習支援士養成コースの実習として開催した。

・12月4日 「びわ湖で森を感じよう」（琵琶湖博物館）

3) こどもエコクラブ事業

地域における子どもたちの自主的な環境学習や環境保全活動の取組である「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。（県内会員数 86 クラブ 計 5,889 名）

- ・12月11日 「淡海こどもエコクラブ活動交流会」（琵琶湖博物館） 16クラブ、243名参加
- ・3月19日 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2017」（早稲田大学西早稲田キャンパス）
県代表なかつ野洲川探検隊（守山市）が参加

4) ありがとう交流会「びわ博フェス2016」

第1期のリニューアルと第2期リニューアルの情報など展示リニューアルを発信するとともに、新しい琵琶湖博物館の魅力を交流や展示、様々なイベント等を通じて発信するため交流イベントを実施した。

- ・開催日 11月12日（土）・13日（日）
- ・主な内容：
 - フロアトーク
第1期・第2期リニューアル紹介、フロアトーク
 - 展示ガイドツアー
C展示室ガイドツアー、企画展示ガイドツアー、
 - 体験コーナー
はしかけ・フィールドレポーターワークショップ・活動紹介等
 - アトリウムコンサート
マリンバ・打楽器コンサート、よし笛コンサート
 - 企業の環境保全・CSR活動紹介
 - 地域特産を活かした食のコーナー
 - 動物ふれあい広場
やぎ、ひつじ、うさぎ、ひよこが来るよ！

情報発信活動

(1) サテライトミュージアム・地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。また、「サテライトミュージアム」事業は、2016年7月に第1期リニューアルオープンしたその広報要素も加えて展示を行うことを目的としている。

今年度は、県外5件（京都市2件、吹田市1件、東京都2件）、県内12件の計17件で、サテライトミュージアム・移動博物館を展開した。この中で、5月のゴールデンウィークには、サテライトミュージアムとして京都駅ビル駅前広場において展開し、京都市民や観光客に対し、広くリニューアルをアピールすることができた。また、7月には商業施設と共催、9月には烏丸半島で行われたイベントに合わせて、リニューアルPRも含めた移動博物館を展開した。その他、11月には企業と連携して2件、12月には県、吹田市と連携し、同様に展開を図り、いずれも好評であった。

なお、今年度は貸出が14件となっており、移動博物館事業が浸透しつつあることが分かる。

展示物に関しては、修理や補修を随時実施するとともに、子どもたちが見やすくなるよう安全で簡易な踏み台などを用意し展示キットの周辺環境の向上に努めた。

開催日	イベント名	会場	運営者
5月3日～5日	KYOTO STATION BUILDING KIDS DAY	京都駅ビル 駅前広場 (ホテルグランヴィア 京都前)	芳賀、亀田、 澤村、楊、金尾、 林、浦山
7月2日～3日	7月1日「びわ湖の日」びわ湖の恵み再発見！	イオン西大津店	貸出
7月18日	第10回博物館夏祭り	ビバシティ彦根	貸出
7月23日～24日	琵琶湖移動博物館	ピエリ守山	浦山 (貸出)
7月30日～31日	We♥SHIGA ～知る、楽しむ、エコする。～	イオンモール草津	貸出
8月11日～14日	琵琶湖ホテル 夏休みイベント	琵琶湖ホテル	貸出
9月17日～18日	イナズマロックフェス (琵琶湖博物館ブース内)	烏丸半島芝生広場	金尾、江川
9月24日～25日	～海と日本プロジェクト～BIWAKO 湖フェス (滋賀県ブース内)	びわこボートレース場	貸出
10月8日	琵琶湖環境保全再生法シンポジウム 暮らしの宝湖「琵琶湖」のために 私たちができること	びわ湖プリンスホテル	貸出
10月19日～21日	びわ湖環境ビジネスメッセ2016 (滋賀県ブース内)	長浜バイオ大学ドーム	貸出
10月27日	滋賀ふるさと市場	自由民主党本部前 (東京都千代田区)	貸出
11月19日～20日	琵琶湖博物館がやってくる!!	イオン近江八幡店	芳賀、浦山
11月27日	ダイハツ工業株式会社滋賀テクニカルセンター25周年祭	ダイハツ工業株式会社 滋賀テクニカルセンタ	浦山 (貸出)
12月4日	「びわこ×さかな×すいた」～琵琶湖博物館がやってくる!～	千里市民センター (大阪府吹田市)	金尾 (貸出)
12月10日～11日	京都環境フェスティバル2016 (滋賀県ブース)	京都府総合見本市会館 (京都市伏見区)	貸出
12月18日	日本創生のための将来世代応援知事同盟共同事業「第2回いいね! 地方の暮らしフェア」(滋賀県ブース内)	東京国際フォーラム (東京都千代田区)	貸出
1月23日～27日	龍谷大学との連携による琵琶湖の発信	龍谷大学瀬田キャンパス	貸出



KYOTO STATION BUILDING KIDS DAY
京都駅ビル 駅前広場 (京都市下京区)



琵琶湖博物館がやってくる!!
イオン近江八幡店

(2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週10回程度である。このほか、収蔵資料の情報も公開している。

平成28年度の連続アクセス数(述べ利用者数)は約100万件で、前年とほぼ同様の結果となった。ただし、リニューアル前にあたる4月から6月の連続アクセス数はそれぞれ2万件程度低く、かわりにリニューアル後の7月と8月の連続アクセス数は前年に比べて1～2.5万件程度増加していた。7月と8月の連続アクセス

数は、平成 25 年度以来の水準であった。また、9 月にはサイバー攻撃による WEB サーバーの停止期間があったことにより、連続アクセス数が低下している。

資料データベースのデータ閲覧件数は 132,994 件となり、前年よりアクセスの増加がみられた。この変動原因は不明である。

インターネットページへのアクセス件数(2016 年度)

	連続アクセス	ページヒット数	表紙アクセス	データベース
	(延べ利用者数の近似値)	(閲覧ページ総数)	(表紙閲覧回数)	データ閲覧件数
4 月	64,848	222,135	23,659	4,544
5 月	73,556	236,625	26,003	2,719
6 月	79,002	243,436	30,471	3,304
7 月	140,815	439,181	74,400	4,708
8 月	126,865	391,734	65,575	5,066
9 月	66,591	220,336	32,385	1,869
10 月	76,321	314,285	31,502	90,391
11 月	85,611	329,615	31,430	6,152
12 月	70,697	313,583	23,129	3,513
1 月	75,151	306,782	26,628	5,214
2 月	67,742	280,099	22,644	2,893
3 月	78,548	337,431	29,932	2,621
合計	1,005,747	3,635,242	417,758	132,994

注：アクセス解析には当館のウェブサーバ上に記録したアクセスログを用いた。

館内からのアクセスは解析の前に通り除いてあり、上記の結果は館外からのアクセスである。

ただし、ウェブ上を巡回するロボットページは除外していない。

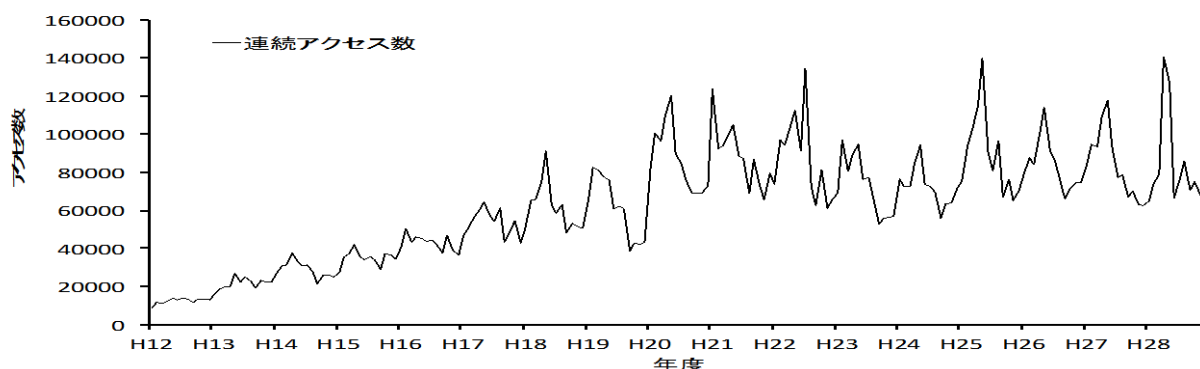
連続アクセス数(延べ利用者数の近似値)：同一利用者が概ね 1 時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合わせて 1 件と数えた場合のアクセス件数。

ページヒット数(閲覧ページ総数)：各ページの定義ファイルに対する要求件数。

表紙アクセス数：トップページの閲覧回数

データベースデータ閲覧件数：データベースの各データページの閲覧回数

連続アクセス件数の経年変化



(3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
企画展示「びわ博カルタ」展示解説書	A4	106	1,000
企画展示「びわ博カルタ」CD付箱入カルタ			500
企画展示「びわ博カルタ」ポスター	A1		1,000
企画展示「びわ博カルタ」チラシ	A4		50,000
企画展示「びわ博カルタ」イベントチラシ	A4		10,000
企画展示「びわ博カルタ」レストランレータイプ	長方形		1,000
企画展示「びわ博カルタ」レストランレータイプ	正方形		1,000
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2017	A1		1,500
広報用「魚チラシ」	A1		220,000
琵琶湖博物館のイベント チラシ平成28年度	A4		25,000
開館20周年記念式典 次第	B4 二折		200
開館20周年記念国際シンポジウム 講演要旨集	A4	16	300
開館20周年記念国際シンポジウム チラシ	A4		1,000
開館20周年記念特別研究セミナー要旨集	A4		100
「湖と人間の未来を考える」館内案内パンフレット（日本語）	A4	16	1,000
「湖と人間の未来を考える」館内案内パンフレット（英語）	A4	16	1,000
琵琶湖博物館展示案内（英語）	A5	16	1,000
琵琶湖博物館展示案内（中国語）	A5	16	1,000
びわ博だより 第25号	A4	4	3,000
びわ博だより 第26号	A4	4	3,000
びわ博だより 第27号	A4	4	3,000
びわ博だより 第28号	A4	4	3,000
要覧（日本語）	A4	41	500
要覧（英語）	A4	36	500

Ⅲ 新琵琶湖博物館の創造

新琵琶湖博物館の創造

琵琶湖博物館は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んできたところである。

開館以来20年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいることから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館には求められている。

そのため、2012年度に館内に新琵琶湖博物館創造準備室を設置し、新たな博物館像の提示・展開のあり方等について検討を行い、展示・交流空間の再構築の方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」（以下、「ビジョン」という。）をまとめ、そのビジョンを踏まえて2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定した。

2014年度において、体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるよう、基本計画に基づき第1期リニューアル（C展示室、水族展示）の実施設計を行い、それに基づき2015年度に展示および建設工事に着手し、2016年7月に第1期リニューアルオープンした。

加えて、2016年度において、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため、基本計画に基づき第2期リニューアル（交流空間）の実施設計を行った。

(1) 第1期リニューアル

①内覧会 2016年7月12日（火）

②第1期リニューアルオープン 2016年7月14日（木）

詳細は、I 開館20周年記念事業 3 P.7 参照

(2) 滋賀県議会への報告等

滋賀県議会に、第1期リニューアル後の状況報告と第2期リニューアルの実施設計内容の説明を行った。

①環境・農水常任委員会 2016年10月5日

②環境・農水常任委員会 2016年12月15日

③環境・農水常任委員会 2017年3月9日

(3) 第2期リニューアルにかかる展示・建築設計等の契約締結

①交流空間実施設計業務委託 契約日：2016年7月8日 契約業者：(株)乃村工藝社

②旧UNEP施設改修設計委託 契約日：2016年8月4日 契約業者：(株)片淵建築事務所

③樹冠トレイル予備設計業務委託 契約日：2016年6月9日

契約業者：(株)オリエンタルコンサルタンツ滋賀事務所

④樹冠トレイル地質調査業務委託 契約日：2016年6月9日 契約業者：土質コンサル(株)

⑤樹冠トレイル詳細設計業務委託 契約日：2016年11月11日

契約業者：(株)修成建設コンサルタント滋賀事務所

(4) 有識者評価の実施

有識者の学術的・専門的な視点からの意見を、第2期の展示制作に反映させるための会議を開催した。

① 2016年10月19日（染川香澄氏、井島真知氏）

【おとなのディスカバリー】

- ・方向性について
- ・展示の要素について
- ・展示室の名称について

【ディスカバリールーム】

- ・カウンターの高さについて
- ・観察ツールについて
- ・展示手法について
- ・対象年齢に合わせた楽しみ方について
- ・ハンズオンとレプリカの狭間について

② 2017年1月19日（塩瀬隆之氏）

【おとなのディスカバリー】

- ・展示方法について
- ・仕掛け、働きかけについて

【ディスカバリールーム】

- ・カウンターや椅子の高さについて
- ・対象年齢に合わせた楽しみ方について
- ・入口及び室内の視線誘導的なご意見について
- ・のぞき筒の設置方法について

(5) 来館者調査の実施

来館者の意見を集約し、第2期のレストラン・ショップのリニューアルに反映する調査を実施した。

① 2016年9月22日（来館者のインタビュー調査）

【来館者調査】

- ・年齢層
- ・同伴含めた総人数
- ・同伴者
- ・居住地
- ・ショップの利用状況
- ・レストランの利用状況
- ・その他意見

【レストラン来店者調査】

- ・年齢層
- ・同伴含めた総人数
- ・同伴者
- ・出発地
- ・来館回数
- ・注文メニューと金額
- ・満足度
- ・リニューアルへの要望

- ・その他要望、意見

【ショップ来店者調査】

- ・年齢層
- ・同伴含めた総人数
- ・同伴者
- ・出発地
- ・来館回数
- ・買上商品と金額
- ・満足度
- ・リニューアルへの要望
- ・その他要望、意見

(6) 来館者による展示評価の実施

来館者の意見を集約し、第2期の展示制作に反映する調査を実施した。

① 2016年11月12日（来館者のインタビュー調査）

【おとなのディスカバリー】

- ・関心のある分野は何か
- ・自分自身で何か調べた経験はあるか
- ・おとなのディスカバリーで何をしたいか
- ・どんな機器やサービスがあるとよいか
- ・他に要望はあるか

【ディスカバリールーム】

- ・今日はこの部屋で何をしたか
- ・子供にとって学びにつながったことはあったか
- ・親子で会話はあったか
- ・展示物の扱い方でわからないものはあったか
- ・ディスカバリールームをもっと親子で楽しめるために何をしたらよいか
- ・あなたにとってディスカバリールームはどんな部屋か

(7) ユニバーサルデザイン評価の実施

ユニバーサルデザインの観点からの意見を第2期の展示制作等に反映させるための会議を開催した。

① 2016年12月6日（田淵千恵子氏、美濃部裕道氏、古閑正孝氏、古閑美恵子氏、北代元雄氏）

- ・第2期実施設計素案について
- ・現場確認
- ・その他

IV 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

第1期リニューアルオープンに向けて、来館者用駐車場の案内看板の更新や区画線、路面表示の改修などを行い、来館者に利用していただきやすい駐車場となるよう整備した。また、県立施設無料Wi-Fi整備事業により、前年度に館内に4箇所のアクセスポイントを設置したが、今年度には更に1箇所増設し、来館者の利便性の向上や利用機会の拡大につながるものと期待される。

(2) 情報システムの整備

・端末機器の更新

2016度は特に大きな更新は無かった。ただし、9月に発生したホームページへのサイバー攻撃を受けて、より強固なセキュリティ対策を講じるため、2017年度の自治体情報セキュリティクラウドへのサーバー移行にむけた計画を進めた。

・セキュリティ等

情報システムの中核機器については専門業者に業務を委託し、常時監視を行っている。9月17日(土)と9月23日(金)に、琵琶湖博物館のホームページの原因不明のサービス停止が発生した。停止の原因としてサイバー攻撃の可能性も考えられたため、ホームページ利用者の不正サイトへの誘導やウィルスの二次感染、情報漏えい等、さらなるリスクを防ぐ目的で、安全性の確保ができるまで配信サービスを一時的に停止した。さらなる攻撃への対策として、安全性の確認作業とDDoS攻撃への対策機能の強化や、個人情報等の保護の徹底、復旧後の監視体制の強化を実施した。対策実施後には、現在のところホームページの停止は確認されていない。現在までのところ、サーバー内への侵入や改ざんの形跡は発見されていない。

端末のセキュリティについてはウィルス等対策ソフトウェアを全機にインストールし、完全スキャンを毎日行うように設定している。ウィルスをふくむ添付書類の付いた電子メールがしばしば発見されるが、開封はされておらず、対策ソフトウェアの処理と電子メールの削除で対処できている。

(3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の展示の企画や広報活動など博物館活動や運営を考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケートを年数回実施している。

本年度のアンケートは、1回目は夏休み期間の金曜日から日曜までの3日間、2回目は春休み期間の金曜日から日曜までの3日間で連続して実施した。観覧券発売時に毎日1,000枚を限度として手渡しで配布するとともに、アトリウムに記入用紙と回収箱を設置した。調査内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式13項目、記述式2項目の全15項目からなる。設問のうち、来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。くわえて、本年度の7月にリニューアルした展示に対する満足度についても調査を実施した。

1) 実績

今年度は夏と初春の2回実施した。

第1回 2016年8月26日(金)～28日(日)

第2回 2017年3月24日(金)～26日(日)

2) 結果

回収率：今回の調査の回収率は第1回調査が1.4～4.6%（回答総数226枚）、第2回調査が3.1～5.1%（回答総数158枚）で、昨年のこの時期の実施例から回収率、回答総数とも減少した。リニューアル後ということで混雑していたことも影響していると思われるが、回収率の向上にむけた工夫が必要と考えられる。

来館回数：第1回調査、第2回調査ともに「4回以上」の割合がもっとも高く、昨年度に多かった「はじめて」の割合が減少した。これは、リニューアルにより、主に近隣に地域からのリピート率が高くなったことを示していると考えられる。

年齢層・居住地・来館手段・同行者：年齢層の結果はおおむね従来通りで、30代、40代が中心であるが、60代の利用者割合の増加が見られた。居住地は第1回調査、第2回調査で、それぞれ県内54.4%、44.3%、県外37.6%、46.8%で、県内からの利用者率の増加が見られた。移動手段は例年通りに、自家用車が圧倒的に多数だった。同行者は、例年通り「家族」での来館が圧倒的に割合が高い状況であった。

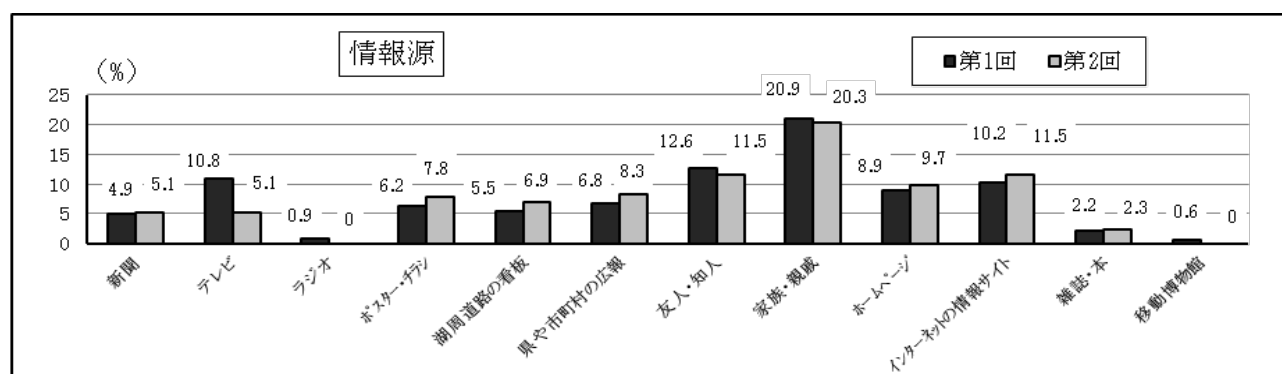
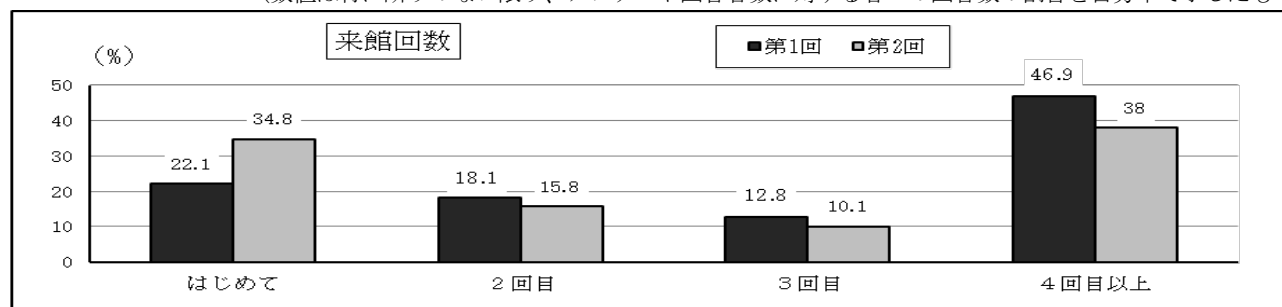
情報源：友人・知人、家族・親戚による情報が多く、例年通り口コミが最も重要な情報源であった。博物館ウェブサイトとその他情報サイトの合計は、第1回調査、第2回調査で、それぞれ19.1%、21.2%と昨年度よりも需要の増加が認められた。この結果から、リニューアル効果の発信も含めて、インターネットによる効率的な情報発信の重要性が増していることが伺われる。

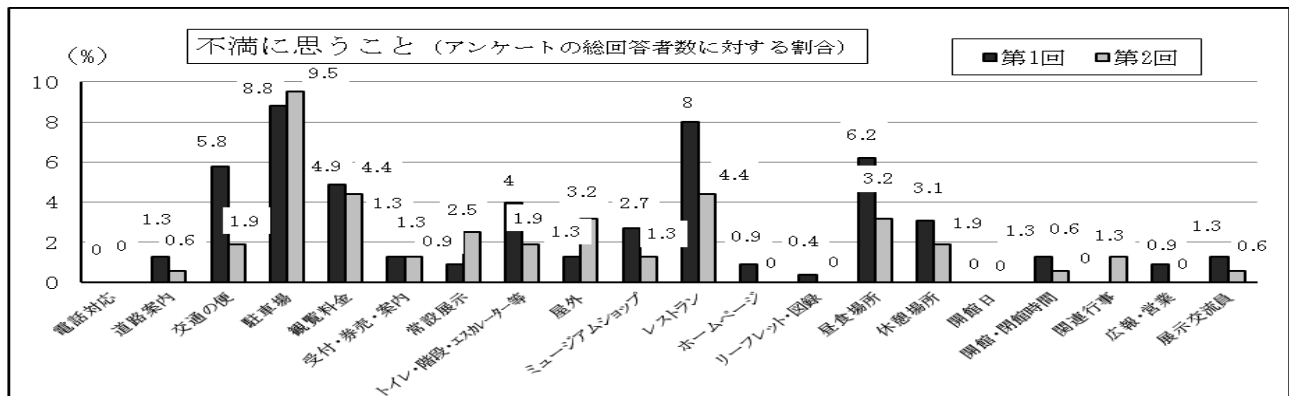
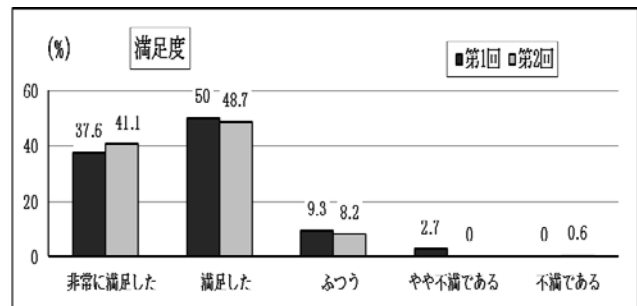
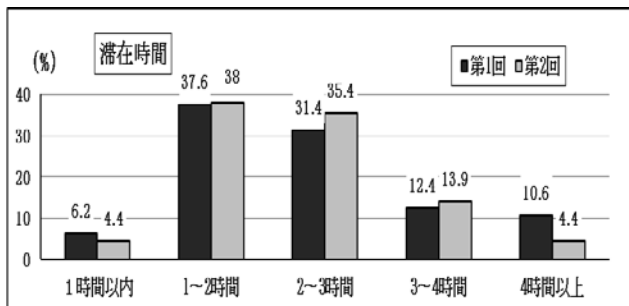
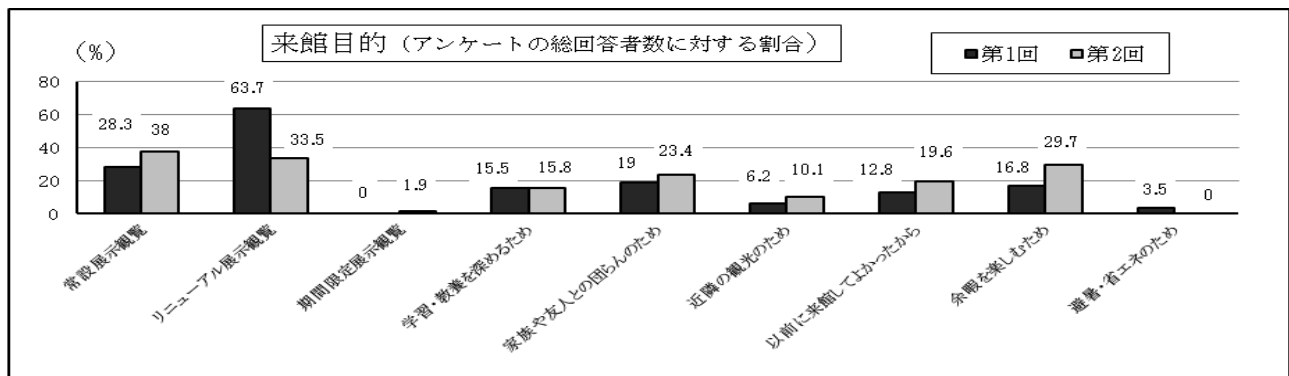
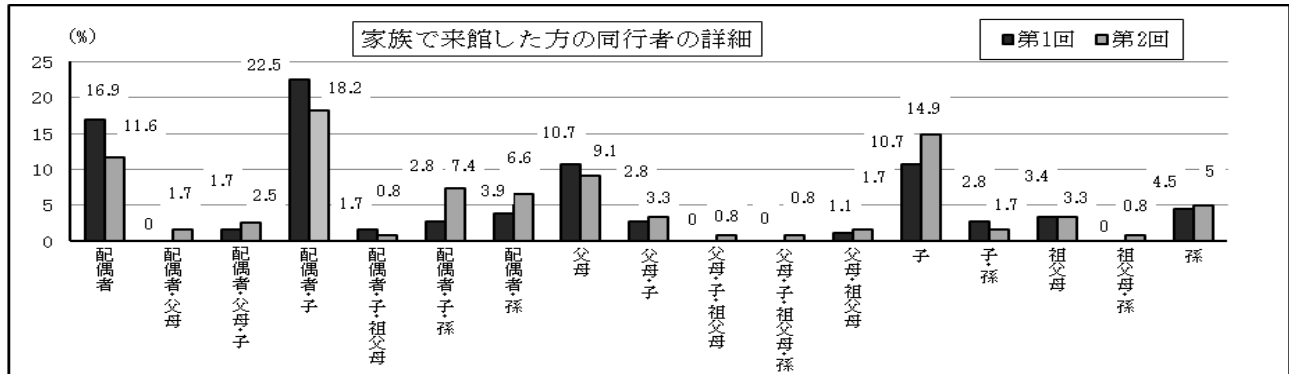
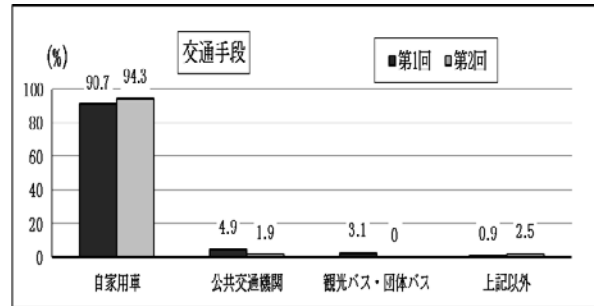
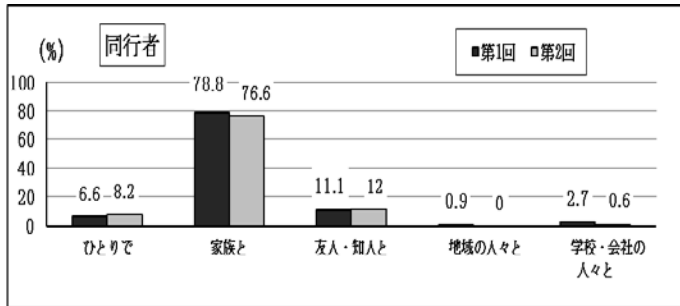
滞在時間：滞在時間は、両調査ともに1～2時間で最も多く、2～3時間がこれに次いだ。

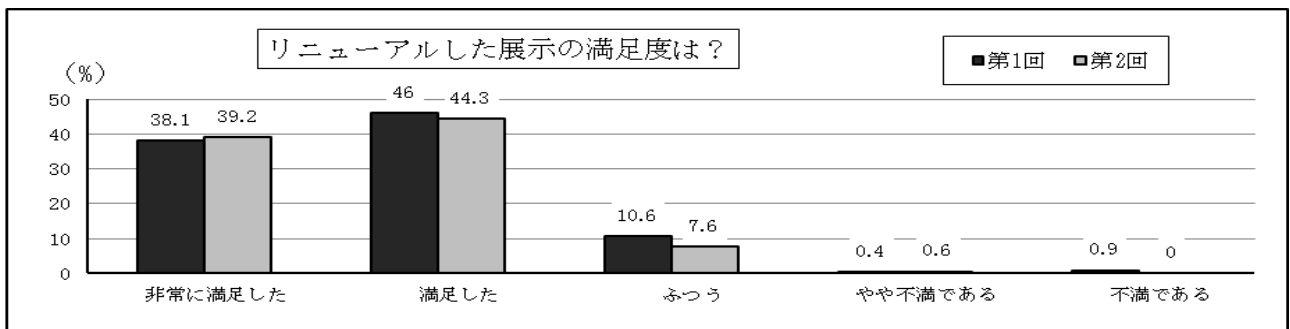
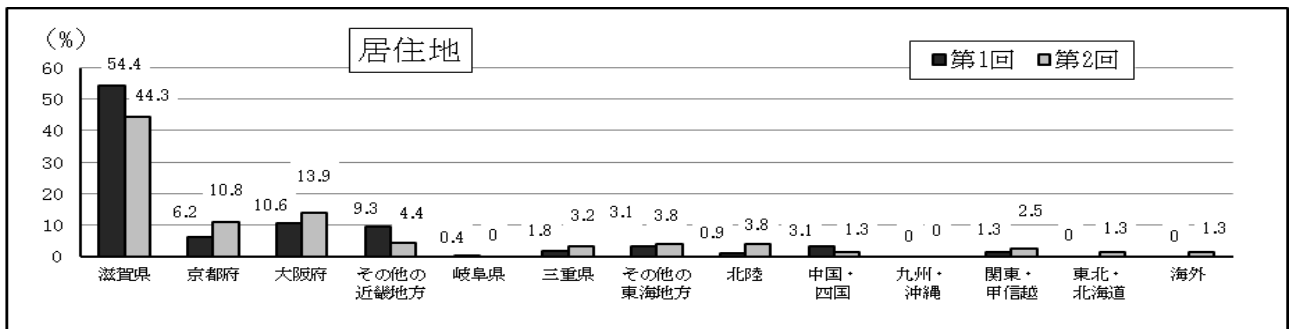
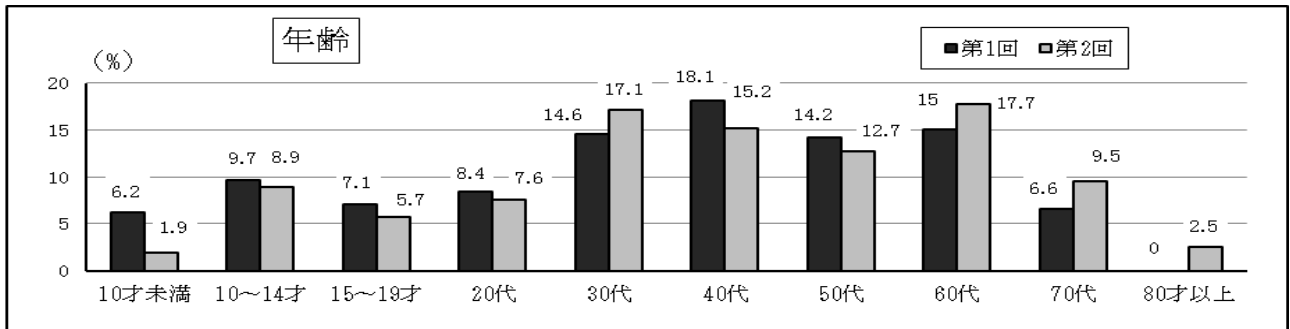
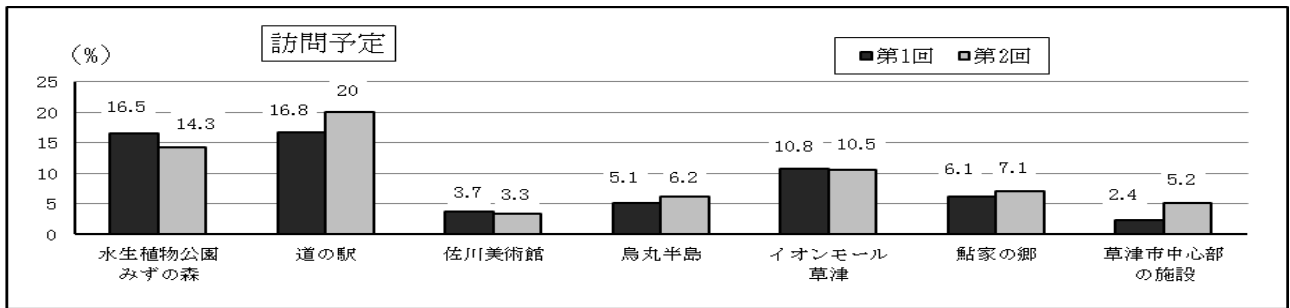
満足度：博物館の満足度については、「非常に満足した」と「満足した」を合わせると、第1回調査、第2回調査で、それぞれ87.6%、89.8%となり、比較的高い水準を維持している。リニューアル展示の感想についても、「非常に満足した」と「満足した」を合わせて、84.1%、83.5%となり、高い評価をうけた。

不満：両調査ともに、駐車場や観覧料金、交通の便、昼食場所等に対する不満についての言及があった。夏休みについては、アンケート回答者のうち不便を感じたと回答した方の割合が44.2%と高く、レストランへの苦情も高かったことから、今後のリニューアルの中においても混雑時における対応が求められる。

（数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの）

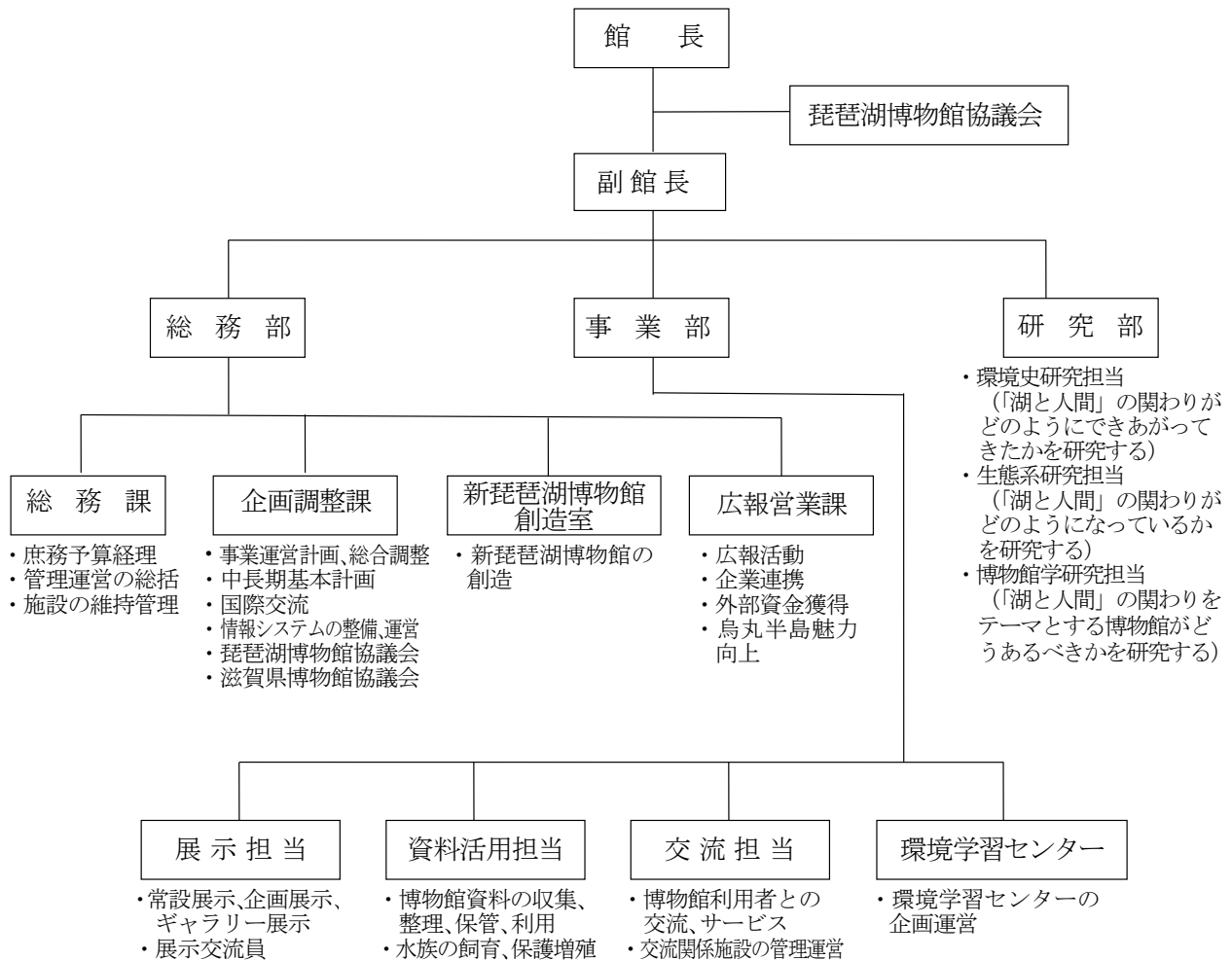






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成（2016年10月1日現在：兼務・併任職員を含む）

区分	館長 (非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	11	30	2	44	18	62

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	化学	合計
人数(名)	25	1	1	1	1	1	30

(2) 職員

(2016年10月1日現在)

- 館長 篠原 徹
- 副館長 津田 清和
- 副館長 高橋 啓一
- 主席参事 藤村 俊樹
- 上席総括学芸員 マーク ジョセフ グライガー

総務部

- 部長(事務取扱) 津田 清和

◇ 総務課

- 課長 磯間 貢志
- 主幹 萩山 幸代
- 副主幹 松井 智
- 副主幹 山川 祐司
- 主事 南 祐貴子

◇ 新琵琶湖博物館創造室

- 室長(兼) 藤村 俊樹
- (兼) 桑原 雅之
- (兼) 亀田佳代子
- 主幹 藤田 和也
- (兼) 浦山 重雄
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 榊永 一宏
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 下松 孝秀
- 主査(兼) 山田 幸男
- (兼) 山本 充孝
- (兼) 北井 剛
- (兼) 岡部 陽造
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 小林 偉真
- (兼) 林 竜馬
- (兼) 澤邊久美子
- (兼) 大久保実香

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 亀田佳代子
- 課長補佐(兼) 西居 史浩
- (兼) 浦山 重雄
- (兼) 楊 平
- (兼) 林 竜馬

◇ 広報営業課

- 課長(兼) 藤村 俊樹
- 課長補佐 西居 史浩
- 副主幹(兼) 澤村 和宏
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 渡部 圭一

事業部

- 部長(兼) 桑原 雅之

◇ 展示係

- 係長(兼) 榊永一宏
- (兼) 里口 保文
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 北井 剛
- (兼) 澤邊久美子
- (兼) 鈴木 隆仁

◇ 資料活用係

- 係長(兼) 橋本 道範
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 大島 由子

◇ 交流係

- 係長(兼) 大塚 泰介
- (兼) 安福 俊幸
- (兼) 下松 孝秀
- (兼) 山本 充孝
- 主査(併任) 岡部 陽造
- 主任主事(併任) 小林 偉真
- (兼) 大久保実香
- (兼) 妹尾 裕介
- 環境学習センター
- 所長(事務取扱) 松田 征也
- 副主幹 澤村 和宏

研究部

○部長（兼） 山川 千代美

◇ 環境史研究係

係長 総括学芸員 山川千代美
 専門学芸員 里口 保文
 専門学芸員 橋本 道範
 主査（兼） 北井 剛
 主任学芸員 楊 平
 学芸員 林 竜馬
 学芸員 大久保実香
 学芸員 妹尾 裕介

◇ 博物館学研究係

係長 専門学芸員 戸田 孝
 専門学芸員 大塚 泰介
 （兼） 岡部 陽造
 主任学芸員 金尾 滋史
 （兼） 小林 偉真
 学芸技師 渡部 圭一
 学芸員 大島 由子

◇ 生態系研究係

係長 総括学芸員 亀田佳代子
 総括学芸員 松田 征也
 総括学芸員 桑原 雅之
 総括学芸員 八尋 克郎
 総括学芸員 芳賀 裕樹
 専門員（兼） 安福 俊幸
 専門員（兼） 浦山 重雄
 専門学芸員 中井 克樹
 専門学芸員 榊永 一宏
 専門学芸員 ロビン ジェームス スミス
 主任主査（兼） 下松 孝秀
 主任学芸員 芦谷美奈子
 主査 山本 充孝
 学芸員 澤邊久美子
 学芸技師 鈴木 隆仁

嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	中西 康介	資料標本整理
江川 久雄	広報・集客	三榊友梨香	資料標本整理
北浦 孝雄	企業連携	草加 伸吾	交流事業
中川 優	屋外展示運営	小嶋 陽太	交流事業
片淵 綾香	展示室運営	黄瀬 金司	学校学習
森 智美	展示室運営	高木 成美	図書資料整理
高石 清治	展示物維持補修	山本 藤樹	環境学習
秋山 廣光	資料標本整理	鶴飼 菜香	環境学習
烏野 妙子	資料標本整理	片山 瑞木	環境学習

特別研究員

天野 一葉	池田 勝	柏尾 珠紀	川瀬 成吾	北村 美香	草加 伸吾	楠岡 泰
黒岩 啓子	篠原 耕平	朱 偉	瀬口 眞司	高梨 純次	辻川 智代	寺本 憲之
中野 聰志	中野 正俊	中西 康介	廣石 伸互	藤岡 康弘	矢田 直樹	Blakenmore
川那部浩哉	布谷 知夫	中島 経夫	前畑 政善	用田 政晴		

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター（登録者数 207 名（うちスタッフ 9 名））

青木 環	青木 春乃	秋山 廣光	穴蔵 雅彦	飯田 貞美	飯田 隆行	飯田 俊宏
一木 彰	市原 龍	一色 厚志	井野 勝行	井上 修一	上田 修三	遠藤 浩子
大岡 紀彦	岡田 葵	岡田 和美	岡田宗一郎	岡田 創暉	小川千奈美	小川 哲仙
奥村 治男	尾原 直行	片岡 庄一	加藤紳一郎	加藤 美由紀	椛島 昭紘	川北 浩史
川口 健一	河崎 凱三	川南 仁	北口 和雅	北口 颯真	北田 稔	木本 裕也
桐畑 信夫	楠岡 泰	窪田美知留	熊木 慧弥	熊木 武志	小上 泰代	後藤 真吾

小林 亮平	五木田まきは	坂口 誠	佐々木結衣	清水 瑛太	清水 俊平	清水菜々子
清水 真紀	清水 牧子	住田 健	千田 佳穂	千田 祥生	千田はる恵	千田 紘慈
対中いづみ	立川 直樹	谷口 真司	谷口 雅之	辻 いづみ	津田 厚弘	津田ひかる
土金 慧子	筒井 聡子	手良村昭子	手良村知功	手良村知央	中井 美香	中井 大介
中尾 博行	中嶋 佐苗	長津 純子	中野 敬二	中村 重信	永谷 想生	永谷美津恵
西塚 由美	西之園保夫	畑中 清司	蜂屋 正雄	初田 彩加	濱道 秀	東 まち子
久国 正吉	福岡 敏雄	藤野 勇馬	藤本 昭義	布施 善明	降旗 町子	堀 千恵子
前迫羽衣子	前迫 嘉光	前田 攝子	前田 博美	前畑 政善	増永裕里子	松井 清子
松里 香織	松里 凜	松田 道一	間所 忠昌	三谷 軌文	三田村緒佐武	村野 やえ
村山 晃彦	森野 秀三	矢野 修	矢野としこ	矢原 功	八尋 由佳	籾内まゆ子
山川 和馬	山口 瑞彦	山下 克己	山田 加奈	山田 小鞠	山田 珊瑚	山田 創馬
山田 基宏	山田 柚穂	山本皓一郎	山本 晴美	山本真里子	山本由里子	吉川 秀司
吉野 彰一	吉本 瀧侍	吉本 由花	吉本 凜花	若代 隆行	若代 智子	安井加奈恵
遠阪 聡子	奥村 恵子	奥村恵津子	岡田 幹夫	加固 啓英	角井 俊明	角尾千寿子
乾 明美	久保 和友	桐江 利雄	口分田政博	荒井 紀子	高山奈津子	佐藤良太郎
笹井まち子	三村 武士	山元 祐人	山崎 千晶	山川佳那子	山川 茜	山川 栄樹
山川 侑夏	山本 篤	寺田 泰子	寺田 誠	酒井 啓子	勝見 政之	小野 麻代
小林 隆夫	松本偉之助	松本 勉	森 擴之	水戸 基博	水戸 涼介	水戸 涼乃
水相 修躬	杉江ミサ子	西崎嘉代子	青山 喜博	浅井 良英	前田 雅子	村上 靖昭
多胡 好武	大橋 義孝	谷村 啓子	端 久雄	中井 民子	中川 徳司	中村 教子
中村 公一	中島いづみ	津田久美子	津田 國史	渡辺 克彦	渡辺 秀美	土田 正文
藤田 章子	白井 幸子	筈井美智子	畠山 寿枝	肥土マサ子	武田 繁	平井 政一
片山 慈敏	保科 雅子	保科 秀行	保科 政秀	保科 明俊	北側 忠次	堀 英輔
本田 英樹	本田 幹雄	野間 鉄夫	和田 至博			

◇はしかけ (登録者数 305名)

愛須 美由起	青木 環	青木 春乃	秋山 廣光	穴蔵 雅彦	飯住 達也	飯田 貞美
飯田 隆行	飯田 俊宏	池田 勝	石角江里佳	一木 彰	市原 龍	井上 修一
岩西紗江子	岩本 りか	上田 修三	宇野 翔	梅澤 正夫	榎本 真司	遠藤 浩子
大岡 紀彦	大堀 忠厚	大依 久人	岡田 葵	岡田 和美	岡田宗一郎	岡田 創暉
小川千奈美	小川 哲仙	尾崎 友輔	尾原 直行	片岡 庄一	片山めぐみ	加藤美由紀
金山美佐子	椛島 昭紘	神谷 悦子	川北 浩史	川口 涼	河崎 凱三	河野小夜子
川邊 咲子	川南 仁	北口 和雅	北口 颯真	北田 稔	木本 裕也	草加 伸吾
楠岡 泰	窪田美知留	熊谷 明生	熊谷 明美	熊木 慧弥	熊木 武志	桑田 向陽
五木田まきは	後藤 真吾	小林 亮平	小松 大治	小松 連	斎藤 知行	斉藤 文子
坂口 誠	作村 知穂	佐々木亜弥子	佐々木結衣	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	嶋田 隆良
嶋田 美里	嶋田 結心	杉山 國雄	住田 健	瀬野 知彦	瀬野 美貴	千田 佳穂
千田 祥生	千田はる恵	千田 紘慈	対中いづみ	田井中由利子	高部 千裕	立川 直樹
谷口 浩	谷口 雅之	谷本 正浩	辻 いづみ	辻本 一暁	辻本紗也佳	辻本 智子
津田ひかる	土金 慧子	筒井 聡子	手良村昭子	手良村知功	手良村知央	寺尾 尚純
徳永 成美	徳永 優	徳永 義利	戸田 歌子	戸田 博通	富 小由紀	中井 美香
中井 大介	中尾 京子	中尾 博行	中島 財	中嶋 佐苗	中西 春陽	中西 優一
中野 敬二	中村 重信	永谷 想生	永谷美津恵	納屋内高史	西之園保夫	西村 有巧

西本 千晃	根来 健	ノパラット・テープテーパ	畑中 清司	蜂屋 正雄	服部 圭治
服部 雅也	土生 陽子	濱道 秀 林 克子	東 まち子	久国 正吉	肥田 嘉文
肥山 陽子	広瀬 優樹	深田 元子 福岡 敏雄	福野 憲二	藤橋 和弘	藤本 昭義
古川まや子	別所かおる	別所 宏二 堀田 恵子	堀 千恵子	堀内 孝子	堀田 修身
堀田 博美	前川 桂子	前迫羽衣子 前迫 嘉光	前田 攝子	前田 博美	前畑 政善
増永裕里子	松里 香織	松里 凜 松田 道一	間所 忠昌	水谷 智	三谷 軌文
三田村緒佐武	三輪 祐子	村田 博之 村野 やえ	村山 和夫	村山 晃彦	森田美佳子
安原 輝	矢野 修	矢野としこ 矢原 功	八尋 由佳	藪内 和子	藪内まゆ子
山川 和馬	山口 瑞彦	山口 幸江 山下 克己	山田 恵美	山田 和毅	山田 小鞠
山田 創馬	山田 正樹	山田 基宏 山野井邦彦	山本 阿子	山本皓一郎	山本つや子
山本 晴美	山本 藤樹	山本真里子 山本由里子	吉岡 伸子	吉川 秀司	吉田恵太郎
吉田 範香	吉野 心晴	吉野 彰一 吉野まゆみ	吉本 瀧侍	吉本 由花	吉本 凜花
若代 隆行	若代 智子	若本 丈夫 渡邊菜美子	芦田 弘美	安井加奈恵	吉井 隆
吉田 達矢	吉野千栄子	久保 玲子 宮本 直興	橋本 昭也	金山 正之	桑垣 瑞
後長シマ子	荒井 紀子	高山 博好 高田 昌彦	今井 洋	佐々木幹朗	佐々木信幸
佐々木則子	佐々木満保	佐瀬 章男 斎藤 禎量	笹生 正則	三村 武士	山崎 千晶
山川佳那子	山川 茜	山川 栄樹 山川 侑夏	山中 裕子	山本 道子	寺田 泰子
芝崎美世子	酒井 啓子	小野 麻代 小野 容子	小林 隆夫	松川 郁子	松本 勉
上田 康之	森 擴之	水戸 基博 水戸 涼介	水戸 涼乃	西川 美喜	西村 義隆
青山 喜博	石井 正臣	石井 千津 石井 利和	石川 雅量	石田 勉	石田 未基
川瀬 成吾	川田 裕元	前田 雅子 村上 靖昭	大橋 正敏	大橋 洋	竹元 冴矢
竹谷 満弘	中山 法子	中西 寛子 中村 聡一	津田久美子	津田 國史	辻 実沙記
辻 真宏	辻川 智代	田中 雅也 田中 治男	渡辺圭一郎	藤田 敦子	藤田 成子
南 和美	畠山 寿枝	浜地トミ子 富田久仁枝	武田 広志	武田 繁	服部 彩乃
服部 隆義	福永 和馬	福森 弘二 片山 康夫	片山 慈敏	北村 明子	本田 英樹
木下多津江	木原 靖郎	木村 恵子 立石 文代	鈴木 直子	和田 至博	國分 政子
澤田 知之	綺田万紀子	齊藤 眞琴 齊藤眞由美	柳原 徳子		

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2016 年度入館者数)

1) 総入館者数

期 間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

合 計：461,493 人

開館日数： 310 日

一日平均： 1,489 人

月 平均： 38,458 人

入館者区分別内訳

区分	個人 (人)	団体 (人)	合計 (人)	構成比 (%)
未就学児	59,632	24,490	84,122	18.2
小学生・中学生	55,753	56,825	112,578	24.4
高校生・大学生	7,466	5,770	13,236	2.9
一般	228,199	23,358	251,557	54.5
合計	351,050	110,443	461,493	100.0

年 月	開館 日数	有料入館 (人)				無料入館 (人)										総 計 (人)	1 日 当 り 平 均 (人)
		一 般	高 大 学 生	小 中 学 生 (企 画 展 示)	有 料 計	65 歳 以 上	障 害 者	家 族 ふ れ あ い サ ン デ ー 等	体 験 学 習	ハ ル ビ の 日	学 校 行 事	小 中 学 生	そ の 他	無 料 計			
2016.4	27	3,054	1,256	0	4,310	312	328	410	2	0	1	2,066	3,676	6,795	11,105	411	
5	26	5,150	247	0	5,397	375	440	285	2	387	325	4,137	4,286	10,237	15,634	601	
6	26	3,669	187	0	3,856	243	600	696	1	0	108	3,913	3,301	8,862	12,718	489	
7	23	25,829	1,173	0	27,002	3,014	1,939	3,375	10	0	115	13,048	14,788	36,289	63,291	2,752	
8	30	44,737	2,828	0	47,565	5,047	3,149	2,956	42	0	279	24,331	26,965	62,769	110,334	3,678	
9	23	21,048	1,629	823	23,500	1,847	2,196	1,983	10	0	1,491	9,936	11,658	29,121	52,621	2,288	
10	27	16,870	1,058	1,241	19,169	2,007	2,202	1,643	12	0	5,174	15,588	10,409	37,035	56,204	2,082	
11	26	12,314	1,069	639	14,022	1,479	1,434	4,132	2	0	2,882	9,638	8,741	28,308	42,330	1,628	
12	22	6,338	548	333	7,219	881	765	1,006	4	0	864	3,127	5,646	12,293	19,512	887	
2017.1	27	9,605	456	536	10,597	950	895	185	10	0	596	4,440	7,347	14,423	25,020	927	
2	24	6,959	472	0	7,431	665	606	1,708	3	0	82	3,336	6,355	12,755	20,186	841	
3	29	11,566	1,527	0	13,093	1,285	1,039	1,861	11	0	2	5,393	9,854	19,445	32,538	1,122	
計	310	167,139	12,450	3,572	183,161	18,105	15,593	20,240	109	387	11,919	98,953	113,026	278,332	461,493	1,489	

*家族ふれあいサンデー等：「関西文化の日」における無料入場者を含む

2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2016.4	全 体	5	447	4	328	6	831	1	49	1	361	17	2,016
	県 内	0	0	1	37	0	0	0	0	0	0	1	37
5	全 体	12	1,043	10	1,486	4	372	1	17	1	4	28	2,922
	県 内	1	102	1	169	1	294	1	17	1	4	5	586
6	全 体	19	1,334	11	1,570	1	16	3	135	2	55	36	3,110
	県 内	12	737	2	196	0	0	1	5	0	0	15	938
7	全 体	10	522	7	831	9	474	0	0	6	148	32	1,975
	県 内	0	0	1	14	3	84	0	0	3	74	7	172
8	全 体	3	155	3	234	7	390	0	0	7	226	20	1,005
	県 内	0	0	2	107	3	102	0	0	0	0	5	209
9	全 体	37	2,929	2	187	4	257	6	112	13	577	62	4,062
	県 内	21	1,546	1	84	3	157	3	28	3	305	31	2,120
10	全 体	138	11,284	5	533	4	234	7	156	7	372	161	12,579
	県 内	69	4,810	2	279	1	44	4	58	3	279	79	5,470
11	全 体	65	4,814	10	1,288	4	250	8	100	5	301	92	6,753
	県 内	37	2,282	5	469	2	46	7	84	0	0	51	2,881
12	全 体	13	892	2	143	3	133	4	92	4	148	26	1,408
	県 内	6	542	1	15	0	0	4	92	1	17	12	666
2017.1	全 体	14	898	0	0	0	0	0	0	2	29	16	927
	県 内	8	432	0	0	0	0	0	0	1	9	9	441
2	全 体	12	886	2	180	0	0	3	48	2	43	19	1,157
	県 内	9	638	2	180	0	0	3	48	0	0	14	866
3	全 体	2	26	1	59	3	88	0	0	3	400	9	573
	県 内	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
合計	全 体	330	25,230	57	6,839	45	3,045	33	709	53	2,664	518	38,487
	県 内	164	11,093	18	1,550	13	727	23	332	12	688	230	14,390

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2016.4	3,478	2,470	5,157	11,105
5	7,430	3,543	4,661	15,634
6	4,909	2,295	5,514	12,718
7	28,109	11,602	23,580	63,291
8	31,064	16,961	62,309	110,334
9	28,533	9,553	14,535	52,621
10	19,195	9,205	27,804	56,204
11	15,178	7,672	19,480	42,330
12	9,648	4,523	5,341	19,512
2017.1	7,546	6,144	11,330	25,020
2	10,648	3,698	5,840	20,186
3	13,163	5,514	13,861	32,538
計	178,901	83,180	199,412	461,493
構成割合	38.8%	18.0%	43.2%	100.0%

(2) 広報活動

2016年7月に第1期リニューアルを行い、また開館20周年を迎えた。リニューアルオープンに関し、有料広告や資料提供等を通じて多くの話題を提供し、メディアに取り上げてもらうことができた。また専門業者に広報業務を委託し、パブリシティ活動を中心とする広報活動を展開し、観覧者も46万人に達することができた。広告掲載10件、資料提供54件の広報活動を行い、テレビ・ラジオ92件、新聞掲載295件、雑誌等掲載123件、またWEBでも256件取り上げられた。今後は第2期リニューアルに向け県外への周知、京阪神の家族連れといったターゲットを絞った広報等さらなる広報活動を展開していく必要がある。

1) 広告掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
2016年 4月	まっふる滋賀びわ湖 (琵琶湖とその水辺景観ガイド特集)	AB版	1/6	全国	6.8万部
7月	滋賀県観光物産 web サイトバナー広告	滋賀県観光物産 サイト上		全国	
7月	チェキポン7月号	B6版	1ページ	県内全域	12万部
7月	JR 駅貼りポスター	B1版		草津駅・膳所 駅・大津駅	各1枚
7月	グーグルインドアビュー	グーグル公式 サイト上		全国	
8月	秋びわ東海版	A4版	1/4	東海	7万部
2017年 1月	るるぶ.com (1月1日～12月31日)	るるぶ公式サ イト上		全国	
2月	るるぶこどもとあそび名古屋東海	AB版	1/8	東海	4.5万部
1月	るるぶ滋賀2017	AB版	1/8	全国	8.9万部
3月	おでかけドライブ中部版	A型変型判	1/3	東海	22万部

2) 資料提供

	提供日	件名
1	4月11日	琵琶湖博物館のリニューアルへの御支援に対する感謝状の贈呈式を開催します
2	4月13日	「漁師さんと行くエリ漁ツアー」を開催します
3	4月22日	琵琶湖博物館 ディスカバリールーム 「みんなで「びわこいのぼり」を作ろう！」を開催しています
4	5月27日	トピック展示「日本地質学会が選んだ滋賀県の石」の実施
5	5月31日	(記者発表) 琵琶湖博物館 7月14日リニューアルオープン
6	6月3日	映画『マザーレイク』上映関連トピック展示 「ピワッシーができるまで」を開催します
7	6月10日	琵琶湖博物館リニューアルにむけてバイカルアザラシが到着します!
8	6月14日	琵琶湖博物館「はしかけ会員」に対するメールの誤送信について
9	6月16日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会委員を募集します
10	6月29日	琵琶湖博物館の学芸員が「ふなずし」の歴史に関する書籍を出版しました
11	7月5日	琵琶湖博物館リニューアルオープン! プレス内覧会とオープニングセレモニーを開催
12	8月10日	メキシコサラマンダー(ウーパールーパー)が大津市内の河川で採集されました
13	8月10日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附について寄附目録・感謝状の贈呈式を開催します <ダイフク>
14	8月19日	滋賀県立琵琶湖博物館「琵琶湖博物館ブックレット」が創刊されました
15	8月29日	滋賀県立琵琶湖博物館 オープン後の来館者が15万人を突破しました

	提供日	件名
16	9月7日	滋賀県立琵琶湖博物館ワークショップ 『みんなで描こう！琵琶湖の生き物たち』の開催
17	9月9日	カヤネズミの赤ちゃんが誕生しました！
18	9月13日	滋賀県立琵琶湖博物館 第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」の開催
19	9月19日	琵琶湖博物館ホームページのサービス停止について
20	9月20日	琵琶湖博物館のリニューアルへの御支援に対する感謝状の贈呈式を開催します <28年4月～8月>
21	9月21日	平成28年度第1回 滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
22	9月23日	滋賀県立琵琶湖博物館 「琵琶湖博物館ブックレット」第3弾が刊行されます
23	9月23日	琵琶湖博物館ホームページのサービス復旧について
24	9月24日	琵琶湖博物館ホームページのサービス再停止について
25	10月4日	琵琶湖博物館ホームページのサービス復旧について
26	10月7日	滋賀県立琵琶湖博物館「山門水源の森2050シンポジウム」を開催します
27	10月7日	滋賀県立琵琶湖博物館 国際シンポジウム「古代湖の魅力」参加申し込み期限せまる！
28	10月13日	琵琶湖博物館のリニューアルへの御支援に対する感謝状の贈呈式を開催します <津田産業>
29	10月13日	滋賀県立琵琶湖博物館 開館20周年！ 記念式典・国際シンポジウムを開催します
30	10月25日	琵琶湖博物館の特別研究員が日本原生生物学会の教育賞を受賞しました
31	10月26日	琵琶湖博物館 アトリウムコンサート「私たちが奏でる琵琶湖の響き」を開催します
32	11月4日	琵琶湖博物館 ありがとう交流会「びわ博フェス2016」を開催します
33	11月4日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族展示「下流域の魚たち」水槽にビワマスが入りました！
34	11月9日	(記者発表) 琵琶湖博物館学芸員による著作物からの不適切な引用について
35	11月9日	琵琶湖博物館 新空間展示「魚米之郷」の考古学が始まりました
36	11月11日	琵琶湖・鳥丸半島魅力向上活性化協議会 「からすまいちばん スタンプラリー2016」を実施します
37	11月11日	ぼてじゃこトラスト20周年記念フォーラム第2弾 「イチモンジタナゴの復元放流を考える!」を開催します
38	11月25日	全国カヤ・サミットを開催します！
39	12月7日	『淡海こどもエコクラブ活動交流会』を開催します
40	12月12日	琵琶湖博物館 第24回企画展示「びわ博カルタ」12月10日に入場者3万人を達成しました！
41	12月15日	琵琶湖博物館 CD付箱入り「びわ博カルタ」できました！
42	12月15日	『第7回 琵琶湖地域の水田生物研究会』を開催します
43	12月16日	琵琶湖博物館 水族展示 トンネル水槽にサンタクロースが登場します！
44	12月20日	琵琶湖博物館 企画展示関連イベント「新春びわ博カルタ・ウィーク」を開催します
45	12月27日	琵琶湖博物館 マイクロアクアリウム 国内初！琵琶湖から発見された群体ヒドラの生体展示が始まりました
46	1月20日	琵琶湖博物館 新琵琶湖学セミナー 「リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み」を開催します
47	1月26日	琵琶湖博物館 マケドニア共和国オフリド水生生物研究所と協力協定を締結しました
48	1月27日	琵琶湖博物館「環境学習活動者交流会」 企業ビオトープの事例発表会とパネルディスカッションを開催します
49	2月3日	株式会社商工組合中央金庫大津支店様から琵琶湖博物館への寄附贈呈式を開催します <商工中金>
50	2月9日	平成28年度第2回 滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
51	2月9日	琵琶湖博物館 新空間展示 「代々続くヨシ問屋 西川嘉右衛門家の暮らし」が始まりました

	提供日	件名
52	2月22日	琵琶湖博物館 フィールドレポーター調査 「飛び出し坊やを調べよう」の結果がまとまりました
53	3月24日	琵琶湖博物館 来館者が45万人を突破しました！
54	3月29日	国際科学雑誌に掲載！琵琶湖堆積物の花粉化石から15万年間の気候と森の変動が解明されました

3) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4/20	ワイド!スクランブル	琵琶湖博物館の水族のモビールの話 展示製作者の本間ますみ氏	テレビ朝日	
4/23	ぶっちゃけインタビュー	日本最長のハッタミミズの研究	ラジオ大阪	大塚泰介専門学芸員
5/6	ニュースほっと関西	延木由起子さんの描いた鳥瞰図を琵琶湖博物館に所蔵	NHK 総合	
5/11	関西のニュース	「県の石」3種	NHK 総合	里口保文専門学芸員
5/14	NHK ニュースおはよう日本	延木由起子さんの描いた鳥瞰図を琵琶湖博物館に所蔵	NHK 総合	
6/4	地球ドラマティック	マンモスをよみがえらせろ!	NHK Eテレ	高橋啓一副館長
6/2	おうみ発 630	リニューアル	NHK 大津	渡部圭一学芸技師
6/2	ニュース 845	リニューアル	NHK 総合	渡部圭一学芸技師
6/6	関西のニュース	草津市の小学生日本最長のミミズであるハッタミミズを探す授業	NHK 総合	大塚泰介専門学芸員
6/7	ぐるっと関西おひるまえ	日本最長のハッタミミズ探しの話題	NHK 総合	大塚泰介専門学芸員
6/9	ぐるっと関西おひるまえ	リニューアル	NHK 総合	渡部圭一学芸技師
6/13	地球ドラマティック	マンモスをよみがえらせろ!	NHK Eテレ	高橋啓一副館長
6/15	かんさい情報ネット ten.	バイカルアザラシ搬入	読売テレビ	大島由子学芸員
6/15	キラりん滋賀ニュース	バイカルアザラシ搬入	びわ湖放送	大島由子学芸員
6/15	お昼のニュース	バイカルアザラシ搬入	NHK 総合	大島由子学芸員
6/15	ニュースほっと関西	バイカルアザラシ搬入	NHK 総合	大島由子学芸員
6/15	ニュース 845	バイカルアザラシ搬入	NHK 総合	大島由子学芸員
6/16	朝のニュース	バイカルアザラシ搬入	びわ湖放送	大島由子学芸員
6/16	ぐるっと関西おひるまえ	バイカルアザラシ搬入	NHK 総合	
6/23	笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ	リニューアル	KBS 京都ラジオ	渡部圭一学芸技師
6/29	スタイル	ハッタミミズ	FM 滋賀	大塚泰介専門学芸員
7/1	笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ	湖国ハッタミミズ・ダービー		大塚泰介専門学芸員
7/1	滋賀県住みます芸人ファミリーレストラン～草津市編～	琵琶湖博物館の紹介	ZTV	
7/8	滋賀プラスワン「びわこの日」	リニューアル	びわ湖放送	渡部圭一学芸技師
7/9	滋賀プラスワン「もっと琵琶湖を知ろう！」	琵琶湖と生きものに関するクイズ番組	びわ湖放送	渡部圭一学芸技師
7/10	滋賀プラスワン「もっと琵琶湖を知ろう！」	琵琶湖と生きものに関するクイズ番組	びわ湖放送	渡部圭一学芸技師
7/11	たんたんおうみ	リニューアルオープンについて	KBS 京都ラジオ	
7/12	お昼のニュース	リニューアル内覧会の様子	NHK 総合	
7/12	おうみ発 630	リニューアル内覧会の様子	NHK 大津	

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
7 12	キラりん滋賀ニュース	リニューアル内覧会の様子	びわ湖放送	
7 14	かんさい情報ネット ten.	リニューアルオープンの様子	読売テレビ	渡部圭一学芸技師
7 14	VOICE	リニューアルオープンの様子	毎日放送	
7 14	お昼のニュース	リニューアルオープンの様子	NHK 総合	渡部圭一学芸技師
7 14	おうみ発 630	リニューアルオープンの様子	NHK 大津	
7 14	BS 列島ニュース	琵琶湖博物館リニューアルオープン	NHK (BS1)	
7 14	キラりん滋賀ニュース	リニューアルオープンの様子	びわ湖放送	
7 14	アミンチュテレビ BBC	琵琶湖博物館がリニューアル	びわ湖放送	
7 15	キラりん滋賀ニュース	リニューアルのプロセスを特集形式で紹介	びわ湖放送	
7 18	VOICE	琵琶湖のハスの異常事態	毎日放送	芦谷美奈子主任学芸員
7 20	あさチャン	琵琶湖のハスの異常事態	毎日放送	芦谷美奈子主任学芸員
7 20	おはよう朝日です	水族各所 (ヤナ水槽・バイカルアザラシ)	朝日放送	渡部圭一学芸技師
7 21	ぐるっと関西おひるまえ	リニューアルオープンの様子	NHK 総合	渡部圭一学芸技師
7 22	おうみ発 630	「シガトク」コーナーのスポットバイカルアザラシ、マイクロクアリウム	NHK 大津	渡部圭一学芸技師
7 27	おうみ発 630	琵琶湖のハス	NHK 大津	芦谷美奈子主任学芸員
7 28	ニュース 845	巨大ウナギ	NHK 総合	桑原雅之総括学芸員
7 29	ガイアの夜明け	「ヨシの匂い」「カワウの森の匂い」「鮎寿司の匂い」の再現	BS ジャパン	金尾滋史主任学芸員
8 1	知ったかぶりカイツブリニュース	内覧会の様子	びわ湖放送	
8 4	VOICE	ヤモリの習性	毎日放送	金尾滋史主任学芸員
8 4	ちちんぷいぷい	ヤモリ	毎日放送	金尾滋史主任学芸員
8 6	滋賀プラスワン 夏休みスペシャル「うおーたんのわくわくこども体験隊」	生まれ変わった琵琶湖博物館を探検	びわ湖放送	
8 7	滋賀プラスワン 夏休みスペシャル「うおーたんのわくわくこども体験隊」	生まれ変わった琵琶湖博物館を探検	びわ湖放送	
8 10	ガイアの夜明け	「ヨシの匂い」「カワウの森の匂い」「鮎寿司の匂い」の再現	テレビ東京系列	金尾滋史主任学芸員
8 12	キラりん滋賀	リニューアルした琵琶湖博物館を満喫	びわ湖放送	
8 19	ガイアの夜明け	「ヨシの匂い」「カワウの森の匂い」「鮎寿司の匂い」の再現	BS ジャパン	金尾滋史主任学芸員
9 7	おはようコール ABC	エビシーのオススメスポット琵琶湖博物館の紹介	朝日放送	金尾滋史主任学芸員
9 10	しらしがテレビ	「びわ博カルタ」、シンポジウム「古代湖の魅力」	びわ湖放送	
9 12	(関西の) 夕方のニュース	17 万人突破	NHK 総合	渡部圭一学芸技師
9 16	滋賀プラスワンインフォメーション	「びわ博カルタ」、シンポジウム「古代湖の魅力」	FM 滋賀	渡部圭一学芸技師
9 17	しらしがテレビ	「びわ博カルタ」、シンポジウム「古代湖の魅力」	びわ湖放送	
9 21	おうみ発 630	17 万人突破	NHK 大津	渡部圭一学芸技師

放送日	番組名	内容	媒体	担当者	
10	6	おうみ発 630	びわ湖を世界へ発信	NHK 大津	亀田佳代子総括学芸員
10	17	すまたんじっぷ	黄金ナマズ	読売テレビ	渡部圭一学芸技師
10	31	ニッポンの里山 ふるさとの絶景に出会う旅	「魚たちが命をつなぐ庭園」	NHK (BSP)	松田征也総括学芸員
11	4	滋賀プラスワンインフォメーション	「ありがとう交流会『びわ博フェス☆2016』」	FM 滋賀	澤村和宏副主幹
11	10	あさチャン! MBS ニュース	凶鑑盗用	毎日放送	
11	10	おうみ発 630	凶鑑盗用	NHK 大津	
11	10	ニュース 845	凶鑑盗用	NHK 総合	
11	19	おとな旅あるき旅	施設紹介	テレビ大阪	
11	24	ニュースほっと関西	「かんさい水中紀行」ビワマス、産卵を撮る!	NHK 総合	桑原雅之事業部長
12	3	北野誠のズバリサタデー	琵琶湖のハス	CBC ラジオ (名古屋)	芦谷美奈子主任学芸員
12	4	関西のニュース	カヤサミット	NHK 総合	澤邊久美子学芸員
12	4	ニュース 845	カヤサミット	NHK 総合	澤邊久美子学芸員
12	5	ニュース 845	カヤサミット	NHK 総合	澤邊久美子学芸員
12	6	ZIP!	生き物〇×クイズ「鯉」	読売テレビ	山本充孝主査
12	8	NHK ニュースおはよう日本	ビワマスの産卵	NHK 総合 (全国)	桑原雅之総括学芸員
12	23	ニュース 845	サンタクロース	NHK 総合	金尾滋史主任学芸員
12	23	キラりん滋賀ニュース	サンタクロース	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
12	24	ニュース深読み	ダイビングするサンタクロース	NHK 総合	金尾滋史主任学芸員
12	24	ニュース ZERO	トンネル水槽にサンタクロース	読売テレビ	金尾滋史主任学芸員
12	25	ニュース・サンデー	サンタ姿のダイバー	読売テレビ	金尾滋史主任学芸員
12	30	湖国ニュースこの1年		びわ湖放送	
12	31	湖国ニュースこの1年		びわ湖放送	
1	4 ～ 6	おうみかわら版 (滋賀)	かるたイベント	ZTV	渡部圭一学芸技師
1	8 ～ 14	Weekly! かわら版 (滋賀)	かるたイベント	ZTV	渡部圭一学芸技師
2	2	おうみ発 630	企業ビオトープ	NHK 大津	松田征也総括学芸員
2	2	ニュース 845	企業ビオトープ	NHK 総合	松田征也総括学芸員
2	7	ニュースほっと関西	スジシマドジョウ	NHK 総合	松田征也総括学芸員
2	7	ニュース 845	スジシマドジョウ	NHK 総合	松田征也総括学芸員
2	8	おうみ発 630	プロジェクター贈呈式	NHK 大津	
2	8	ニュース 845	プロジェクター贈呈式	NHK 総合	
3	10 ～ 13	おうみかわら版 (滋賀)	集う・使う・創る新空間「写真展 石橋まんぼ」	ZTV	渡部圭一学芸技師
3	12 ～ 18	Weekly! かわら版 (滋賀)	集う・使う・創る新空間「写真展 石橋まんぼ」	ZTV	渡部圭一学芸技師

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	3	あいおいニッセイ同和損保 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブが琵琶湖博物館のリニューアル工事に 200 万円を寄付	毎日新聞
	3	琵琶湖博物館改装中の展示室工夫紹介	中日新聞
	4	[近江と人と]森と文明 変化たどる 花粉の化石を研究する琵琶湖博物館林竜馬学芸員	読売新聞
	4	琵琶博 7 月に第 1 期リニューアル開館 新展示舞台裏魅せます 試作模型や移送の映像	京都新聞
	5	交響施設改修まとめて計画 県、財政や人口減見すえ方針 早めに修繕 131、建て替えなど 277、廃止 86… びわ湖ホールや琵琶湖博物館などが該当	朝日新聞
	6	県は琵琶湖博物館など県立施設の 5 エリア 無料 Wi-Fi で観光客おもてなし	産経新聞
	8	闇焦がす炎の舞 「松明まつり」(近江八幡) 琵琶湖博物館 C 展示室のヨシと人々のかかわりを紹介するコーナーに松明 5 基を展示	読売新聞 (しが県民情報)
	9	[湖岸より]<261> 地域学芸員成果見て 榎永一宏専門学芸員	中日新聞
	14	新装オープン寄付に感謝状 琵琶湖博物館	読売新聞
	18	伝統の漁法、湖魚料理 おいしく食べて学ぼう 琵琶湖博物館でイベント	毎日新聞
	18	県施設で楽々インターネット 琵琶湖博物館など 5 ヲ所で無料ワイファイ提供	中日新聞
	21	滋賀舞台に「マザーレイク」関係者向け試写会 交通啓発看板や琵琶湖博物館など県民が慣れ親しむものも多く登場	中日新聞
	23	[湖岸より]<262> 見逃せない春の「むら」祭り 渡部圭一学芸技師	中日新聞
	25	[談]ハッタミミズを追って① カエル調査で偶然発見ゲーム感覚「最長」探し 大塚泰介専門学芸員	産経新聞(夕刊)
26	ハリヨすむ池再び 守山の企業、敷地に造る 保全へまず 19 匹放流 金尾滋史主任学芸員のコメント	京都新聞	
26	[談]ハッタミミズを追って② 土食べ現在最長 96 センチ大きく育つ条件は? 大塚泰介専門学芸員	産経新聞(夕刊)	
27	[談]ハッタミミズを追って③ 魚が好きで理系に気付けば「泥の研究」 大塚泰介専門学芸員	産経新聞(夕刊)	
28	[談]ハッタミミズを追って④ 目指せ「田んぼの自慢」生き物の魅力伝えたい 大塚泰介専門学芸員	産経新聞(夕刊)	
30	[湖岸より]<263> 生命の神秘 魚の卵を展示 松田征也総括学芸員	中日新聞	
5	4	ニゴロブナ ホンモロコ コイ… 魚の塗り絵で 10 メートルこいのぼり 琵琶博来館者協力の作品展示	京都新聞
	5	塗り絵をうるこに「びわこいのぼり」琵琶湖博物館	中日新聞
	9	[凡語]琵琶湖の湖魚食 川那部浩哉元琵琶湖博物館館長	京都新聞
	12	「県の石」選定 湖東流紋岩/トパーズ/古琵琶湖層群の足跡化石 <写真資料提供:『湖東流紋岩』>	毎日新聞
	12	「県の石」3 種選ばれる <岩石>湖東流紋岩=東近江、<鉱物>トパーズ=大津、<化石>動物の足跡=湖南 里口保文専門学芸員のコメント <写真資料提供:『湖東流紋岩』『足跡化石』『トパーズ』>	中日新聞
	12	ハリヨ保全へ繁殖池 絶滅危惧種の淡水魚 守山・旭化成製造所で取り組み琵琶湖博物館も協力	産経新聞
	13	トパーズなど「県の石」選定 琵琶湖博物館などで展示	産経新聞
	13	「飛び出し坊や」探せ 東近江発祥琵琶博が県民調査 大久保実香学芸員のコメント	京都新聞
	14	[湖岸より]<264> 質問あれば気軽に相談を 金尾滋史主任学芸員	中日新聞
	14	[エキタビ]農家の顔が見える専門店 道の駅草津近くにはピロコオオナマズなど珍しい琵琶湖の魚を展示する琵琶湖博物館	読売新聞(夕刊)
	16	僕も琵琶湖の漁師さん 跳ねるコアユに歓声 守山沖で親子エリ漁体験、琵琶湖博物館	京都新聞
	17	[地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り]<59> 近世宿場の建物今に 京都に隣接「日本の回廊」役果たす 米原市醒井宿資料館 滋賀県博物館協議会会長篠原徹琵琶湖博物館館長	毎日新聞
	18	「県の石」3 種類選定 日本地質学会琵琶博で展示 <写真資料提供:『湖東流紋岩』『足跡化石』『トパーズ』>	京都新聞
	20	水田の生態系絵本に 命のつながり知って 琵琶湖博物館などに足を運んでタガメやザリガニのスケッチや生態系について疑問をぶつける	読売新聞
22	「県の石」学会が選定 トパーズ・湖東流紋岩・足跡化石 里口保文専門学芸員のコメント	朝日新聞	
24	県レッドデータブック ゲンゴロウ湖国「絶滅」護岸や外来種原因 八尋克郎総括学芸員のコメント	京都新聞	
28	[湖岸より]<265> 目的意識明確にし活用を 岡部陽造主査 / 重さ 2.6 キロのトパーズ 県立琵琶湖博物館「県の石」3 種類を展示 里口保文専門学芸員のコメント	中日新聞	
28	水田をのぞいてみると命が共生していました 県内の風景モデル、絵本出版 琵琶湖博物館に出向き生物のスケッチを重ねたりして構想を練る	産経新聞	
30	[近江と人と]専門外ズブズブはまる 日本一長いミミズを研究する琵琶湖博物館大塚泰介専門学芸員	読売新聞	
6	1	大型トパーズなど展示 琵琶博で「県の石」3 種 里口保文専門学芸員のコメント	京都新聞
	3	[募集]琵琶湖博物館 フィールドレポーター「飛び出し坊やを調べよう」	読売新聞 (しが県民情報)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
6	4	琵琶湖舞台映画「Mother Lake」瀬木直貴監督 琵琶湖博物館など県内10ヵ所以上でロケ 国愛、撮影で実感 きょう京滋で先行公開	湖 京都新聞(夕刊)	
	7	ハッタミミズ 大物70センチ 草津笠縫東小児童「長くてびっくり」指導した大塚泰介専 門学芸員のコメント	京都新聞	
	7	学芸員もびっくり 長〜いハッタミミズ見つかった? 大塚泰介専門学芸員のコメント	産経新聞	
	7	推定70センチの大物も 草津笠縫東小4年生ハッタミミズ探し 大塚泰介専門学芸員の コメント	中日新聞	
	8	ホテルおもてなし対決 大津若手17人接客競う 琵琶湖博物館など地元の名所を丁寧 に案内	読売新聞	
	8	飛び出し坊や みんなで探そう 県立琵琶湖博物館登録レポーターが調査 琵琶湖博 物館のコメント	朝日新聞	
	8	クリクリお目々もうすぐ 琵琶湖博物館来月14日新装 <写真資料提供:『バイカルアザ ラシ』>	中日新聞	
	10	足跡化石調査27年成果刻む 琵琶博発行全国175ヵ所を解説	京都新聞	
	11	[湖岸より]<266> 琵琶湖は水草の宝庫 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞	
	14	琵琶博新装へ最終準備 来月14日オープン 湖の環境再現 バイカル湖の生物も 広報担 当渡部圭一学芸技師のコメント	京都新聞	
	15	会員214人アドレス琵琶博が誤送信	京都新聞	
	16	水が合うみたい 琵琶湖博物館バイカルアザラシ到着 大島由子学芸員のコメント	読売新聞	
	16	琵琶湖博物館に新顔 バイカルアザラシ到着 <写真資料提供:『バイカルアザラシ』>	毎日新聞	
	16	湖国に来たバイ! バイカルアザラシ2頭到着 琵琶湖博物館バイとマリ♀	中日新聞	
	16	くりくりの瞳かわいい バイカルアザラシ2頭 来月から琵琶博展示 大島由子学芸員の コメント	京都新聞	
	17	[催し]トピック展示「ビワッシーができるまで」	産経新聞	
	24	びわ湖の日PRへ 湖国産食材使い2新商品 琵琶湖博物館で発表会 県・草津市・コンビ ニ開発1日から発売、琵琶湖博物館のリニューアルに合わせ草津市も取り組みに加わる	京都新聞	
	24	愛彩菜おにぎり発売 来月県内のセブン-イレブン 琵琶湖博物館で発表会 県内店舗では リニューアルオープンする琵琶湖博物館のポスターも掲示しPR	中日新聞	
	25	[湖岸より]<267> 人と自然の深い関わり紹介 亀田佳代子総括学芸員	中日新聞	
	28	バイカルアザラシペア到着 県立琵琶湖博物館来月14日リニューアル	朝日新聞	
	28	草津、高島の味で新商品セブン-イレブン 三日月知事や橋川渉草津市長らが琵琶湖博 物館で試食	読売新聞	
	30	真っ赤な熱帯昆虫大津に ヒラズゲンセイ 県立琵琶湖博物館が県内で確認した3例目 琵 琶湖博物館のコメント	朝日新聞	
	7	1	[幸せランチ]レストランにほのうみの「湖の幸の天井」 篠原徹琵琶湖博物館館長	読売新聞(夕刊)
		2	消えたハス謎に覆われ 草津・烏丸半島 国内最大級群生地 芦谷美奈子主任学芸員の コメント / [一緒にやろうよ]水辺の生き物親子で親しむ、ぼてじゃこワパク塾(大津市) 講師役に秋山廣光元学芸員	京都新聞
		6	真っ赤な昆虫「4例目でした」琵琶湖博物館が訂正	朝日新聞
		8	県立琵琶湖博物館リニューアル14日オープン 湖とともに生きる 古代湖の世界をのぞく [水族展示] 桑原雅之総括学芸員のコメント、琵琶湖の過去・現在・未来[C展示室] 亀田 佳代子総括学芸員のコメント、市民と創る知の拠点 篠原徹琵琶湖博物館館長の話	京都新聞
		9	[湖岸より]<268> 水族展示いよいよ 桑原雅之総括学芸員	中日新聞
		10	群生ハス 湖面に姿なし 草津、観光の目玉 市やきもき 芦谷美奈子主任学芸員の話	読売新聞
		12	「びわ湖の親」PRポスター完成 成安造形大 長谷川さん、「琵琶湖博物館のリニュー アルを踏まえ親しみがあがり琵琶湖の魅力を感じるポスターができた」と三日月大造知事	毎日新聞
		12	バイちゃんも待ってるよ! 琵琶湖博物館20周年で改装	毎日新聞(夕刊)
13		県の石に「湖東流紋岩」「トパーズ」「足跡化石」も地質学会認定 里口保文専門学芸 員のコメント / 草津の琵琶湖博物館あす新装 琵琶湖の神秘実感、ヨシや剥製など人と命 の関わり紹介	読売新聞	
13		湖の価値 五感で感じて あす琵琶湖博物館リニューアル開館 金尾滋史主任学芸員の コメント	京都新聞	
13		見て触れて楽しんで 琵琶湖博物館あす新装	中日新聞	
14		琵琶湖の世界体感しよ 琵琶博、きょう再オープン バイカルアザラシも/微生物大きく投 影… 広報担当、渡部圭一学芸技師のコメント	朝日新聞	
14		淡水世界より深〜く 草津の琵琶湖博物館リニューアル開館	京都新聞(夕刊)	
15		五感の出会い 県立琵琶湖博物館新装 / 180万年前ワニの歯化石 多賀「ヨウスコウ」 と類似点 高橋啓一副館長のコメント	読売新聞	
15		ワニの歯化石出土 多賀、従来より新しい地層で 高橋啓一副館長のコメント	朝日新聞	
15		ワニの歯化石を発見 県内で9例目、180万年前と推定 高橋啓一副館長のコメント	毎日新聞	
15		湖との暮らし見つめる 琵琶博リニューアル / 古琵琶湖層からワニの歯化石 多賀町立 博物館 180万年前、今後も調査 高橋啓一副館長のコメント	京都新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
7	15	目で鼻で手で楽しむ 草津琵琶湖博物館が新装 篠原徹館長のコメント / 多賀にワニがいた 180 万年前の歯化石 町立博物館古代ゾウ発掘現場 高橋啓一副館長の話	中日新聞	
	15	淡水の世界広く深く 琵琶湖博物館リニューアル バイカルアザラシ、ヨシの丸立ても 渡部圭一学芸技師のコメント	産経新聞	
	15	[イベント]第 10 回博物館夏祭り 国立科学博物館や琵琶湖博物館による主張展示や移動博物館、体験教室等	読売新聞 (しが県民情報)	
	15	[A+1 イベント]びわ湖ヨシ松明まつり 琵琶湖博物館駐車場で開催	朝日新聞(夕刊)	
	18	琵琶湖情報ノートにギュッ 琵琶湖博物館のリニューアルオープンを記念し、コクヨ工業滋賀が販売	産経新聞	
	21	琵琶湖の怪 ハスどこへ 花なく葉わずか 観光船の客集まらず 芦谷美奈子主任学芸員の話	中日新聞	
	21	国内最大級群生地で異常事態 琵琶湖からハス消えた 芦谷美奈子主任学芸員のコメント	産経新聞(夕刊)	
	22	琵琶湖に異変 ハスどこに 食害? 地下茎増えすぎ? 草津烏丸半島 芦谷美奈子主任学芸員の話	中日新聞	
	22	[イベント]びわ湖ヨシ松明まつり 琵琶湖博物館駐車場内の特設会場	読売新聞 (しが県民情報)	
	22	[窓]琵琶博一新 大人も童心に	京都新聞	
	23	[湖岸より]<269> 滋賀県の昆虫類 多様性を展示 八尋克郎総括学芸員	中日新聞	
	25	「不思議な生き物がいっぱい」琵琶湖博物館で児童ら 60 人昆虫採取楽しむ 中川優囑託職員が説明	朝日新聞	
	25	絶滅危惧種ウシモツゴ 今年も生まれたよ! 東山動植物園 琵琶湖博物館の川瀬成吾特別研究員らの研究で新種であることが昨年認められた、川瀬特別研究員のコメント	朝日新聞(名古屋版)	
	25	琵琶湖の豆知識も 琵琶博 20 周年記念し、コクヨ工業滋賀が「野帳」販売	京都新聞	
	27	淡水生物の日本最大級展示 琵琶湖博物館リニューアルオープン	毎日新聞(大阪版)	
	28	ハス異変地下茎など調査 県と草津市、原因特定至らず 芦谷美奈子主任学芸員のコメント	読売新聞	
	28	「消えたハス」調査 県・草津市 6 地点でサンプル採取 芦谷美奈子主任学芸員のコメント	産経新聞	
	29	烏丸半島で夏満喫 琵琶湖肌で感じて 開館 20 周年の琵琶湖博物館に新たな目玉が登場	読売新聞 (しが県民情報)	
	30	[湖岸より]<270> 琵琶湖水系は固有種の宝庫 マーク・J・グライガー上席総括学芸員	中日新聞	
	31	[滋賀プラス 1]新聞版・情報ひろば 8 月号 生き物コレクション 講座案内	各紙	
	8	1	[近江人と人]絵の中に浮かぶ物語 鳥瞰図を描く 延木由起子さん 琵琶湖博物館などを題材にこれまで約 100 点を製作	読売新聞
		4	生物多様性フォーラム「びわっこ大使」体験発表が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
		6	微小生物に熱い視線 琵琶湖博物館新常設展示が人気 鈴木隆仁学芸員のコメント	産経新聞
		6	[湖国の人たち]このまちの魅力伝える後進育成にも意欲 草津の歴史や琵琶湖博物館などの観光名所を案内する「草津市観光ボランティアガイド協会」会長伊吹美賀子さん	毎日新聞
		11	川にウーパールーパー 田上小の上野さん発見 琵琶湖博物館の金尾滋史主任学芸員が確認 <写真資料提供:『ウーパールーパー』>	毎日新聞
		11	大津の川でウーパールーパー捕獲 琵琶湖博物館の話 <写真資料提供:『ウーパールーパー』>	朝日新聞
		11	大津市南部の川にウーパールーパー ペットを放流か 琵琶湖博物館の話 <写真資料提供:『ウーパールーパー』>	中日新聞
		11	エッ 大津の河川にウーパールーパー 琵琶湖博物館の学芸員が確認同館が発表 <写真資料提供:『ウーパールーパー』>	京都新聞
		11	大津の川にウーパールーパー ペット放流? 男児が捕まえ保護、琵琶湖博物館のアドバイスを受けながら自宅で飼育 <写真資料提供:『ウーパールーパー』>	産経新聞
		12	外来両生類「メキシコサラマンダー(ウーパールーパー)」川で捕獲 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供:『ウーパールーパー』>	読売新聞
		13	[湖岸より]<271> 高橋啓一副館長 / お盆に合わせ県庁は夏季集中休暇、集客が見込まれる琵琶湖博物館などでは通常に近い態勢で対応	中日新聞
13		滋賀県庁一斉に盆休み、経費削減 県警や県立病院、利用者が多い琵琶湖博物館などを除く職員対象	京都新聞	
15		ふなずし文化多彩に考察 漬け方の変遷、俳句も 琵琶湖博物館の学芸員や大学の研究者ら 12 人集結、本出版 編著者の橋本道範専門学芸員のコメント	京都新聞	
16		多羅尾大水害風化させない、琵琶湖博物館でパネル展示	産経新聞	
19		琵琶湖博物館 13~15 日で 2 万人 改装効果で来館者続々 担当者のコメント	中日新聞	
21		県は環境学習推進の委員を公募 琵琶湖博物館環境学習センターの企画運営に提言	中日新聞	
26		京都 de 夏の大学トーク 動物から現代社会を考える 人と自然の距離問い直す カワウは害鳥か益鳥か 亀田佳代子総括学芸員	読売新聞	
27		[湖岸より]<272> 琵琶湖を囲む森の「いま」を感じる 林竜馬学芸員	中日新聞	
30		リニューアル後来館数 6 割増 琵琶湖博物館	中日新聞	
31		[京滋探訪]<6>自然とひとの共存求めて 篠原徹館長	読売新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	31	琵琶博の知、手軽に読んで 開館 20 周年記念しブックレット創刊 高橋啓一副館長のコメント	京都新聞
	31	琵琶湖の最新研究 絵や写真で親しみやすく、博物館が冊子「琵琶湖博物館ブックレット」創刊 高橋啓一副館長のコメント	中日新聞
	31	リニューアルした琵琶湖博物館好調スタート 入館者 17 万人突破 渡部圭一学芸師のコメント	産経新聞
9	1	[A+1 美術館・博物館] 琵琶湖博物館催し物案内 (「マヤマックスが見た淡水の生き物たち」)	朝日新聞 (夕刊)
	3	最少・希少カヤネズミ守れ 12 月に琵琶湖博物館で「全国カヤ・サミット」を開催、県立大非常勤講師畠さん研究、保護	毎日新聞
	3	[ぐるぐる近江] 鳥丸半島、琵琶湖博物館の新装オープンで注目度高まる 湖の幸味わう非日常	京都新聞
	7	生き物・文化…研究成果を発信 琵琶湖博物館ブックレット創刊 高橋啓一副館長のコメント	朝日新聞
	8	琵琶湖の水草適正 30~60% 琵琶湖環境科学研究センターの石川専門研究員が琵琶湖博物館の協力で水草を採取し調査	京都新聞
	10	カヤネズミの赤ちゃん 琵琶湖博で 3 匹すくすく成長 <写真資料提供: 『カヤネズミ』>	毎日新聞
	10	[湖岸より]<273> カルタでたどる新発見 榊永一宏専門学芸員 / カヤネズミの赤ちゃん小さい 県立琵琶湖博物館で誕生 担当者のコメント	中日新聞
	10	[ふるさと再訪] 滋賀・近江<6>琵琶湖を守る せつけん運動今も 嘉田由紀子前知事元琵琶湖博物館研究顧問	日本経済新聞 (夕刊)
	11	カヤネズミ赤ちゃんもミニ 琵琶博で 3 匹たんじょう体長わずか 3 センチ 澤邊久美子学芸員のコメント <写真資料提供: 『カヤネズミ』>	京都新聞
	13	彦根東高校新聞 外来魚知り生態考える SS クラス琵琶湖博物館で解剖や観察	中日新聞
	14	リニューアル 6 割も来客増 滋賀県立琵琶湖博物館 大島由子学芸員・澤邊久美子学芸員・藤井伸聡飼育員・木下睦司展示交流員・平井芳章料理長・森薫ミュージアムショップ代表のコメント	毎日新聞
	16	来館者数過去 5 年の同期比 6 割増 新生「びわ博」好調 金尾滋史主任学芸員のコメント	朝日新聞
	16	[A+1 美術館・博物館] 琵琶湖博物館催し物案内 (「マヤマックスが見た淡水の生き物たち」)	朝日新聞 (夕刊)
	17	カヤネズミ子育てチュウ 県立琵琶湖博物館 <写真資料提供: 『カヤネズミ』>	読売新聞
	18	琵琶博開館 20 周年記念企画展示かるた形式で活動表現 全学芸員と市民グループの 52 句	京都新聞
	20	サイバー攻撃か 琵琶湖博物館が HP 配信を停止	朝日新聞
	20	琵琶博の HP が原因不明の停止	毎日新聞
	20	琵琶湖博物館、HP 表示できず配信停止	産経新聞
	21	琵琶湖博物館にサイバー攻撃か サイト停止	中日新聞
	23	びわ博カルタで新発見 開館 20 年研究紹介展	読売新聞
	23	琵琶湖消えたハス消えた客 草津観光船は利用は 96%減 開館 20 周年を迎え一部展示をリニューアルした琵琶湖博物館は好調	中日新聞
	24	[湖岸より]<274> 微小生物を展示する 鈴木隆仁学芸員	中日新聞
	24	カヤネズミの赤ちゃんが誕生 滋賀県立琵琶湖博物館 体長 6~7 センチ日本最小のネズミ <写真資料提供: 『カヤネズミ』>	産経新聞
	25	[滋賀プラス 1] 新聞版 10 号催し・講座 国際シンポジウム「古代湖の魅力」案内	各紙
	25	再びサイバー攻撃か 琵琶湖博物館 HP 配信停止	朝日新聞
	25	琵琶博 HP また停止	毎日新聞
	25	琵琶湖博物館 HP、再び配信停止	産経新聞
	25	琵琶博の HP にサイバー攻撃か サービスを停止	京都新聞
	25	琵琶湖博物館のサイト再び停止	中日新聞
	30	[A+1 美術館・博物館] 琵琶湖博物館催し物案内 (「マヤマックスが見た淡水の生き物たち」)	朝日新聞 (夕刊)
10	1	[湖岸より]<275> 節目の 20 周年 篠原徹館長	中日新聞
	3	琵琶湖博物館開館 20 年 研究成果かるたに	中日新聞
	3	草津・鳥丸半島から消失 ハス再生前途険しく 琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森など鳥丸半島の施設にとって 20 周年を迎える特別な節目の年に、市の観光担当者が嘆く	京都新聞
	4	刈れども刈れども琵琶湖の水草 南湖 9 割覆う・魚類すみか奪われ 漁業に打撃 山本充孝主査のコメント	読売新聞
	4	[一緒にやろうよ] 湖国の生活文化を記録 琵琶湖博物館で「ふなずし」の作り方などをまとめた映像を上映 おうみ映像ラボ (滋賀県)	京都新聞
	5	琵琶湖博物館 HP 再開発表	朝日新聞
	5	琵琶博の HP サービス復旧「個人情報流出ない」 / 「昆虫博士」湖国に錦 琵琶博に標本 3 万 7000 点寄贈 大分で研究 彦根出身・宮田さん 開催中の企画展「びわ博かるた見る知る楽しむ新発見」のコーナーで展示	京都新聞
	6	琵琶湖博物館サイトが復旧	中日新聞
	6	番組情報 NHK 大津「おうみ発 630」 亀田佳代子総括学芸員が生出演	京都新聞
9	山門水源の森シンボが琵琶湖博物館で開催 シカ食害で土砂流出「大規模な防護柵検討を」	京都新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	14	[みんなおいでよ]琵琶湖博物館「朽木の森の観察会～新展示ジオラマの本物を見に行こう」参加者募集	読売新聞 (しが県民情報)
	15	[湖岸より]<276> 20年の研究リニューアルに 山川千代美総括学芸員	中日新聞
	19	[深き知の湖へ 琵琶湖博物館 20年]<上>改装 体験的展示で発信強化	京都新聞
	20	[深き知の湖へ 琵琶湖博物館 21年]<中>研究 生物多様性うちが守る 琵琶湖の南湖で水草の繁茂状況を観測 芳賀裕樹総括学芸員、リニューアルで登場したバイカルアザラシ担当 大島由子学芸員、希少な淡水魚を保護 松田征也総括学芸員	京都新聞
	21	[深き知の湖へ 琵琶湖博物館 22年]<下>交流 探究活動夢育む拠点に 住民の力結集し調査、「はしかけ」古琵琶湖発掘調査隊・たんさいぼうの会 「フィールドレポーター」、「トンボ兄弟」の研究	京都新聞
	23	「日本のフェアブル」に研究成果を琵琶湖博物館で展示中 宮田彬さん	朝日新聞
	23	琵琶博 20周年国際シンポ 多彩固有種琵琶湖の宝 識者ら到来魚の危機指摘「今こそ保全必要」マーク・J・グライガー上席総括学芸員の話	京都新聞
	23	琵琶湖博物館 20周年を祝う 草津でシンポ 篠原徹館長の話	中日新聞
	25	琵琶博「更に進化する」開館 20周年記念式典あいさつで篠原徹館長決意を語る、高橋啓一副館長が20年の歩みと今後を説明	毎日新聞
	28	[催し]開館 20周年記念「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」案内	産経新聞
29	[湖岸より]<277> アザラシたちに秋の味覚を 大島由子学芸員	中日新聞	
11	1	楠岡研究員に教育賞 琵琶湖博物館の企画評価 <写真資料提供:『受賞した楠岡研究員』>	毎日新聞
	1	温暖化琵琶湖にも影響 大津で気象予報士が講演 パネル討論では越直美市長や篠原徹館長が意見を交換	読売新聞
	8	[ちはらの湖々恋]博物館の新生アイドル バイカルアザラシ「バイ」と「マリ」 / インドネシアで世界湖沼会議 琵琶湖の難題研究成果発表 県琵琶湖環境科学研究センター研究員と琵琶湖博物館が共同で南湖の水草の適正管理の調査	中日新聞
	10	学芸員が凶鑑盗用 405カ所 琵琶湖博物館、懲戒処分	朝日新聞
	10	「凶鑑」無断で引用 琵琶博学芸員 昆虫の説明 405カ所	毎日新聞
	10	学芸員を減給処分	読売新聞
	10	市販凶鑑 405カ所盗用 琵琶湖博物館の学芸員	中日新聞
	10	凶鑑 400カ所超学芸員が盗用 琵琶湖博物館	産経新聞
	10	琵琶博学芸員が盗用 県懲戒処分 凶鑑から館HPなどに	京都新聞
	12	[湖岸より]<278> 大塚泰介専門学芸員 交流で互いに学ぶ	中日新聞
	18	産卵期のビワマス展示 滋賀県立琵琶湖博物館 <写真資料提供:『婚姻色を帯びたビワマス』>	産経新聞
	18	[湖人彩々]単細胞生物にどっぷり 楠岡泰特別研究員 / 川、湖と共生 知恵紹介 琵琶湖博物館中国・長江の文化展示 楊平楊平主任学芸員のコメント	京都新聞
	23	8ミリに眠る滋賀再発掘 琵琶湖博物館でふなずしをテーマにした見聞会を開く。	中日新聞
	26	[湖岸より]<279> 中井克樹専門学芸員 子育ては口の中	中日新聞
	27	鳥丸半島3施設スタンプラリー (琵琶湖博物館・道の駅グリーンプラザからすま・水生植物公園みずの森) 抽選でプレゼント	読売新聞
	27	[滋賀プラス1]新聞版 12号催し・講座 「第2回カヤ・サミット」案内	各紙
	28	「ぼてじゃこ」保全20年 市民団体「諦めないこと大事」	読売新聞
	28	復活目指す琵琶湖のイチモンジタナゴ 増殖魚放流へ課題議論 草津の琵琶湖博物館で市民団体シンポ	京都新聞
	28	イチモンジタナゴ復元放流の道探る 草津でシンポ 秋山廣光会長や松田征也総括学芸員が登壇	中日新聞
29	ビワマス遊漁新ルールに波紋 生態系、漁業と調和課題 桑原雅之総括学芸員の話	京都新聞	
12	2	水草を重機で駆除 外来種米原で県が見学会 中井克樹専門学芸員のコメント	中日新聞
	2	[まちかど]「古橋のオオサンショウウオ生態系保全シンポジウム」案内	京都新聞
	2	[おでかけナビ]淡水魚水族館そつとのぞいてみてごらん 自然を再発見めだかの学校 琵琶湖博物館では自然環境の展示に関心を持ってもらうように展示	日本経済新聞 (夕刊)
	4	長浜・大谷川のオオサンショウウオ 「貴重な在来種」と報告 草津の県立琵琶湖博物館で保全シンポ	京都新聞
	5	カヤネズミ生息域保全を 草津で全国サミット 澤邊久美子学芸員のコメント	京都新聞
	8	草津でサミット生息地減少、絶滅危惧 カヤネズミ保全に協力を 澤邊久美子学芸員のコメント	読売新聞
	9	びわこ虫 今年が多い?大発生ピークは70~90年代「いるから魚も生きていける」金尾滋史主任学芸員の話	読売新聞
	10	[湖岸より]<280> 極寒バイカル湖の生き物 山本充孝主査	中日新聞
	16	琵琶博に空中遊歩道 第2期リニューアル素案「交流空間再構築」 森を観察「樹幹トレイル」18年度完成目指す	毎日新聞
	16	標本・剥製 触れて学んで 琵琶湖博物館第2期リニューアル案	産経新聞
16	[展覧会]「さがわきつずみゅーじあむ ダンボールアート遊園地」 金尾滋史主任学芸員のギャラリートーク「びわ湖にはどんないきものがいるの?」	読売新聞 (しが県民情報)	
17	琵琶博の森空中散歩 2期リニューアル案 大人向け探求空間も	京都新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	18	サンタがやってきた 水中スイスイ 琵琶湖博物館	読売新聞
	18	水槽にサンタ子ども笑顔 県立琵琶湖博物館	朝日新聞
	18	水槽にサンタ姿のダイバー 琵琶湖博物館	毎日新聞
	21	琵琶湖博物館で23～25日サンタ会える	産経新聞
	21	よく分かるのしいね 湖の特徴や生態 琵琶湖博物館	読売新聞
	23	滋賀2016年10大ニュース 10位、琵琶湖博物館、新装オープン	京都新聞
	24	[湖岸より]〈281〉博物館から見える「絶景」 楊平主任学芸員 / サンタがすいすい琵琶湖博物館水槽に登場	中日新聞
	25	Xマス催し多彩に 水中サンタ大人気 琵琶湖博物館	京都新聞
	25	研究テーマや発見を五七五調「カルタ」に 琵琶湖博物館が販売 担当者のコメント	朝日新聞
	26	湖国この1年2016<4> 7月琵琶湖博物館がリニューアルオープン	京都新聞
	29	湖国この1年<下> 琵琶湖博物館がリニューアルオープンバイカルアザラシの水槽などが人気	朝日新聞
	30	琵琶博はカルタ週間来月2～9日にイベント	毎日新聞
30	[イベント]お正月はびわ博へ！みんなで遊ぼう「びわ博カルタ」	読売新聞（しが県民情報）	
1	1	琵琶湖博物館で新春イベント	産経新聞
	1	[商工会議所会頭インタビュー] 大津・湖岸の活性化本腰 琵琶湖博物館の小型施設として琵琶湖文化館の再活用を提案	京都新聞
	1	スクープよりも湖国の鳥を追え 県内の主な観測スポット琵琶湖博物館	毎日新聞
	4	湖国かるた色 札の題材当地ネタ草津 琵琶湖博物館で「びわ博カルタ大会」	中日新聞
	8	[おうみにつどう]〈7〉淡水生物研究夢中に マーク・J・グライガー上席総括学芸員	朝日新聞
	10	合うかな？手作り貝覆い 琵琶博で体験	読売新聞
	11	自然学べる「びわ博カルタ」作成 滋賀県立琵琶湖博物館	産経新聞
	12	琵琶湖固有種か群体ヒドラ展示 琵琶湖博物館 飼育成功 担当者のコメント	朝日新聞
	13	[遊・You・友]「百人一首ミニ講座&競技かるた模擬試合」開催案内	朝日新聞
	13	特定外来水生植物オオバナミズキンバイ 駆除続けるも際限なし 琵琶湖20万平方メートル繁茂 県、協力呼び掛け 中井克樹専門学芸員の話	京都新聞
	14	[湖岸より]〈282〉「魚と人の関わり」どう伝えるか 金尾滋史主任学芸員	中日新聞
	14	宴の供に絶品湖魚料理 安土城考古博物館と琵琶湖博物館が選んだ琵琶湖八珍の提案者が、レシピ本出版	産経新聞
	27	世界の古代湖と比較深化 琵琶博マケドニア研と協定 篠原徹館長が同研究所を訪れ調印	京都新聞
	27	琵琶博体感型に改装へ 触れる標本や空中遊歩道 第2期工事大人の知的好奇心も満たす	読売新聞
28	[湖岸より]〈283〉琵琶湖の底はどんな形？ 芳賀裕樹総括学芸員	中日新聞	
29	[滋賀プラス1]新聞版・情報ひろば 2月号 新琵琶湖学セミナー開催案内	各紙	
2	1	マケドニアの研究所と協定 篠原琵琶湖博物館館長が訪れて締結	朝日新聞
	1	[ちはるの写真教室]動物写真の撮り方（琵琶湖博物館バイカルアザラシ）	中日新聞（びわこ新聞）
	5	陸奥湾で発見「ナウマンゾウ」化石 実はムカシマンモス 理由不名70万年前に姿消す ゾウ化石専門家高橋啓一副館長の話	朝日新聞（青森版）
	7	水の浄化技術学ぶ ミャンマー・ヤンゴン市職員4人 草津市内で研修 琵琶湖博物館などを訪れる予定	産経新聞
	11	[湖岸より]〈284〉関わり合う森・生き物・人 亀田佳代子総括学芸員	中日新聞
	14	青森の「ナウマンゾウ」化石 実はムカシマンモス CTで調べ判明東北初出土 ゾウ化石専門家高橋啓一副館長の話	朝日新聞（宮城版）
	15	琵琶博 マケドニアの研究所と古代湖比較研究へ協定	毎日新聞
	17	[遊・You・友]「歴史展示の舞台裏琵琶湖地域のヨシ」展示案内	朝日新聞
	19	多賀まつりの歴史を解説多賀大社 渡部圭一学芸技師が講師	中日新聞
	19	[ソフィアがやってきた！]教える伝える琵琶湖の命、疏水で生きてる！ 金尾滋史主任学芸員	京都新聞
	20	ふなずしの世界は深い 野洲川歴史公園田園空間センター「鮎寿し茶づけを味わう会」で橋本道範専門学芸員が講演	京都新聞
	20	琵琶湖と共生する農林水産業「世界農業遺産」目指そう ふなずしテーマに意見交換 橋本道範専門学芸員の話	産経新聞
	21	トラベル日本ウォーキングツアー「ぐるり琵琶湖一周うおーく 瀬田唐橋～琵琶湖博物館」	毎日新聞（夕刊）
	25	飛び出し坊やいかに「生息」？ 琵琶湖博物館フィールドレポーター調査「安全祈る気持ち表れる」担当者のコメント	産経新聞
	25	[湖岸より]〈285〉マクロな視点も併せ見る 澤邊久美子学芸員	中日新聞
	26	[知るコレ！]「なれずし」風土特有の保存食 橋本道範専門学芸員の話	中日新聞
	26	[こころは湖国 私の故郷]子どものころに家族で行った琵琶湖博物館 東レキャンペーンガール朝香りほさん	中日新聞
	27	多賀の化石にロマン「アケボノゾウ」中心に解説 講師に高橋啓一副館長	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	1	飛び出し坊やの“出沒”場所 1位は「信号のない交差点」琵琶湖博物館「フィールドレポーター」がまとめ	中日新聞
	3	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（歴史展示の舞台裏琵琶湖地域のヨシ）	朝日新聞(夕刊)
	8	県内の古い方言で「隧道」まんぼの魅力知って残して 甲賀の森野さん琵琶湖博物館で写真展	中日新聞
	10	[催し]日本の石橋展 25 周年記念	毎日新聞
	11	[湖岸より]<286> 生物多様性の研究さらに マーク・ジョセフ・グライガー上席総括学芸員	中日新聞
	15	研究機関是正指摘 33 件 県包括外部監査 琵琶湖博物館など	毎日新聞
	15	県試験研究機関連携機能改善を外部監査報告 琵琶湖博物館や農業技術振興センターなど	京都新聞
	15	研究連携改善求める 県の包括外部監査結果 琵琶湖博物館など県立の研究機関の七施設を対象	中日新聞
	21	飛び出し坊やいたいた 琵琶博調査 こども守る地域の心	読売新聞
	25	[湖岸より]<287> オフリド湖の旅親交結ぶ 高橋啓一 副館長	中日新聞
	31	米違いふなずし味比べ 守山・漁師や農家が 5 種類 地産地消へ「市民向けも」 橋本道範 専門学芸員のコメント	京都新聞

5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	「田んぼ体験」の案内 「琵琶湖フォトコンテスト作品展～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく～」の案内 あなたの写真が博物館の展示に！琵琶湖博物館「おすすめの琵琶湖の風景」写真募集	博物館研究 vol.51 No.5 (No.575号) 子供の科学 79巻 第5号 公募ガイド
	[ぶらり散歩]琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館がリニューアル 琵琶湖博物館移動博物館の案内	日本農業新聞 (4/22) (週刊) 滋賀民法 (4/24) 京都ステーションビル「KIDS DAY」チラシ
5	[情報ひろば]「琵琶湖フォトコンテスト作品展～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく～」の案内 「琵琶湖フォトコンテスト作品展～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく～」の案内 リニューアルオープンした琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館移動博物館の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) 5・6月号 vol.161 子供の科学 79巻 第6号 関西夏 Walker 2016 vol.653 Leaf 京都・滋賀 自転車さんぼ
	6	「田んぼ体験」の案内 琵琶湖博物館第1期リニューアルオープン、体験教室「田んぼ体験」・からすま半島で楽しむ「生き物コレクション」の案内 リニューアルオープン琵琶湖博物館常設展示ペア招待券プレゼント [おでかけスポット]新しい琵琶湖博物館のカタチ 7/14 琵琶湖博物館大幅リニューアル 『マザーレイク』公開記念トークイベント 金尾滋史主任学芸員 びっくりわくわくこんにちは 琵琶湖博物館 7月14日(木)リニューアルオープン！子どもグッズ詰め合わせプレゼント 参加・体験型の五感を使う博物館に！開館20周年を迎える今年から大幅リニューアル 不思議な生き物九年ぶり 一野間のマミズクラゲ 森田博文 <写真資料提供：『成熟したマミズクラゲの雄』、協力：楠岡泰> [きらりしが]開館20周年！琵琶湖博物館リニューアルオープン 三日月泰造 知事 [きらりしが]開館20周年！琵琶湖博物館リニューアルオープン 三日月泰造 知事 琵琶湖博物館7月14日(木)リニューアルオープン 常設展示ペア招待券プレゼント 日本最大・最古の湖の歴史を紹介 琵琶湖博物館が7月14日(木)リニューアルオープン 琵琶湖博物館もリニューアル！からすま半島にってみよう！ 「湖と人間」をテーマにした魅力あふれる総合博物館！[フィールド・ワークス]<16> 創立20周年！装いを新たに夏にはリニューアルオープン 松田 征也総括学芸員、圧倒的なスケールを誇る実物展示！ 渡部圭一学芸技師、レストランでは琵琶湖水域で獲れる魚も食べられる！ 「にほのうみ」平井芳章 店長 琵琶湖博物館リニューアルオープン！水族展示とC展示室が新しくなります 琵琶湖博物館第1期リニューアルが7月14日(木)オープン バイカルアザラシ登場 琵琶湖博物館 世界唯一の淡水種

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	<p>7月14日(木)県立琵琶湖博物館リニューアルオープン!～もっと琵琶湖について学ぼう!～</p> <p>「生き物コレクション(甲殻類他)」「生き物コレクション(鳥類)」の案内 「生活実験工房 田んぼ体験」の案内</p> <p>リニューアル情報 琵琶湖博物館第1期リニューアルオープン! 省エネ・節電体験イベント 琵琶湖博物館で開催</p> <p>この夏、烏丸半島が熱い 県立琵琶湖博物館リニューアルオープン 県立琵琶湖博物館リニューアルオープン リニューアルオープン 滋賀県立琵琶湖博物館 琵琶湖博物館がやってくる!移動博物館 琵琶湖博物館リニューアルオープン 知っておきたい!琵琶湖のイロハ 里口保文専門学芸員 琵琶湖博物館の紹介 楽しい!琵琶湖博物館 第1期リニューアルで大賑わい チラシ持参で琵琶湖博物館のお得情報 琵琶湖博物館の案内 琵琶湖のほとりで海獣に会える!琵琶湖博物館が新生 琵琶湖博物館の紹介 リニューアルで世界の生き物が登場 バイカルアザラシにも会える!! 琵琶湖博物館の案内 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>バイカルアザラシのペアに逢いたい!リニューアルオープン 琵琶湖博物館の紹介 京都 de 夏の大学トーク 動物から現代社会を考える 講演会、大学と社会が拓く未来の知について 亀田佳代子総括学芸員他 知的好奇心にアツい刺激を!「みんなでかいこ絵日記を作ろう!」の案内 琵琶湖博物館のリニューアルオープン紹介</p>	<p>滋賀プラス1(県広報誌)7・8月号 vol.162 博物館研究 vol.51 No.8 (No.578号) 子供の科学 79巻 第8号 全科協NEWS vol.46 No.4 (No.269号) Duet 2016夏 vol.120 滋賀県省エネ・節電クールライフ2016チラシ 広報くさつ(No.1156) 7月号 広報もりやま(No.1195) 7月号 西Navi 電車&ウオーク 7月号 イオンモール草津チラシ(7/15～) 滋賀報知新聞(7/7) 滋賀本 滋賀民法 近江鉄道チラシ びわ湖クルーズ 夏号(7～9月) 関西ウォーカー No.15 (7/20～8/9) チェキボン 8月号 vol.114 京阪神攻略:完全制覇2017～2018(台湾の雑誌) ディージャーナル No.1311 京都大学出版会シンポチラシ リビング滋賀(7/30) 岩手日日新聞(7/30)</p>
8	<p>「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」、「田んぼ体験(9月)」「マイクロアクリウム プランクトンでピンゴ」の案内 「生き物コレクション(甲殻類・寄生物・その他無脊椎動物・固有種)」「生き物コレクション(鳥類)」の案内 「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」、「田んぼ体験(9月)」「マイクロアクリウム プランクトンでピンゴ」国際シンポジウム「古代湖の魅力 琵琶湖と世界の古代湖」「はしかけ登録講座(10月)」「朽木の森の観察会」の案内 「生き物コレクション(甲殻類・寄生物・その他無脊椎動物・固有種)」「生き物コレクション(鳥類)」の案内 新装「琵琶湖博物館」運営を支援 国内唯一の飼育共に汗 KANSOテクノス 金尾滋史主任学芸員の話 イマドキビックアップ 琵琶湖博物館20周年!7/14リニューアルOPEN 驚きと感動がいっぱい!五感で楽しむ新・琵琶湖博物館 琵琶湖博物館のリニューアルオープン紹介 琵琶湖博物館のリニューアルオープン紹介 琵琶湖博物館のリニューアルオープン紹介</p>	<p>博物館研究 vol.51 No.9 (No.579号) 日経サイエンス 9月号 れいかる(湖国文化情報)9・10月号 vol.94 滋賀報知新聞(8/4) 電気新聞(8/15) おでかけ moa 9月号 Leaf 10月号 千葉日報(8/7) 福井新聞(8/7) 建設通信新聞(8/10)</p>
9	<p>「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」、「田んぼ体験(10月)」「バイカルの魚たちを見てみよう」「はしかけ登録講座」の案内 「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」の案内 「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」の案内 アザラシから小魚まで湖の多彩な生き物とふれあう琵琶湖博物館の紹介 豊かな自然と歴史に触れる、湖国・滋賀県へ 琵琶湖博物館の案内 こどもも大人も、1日中楽しめる!リニューアルオープンした琵琶湖博物館へ 琵琶湖博物館の紹介 / 読者プレゼント 琵琶湖博物館ペア入館券 琵琶湖博物館とレストラン「にほのうみ」の案内</p> <p>バイカルアザラシが関西初お目見え!新しくなった琵琶湖博物館に行こう 琵琶湖博物館の紹介 カヤネズミの赤ちゃん生まれる / 琵琶湖博物館20周年記念「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」の案内 読者プレゼント 琵琶湖博物館入館券 プレゼント 琵琶湖博物館入館チケット</p>	<p>博物館研究 vol.51 No.10 (No.580号) 子供の科学 79巻 第10号 全科協NEWS vol.46 No.5 (No.270号) Vikka vol.27 Hanako No.1118 とことことん 2016秋号 vol.20 Good Luck 滋賀(外国人旅行者向けフリーマガジン)英語・繁体字・韓国語 Vol.3 Doki Doki Thanks vol.82 滋賀報知(9/18・24) まま・こことん 2016秋号 Vol.1 ロトス 10月号 vol.48</p>

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
10	<p>「田んぼ体験（11月）」の案内 琵琶湖博物館 20 周年記念「びわ博カルタ見る知る楽しむ新発見」の案内 特集 琵琶湖博物館第 1 期リニューアル C 展示室リニューアルについて亀田佳代子総括学芸員、水族展示リニューアルについて桑原雅之総括学芸員、琵琶湖博物館にやってきたバイカルアザラシについて大島由子学芸員 / びわ博カルタ-見る知る楽しむ新発見- 開館 20 周年記念国際シンポジウム 「古代湖の魅力-琵琶湖と世界の古代湖-」の案内・琵琶湖博物館ブックレット「イタチムシの世界をのぞいてみよう」の案内 開館 20 周年記念事業国際シンポジウム「古代湖の魅力」開催案内 日本最大級の淡水生物の展示がリニューアル 琵琶湖と生き物、その周辺の環境を五感で学ぶ！琵琶湖博物館の紹介 「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」、「暮らしと魚」「カヤネズミ観察会とカヤストラップ作り」「第 2 回カヤ・サミット」「バイカルの生き物」「琵琶湖地域の水田生物研究会」「秋の色さがし」「綿に触れてみよう」「田んぼ体験（11月）」「秋の里山 宝物をさがしにいこう」の案内 芸術家がとらえた微小生物 博物館と美術大学のコラボレーション 楠岡泰特別研究員 7 月に第 1 期リニューアル！滋賀県立琵琶湖博物館の紹介 〔書評〕研究者 12 人によるフナ寿司文化の多彩な考察 再考ふなずしの歴史 橋本道範 4 周年記念スペシャルプレゼント 琵琶湖博物館入館チケット 琵琶湖の木造船「丸子舟」〈写真資料提供：『丸子舟』〉 琵琶湖博物館とレストラン「にほのうみ」の案内 関西文化の日参加施設情報 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の楠岡特別研究員に日本原生生物学会の教育賞</p>	<p>博物館研究 vol.51 No.11 (No.581号) 子供の科学 79巻 第11号 Duet 2016 秋 vol.121 教育しが 10月号 vol.59 ファミリーレジャーガイド中部版 2017 家族で春夏秋冬 れいかる (湖国文化情報) 11・12月号 vol.95 月刊みんぱく 10月号 第40巻10号 旅の手帖 11月号 (月刊) 専門料理 10月号 第51巻 第10号 ロトス 11月号 vol.49 水の文化 (ミツカン水の文化センター機関誌) 第54号 Good Luck 滋賀 (外国人旅行者向けフリーマガジン) 中国語 (簡体字)・タイ語版・ベトナム語 Vol.3 関西文化の日の冊子 くらしのガイド (宝塚市、山手台西・東地区版) 第2号 滋賀報知 (10/30)</p>
11	<p>[情報ひろば]琵琶湖博物館 20 周年記念「びわ博カルタ見る知る楽しむ新発見」の案内 民俗系博物館専門職員に求められる専門性について 特別研究員北村美香 / 企画展示「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」、「カヤ・サミット」「綿に触れてみよう」「田んぼ体験しめ縄づくり」の案内 琵琶湖博物館 20 周年記念「びわ博カルタ見る知る楽しむ新発見」の案内 [11月12月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示「「びわ博カルタ見る知る楽しむ新発見」の案内 「移動博物館 琵琶湖博物館がやってきた！」の案内 琵琶湖にすむ魚を食べてみませんか？「暮らしと魚」の案内</p>	<p>滋賀プラス 1 (県広報誌) 11・12月号 vol.164 博物館研究 vol.51 No.12 (No.582号) 子供の科学 79巻 第12号 全科協 NEWS vol.46 No.6 (No.271号) イオン近江八幡ショッピングセンターチラシ リビング滋賀 (11/19)</p>
12	<p>企画展示「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」の案内 企画展示「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」、「カルタイイベント」「水鳥を観察してみよう」「化石のレプリカをつくってみよう」「新琵琶湖学セミナー」の案内 読者プレゼント 琵琶湖博物館ペア入館券 読者プレゼント 琵琶湖博物館入館券 プレゼント 琵琶湖博物館入館チケット</p>	<p>博物館研究 vol.52 No.1 (No.583号) れいかる (湖国文化情報) 1・2月号 vol.96 とことことん 2016 冬号 vol.21 まま・ここっと 2017 冬号 Vol.2 ロトス 1月号 vol.51</p>
1	<p>「新琵琶湖学セミナー」の案内 「田んぼ体験（2月）」「化石のレプリカをつくってみよう」の案内 [1月2月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示「びわ博カルタ見る知る楽しむ新発見」の案内 [読者の広場]「山門水源の森 2050」シンポジウム、活動紹介の展示を琵琶湖博物館で行い、冊子を刊行 琵琶湖博物館 「びわ博カルタ」作成 「滋賀のお魚ヨシノート」 誰も知らない？水底の小さな生命体 イタチムシにズームイン 鈴木隆仁学芸技師 琵琶湖博物館の案内</p>	<p>滋賀プラス 1 (県広報誌) 1・2月号 vol.165 博物館研究 vol.52 No.2 (No.584号) 全科協 NEWS vol.46 No.7 (No.272号) 自然保護 1・2月号 No.555 滋賀報知 (1/15) コクヨ工業「リエデン」カタログ 日本農業新聞 (1/28) 滋賀の環境 2016</p>
2	<p>「ILEC 設立 30 周年記念展示「湖と生きる－琵琶湖から世界へ 未来へ！」、「新琵琶湖学セミナー」「はしかけ登録講座」「火起こし体験」「里山体験教室」の案内 琵琶湖博物館常設展示ペア招待券プレゼント</p>	<p>れいかる (湖国文化情報) 3・4月号 vol.97 club keibun 2月号 vol.413</p>

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
2	<p>「新琵琶湖学セミナー」開催案内 / 琵琶湖博物館常設展示ペア招待券プレゼント</p> <p>滋賀県立琵琶湖博物館の紹介</p> <p>自然史講座「講演会と座談会」化石発掘とまちづくり 高橋啓一副館長</p> <p>多賀大社祭礼調査講演会『蜂にさされたほうがまし』の真実～多賀の祭りを支えた人びと～ 講師 渡部圭一学芸技師</p> <p>琵琶湖博物館の案内</p> <p>琵琶湖博物館で恋活・婚活 バスツアー</p>	<p>教育しが 2月号 vol.61</p> <p>まっふる家族でおでかけ関西 '17-'18 「多賀町歴史文化基本構想策定事業」チラシ</p> <p>「多賀町歴史文化基本構想策定事業」チラシ</p> <p>レタスクラブ (2/10)</p> <p>RuSC (ラスク) 3月号 vol.40</p>
3	<p>ILEC 設立 30 周年記念「湖と生きる－琵琶湖から世界へ 未来へ！」の案内</p> <p>琵琶湖を感じる 博物館&美術館めぐり 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>ILEC 設立 31 周年記念「湖と生きる－琵琶湖から世界へ 未来へ！」、「はしかけ登録講座」「新琵琶湖学セミナー」の案内</p> <p>淡水魚展示では最大のトンネル水槽 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>[3月4月の特別展] ILEC 設立 30 周年記念「湖と生きる－琵琶湖から世界へ未来へ！」の案内</p> <p>琵琶湖博物館の案内</p> <p>昔の道具を使って「火起こし体験」の案内</p> <p>読者プレゼント 琵琶湖博物館ペア入館券</p> <p>日本地質学会認定「滋賀県の石」琵琶湖博物館に展示している石の紹介</p> <p>「春の草花でしおりを作ろう！」の案内</p>	<p>滋賀プラス1 (県広報誌) 3・4月号 vol.166</p> <p>ことりっふ滋賀 (近江八幡・彦根・長浜) 博物館研究 vol.52 No.3 (No.585号)</p> <p>水族館びあ (全国版)</p> <p>全科協 NEWS vol.46 No.6 (No.271号)</p> <p>草津まち歩きマップ</p> <p>リビング滋賀 (3/4)</p> <p>とことことん 2017 春号 vol.22</p> <p>近江の石</p> <p>RuSC@home (ラスクホーム) 4月号 vol.1</p>

(3) 予算

2016年度歳入 (円)

科目	予算額 (当初)
使用料及び手数料	177,470,000
財産収入	760,000
諸収入	19,652,000
合計	197,882,000

2016年度歳出 (円)

事業名	事業内容	予算額 (当初)
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	337,244,000
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	128,483,000
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	853,883,000
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	26,495,000
環境学習推進費	環境学習センターの運営	2,950,000
合計		1,349,055,000

1) 企業連携 (寄附)

77件 16,730千円

リニューアルサポーター	24件	12,830千円
水槽サポーター	23件	1,300千円
メンバーシップ	30件	2,600千円

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2016年9月28日(水) 13:30～17:01

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題
- ①新琵琶湖博物館創造基本計画について
 - ②第1期リニューアル後の状況について
 - ③広報営業活動について
 - ④第2期リニューアルについて
 - ⑤新琵琶湖博物館創造基本計画における研究・資料整備について
 - ⑥開館20周年ありがとう記念事業について

第2回

開催日時 2017年2月16日(木) 14:00～17:10

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題
- ①前回協議会での意見等について
 - ②新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画(案)について
 - ③第2期リニューアルにかかる意見等について
 - ④研究活動について

第11期委員

(任期：2016年9月1日～2018年8月31日)

氏 名	区分	現 職 (2017年3月現在)
北島 泰雄	学校教育	草津市立第二小学校校長
下澤 辰次	学校教育	高島市立今津中学校校長
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
菊池 玲奈	環境保全	結・社会デザイン事務所代表
中田 春美	文化財保護	近江歴史回廊倶楽部会員
山西 良平	学識者	西宮市貝類館顧問
土井 通弘	学識者	就実大学人文科学部 教授
吉田 準	学識者	日本放送協会大津放送局放送部部長
中坊 徹次	学識者	京都大学名誉教授
中川 毅	学識者	立命館大学総合科学技術研究機構古気候学研究センター長(教授)
横地 富重	その他	(株)ダイフク CSR本部 環境品質グループ長
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
佐久間 寿子	その他	公募委員
加藤 みゆき	その他	公募委員

(2) 企画・計画

1) 新琵琶湖博物館創造基本計画 行動計画

現在、琵琶湖博物館は、2020年まで6年間に及ぶリニューアルの途上にある。このリニューアルによって琵琶湖博物館が目指すべき姿を示したものが2014年3月に策定した「新琵琶湖博物館創造基本計画」である。

この計画の実現に向けて、具体的な達成目標と進捗計画を記した「新琵琶湖博物館行動基本計画 行動計画」を2017年3月に策定した。

計画は「常設展示の再構築」「交流空間・交流機能の再構築」「利用者の利便性・快適性を高める施設整備」「多様な主体との連携」「広報・営業活動の強化」「資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖」「『湖と人間』の関係を考える研究の推進」の7つの柱からなり、全体で66の目標と、各年度における進捗目標を掲げている。

2) 琵琶湖博物館広報戦略

今年度も昨年度に引き続き「タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、口コミを促す働きかけ」を戦略として広報を展開してきた。広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問、大型集客施設での常設展示の紹介展示設置などを行ってきた。従来の報道機関への資料提供に加え、新たな取り組みとして、ネットからのチラシ配信や駅貼りポスターなど広域的かつピンポイント的な広報活動を行なった。また、第1期展示リニューアルの告知や、企業連携事業を組み込んで広報することも行った。

これらの活動については、随時広報戦略会議を開き、リニューアルを見据えた広報戦略について検討を行った。

V 2016年度をふり返って

1 研究部

琵琶湖博物館は1996年4月に設立し、10月に開館してから、今年度20周年の節目を迎えた。開館直後に策定された中長期基本計画は昨年度（2015年度）で終了し、今年度は2013年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画に追加する研究活動編をまとめた。研究部では今後も研究活動は博物館の根幹であると位置づけ、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探る研究を継続して行く。その方向性として(1)琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進、(2)「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究、(3)「木から森へ」の博物館学の追求を掲げた。併せて2020年度までの行動計画を作成した。

その創造基本計画に従って、今年度は7月に第1期展示リニューアルとして、C展示室および水族展示室を一新した。今回のリニューアル展示は、これまで20年間の当館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果を活かしたものとなっている。来年度は第2期交流空間のリニューアルの実施設計となる。

また、今後の琵琶湖博物館の研究の方向性を示すシンポジウムを開館20周年記念として企画実施した。2016年10月22日、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団から協賛を受け、開館20周年記念国際シンポジウム「古代湖の魅力：琵琶湖と世界の古代湖」と題し、博物館ホールで開催した。世界の古代湖との比較から琵琶湖の魅力を再発見してもらうため、古代湖研究に関わる海外研究者を招聘し、学術的、国際的なシンポジウムでありながらも地域の人々にもわかりやすい講演を行った。それに併せて、特別研究セミナー『古代湖研究最前線』を開催し、海外の古代湖における研究成果と琵琶湖地域の研究成果の情報交換やそれらの内容をインターネットによる発信を行なった。その一環として、現地で解説するフィールドエクスカージョンも実施し、今後の研究推進に必要な実質的な議論や交流を行なった。

さらに、今後の新たな研究展開として、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究を進める。そのために、韓国の淡水生物を研究する専門機関である韓国洛東江生物資源館との相互協力を模索し、情報交換する合同セミナーを双方で1回ずつ（2016年11月韓国、12月滋賀）実施した。今後「古代湖」や「東アジア水系」の特徴や価値を見出す比較研究を推進するには、国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究など協力関係を密接にとっていく必要がある。

今年度の研究発信は、学術論文24件、専門分野の著述25件、一般向けの著述49件、学会発表は39件であった。研究成果の発信数は論文数において昨年度同様、低い水準に留まった。その一方で、リニューアル展示に関することや20周年記念としての一般向けの著述が増加した。研究発信の1つである企画展示では、第24回企画展示開館20周年記念「びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」と題し、2016年9月17日から2017年1月31日まで開催した。これまでの20年間の研究成果をカルタ形式で紹介するもので、学芸員全員、特別研究員やはしかけ・フィールドレポーターなど博物館で行われた研究を網羅的に紹介することができた。

研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えるために、中日新聞連載コラム「湖岸より」などへの執筆のほか、新たに琵琶湖博物館ブックレットシリーズを刊行した。今年度は第1期「琵琶湖の生きものの不思議」をテーマとし、第1号「ゾウやワニもいた琵琶湖」第2号「きみも寄生虫博士になろう」第3号「田んぼにいるイタチムシ」を発刊し、今後も継続してその充実を図っていききたい。新琵琶湖学セミナーでは「展示リニューアルの舞台裏—新しい展示の試み—」と題し、昨年度に続き、リニューアルにかかわる研究成果と新展示の内容を深く理解してもらう研究発信一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、C展示・水族展示室のリニューアル展示作成にかかわった学芸員がその制作過程やこだわりなどの紹介とそれぞれの専門分野の

第一線、最新の成果を交えて講義を行った。1月、2月、3月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行い、合計137名の参加があった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

今年度は滋賀県立試験研究機関として外部監査の対象となり、研究部に関わる内容だけでなく、博物館全体にわたり監査が行われた。その結果、22の指摘事項と4の意見を受けた。主なものとして、1)評価体制に関すること、2)劇物・毒物等薬品類の管理体制や運用に関すること、3)研究機器類の管理と運用に関することが指摘され、改善が求められた。それを受けて、1)「滋賀県立琵琶湖博物館研究評価実施要綱」および「滋賀県立琵琶湖博物館内部評価委員会設置要項」を新たに策定し、「琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会設置要綱」の一部を改定した。2)劇物・毒物等薬品類の全リストの作成と2017年2月に棚卸作業を実施した。また、これまでに定められていた琵琶湖博物館の薬品類に関することを見直し、「滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程」を策定した。3)研究備品の管理については、使用不可能な機器類等は処分することを含め、「滋賀県立琵琶湖博物館研究用備品等運用および管理に関する要項」の策定に向けて見直しを行っている。

また、当館のWEB図鑑において不適切な引用が指摘され、「滋賀県立琵琶湖博物館の研究活動における不正行為に係る調査等に関する要綱」に従って、外部による調査委員会が設置され、5月6日に全3回の検討調査会が行われた。検討調査結果を受け、WEB図鑑等における不適切な引用があったことを認め、11月に謝罪会見を行った。不適切な引用があったWEB図鑑等は一旦閉じて、総点検を行うこととなった。それと同時に、研究者や研究機関への社会的信用を失墜させる事態を招いている状況を鑑み、7月に「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」をはじめ、研究活動に関する規程集が整備された。

研究予算としては、年々県費による研究費が減少する中で、これまで科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んできた。今年度の科学研究費については新規の採択がなく、継続のみ11件という結果となり、博物館活動の根幹となる研究の先細りに危機感を持つ。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていくこと、さらに科学研究費以外の外部助成に積極的に応募するなど研究費の確保を行っていく必要がある。また、特別研究員の受け入れが16名になり、当館が行う研究調査が幅広く推進されてきているが、共同利用室のスペースや博物館への研究成果の還元の仕方などの問題もあり、今年度は申請書の改正を行なった。今後、特別研究員と連携した琵琶湖博物館の研究推進や研究成果の共有、研究不正の防止体制づくりを視野に入れた受け入れ制度の見直しを行う必要がある。最大の課題としては、2020年度までリニューアル期間が継続することで、通常業務に加え一人あたりの業務量が増加していることが挙げられる。研究時間の確保が難しい現状であり、研究成果が上がらないことにつながりかねない。今年度は研究専念日を水曜日に設定し、全学芸職員で実施する試みを行った。結果として、実質前半はリニューアル対応で研究専念が取得できなかったこともあり、全体的に事業や外部との対応で難しいという意見であった。また、琵琶湖博物館協議会での指摘もあり、研究時間の現状把握として、2017年1月中の任意1週間、無記名によるアンケート調査を行った。13サンプルの回答から1日約2時間の研究時間が確保されている結果となった。しかしながら、個人差や担当業務、季節によってかなり異なることが予想され、今後研究推進を進める上で研究時間の確保が重要課題となるであろう。

そんな中で、2016年4月に新規学芸員2名（水生動物学・微生物学）、10月に1名（考古学）が採用され、今後の琵琶湖博物館創造基本計画を見据えた人事となっている。今後、リニューアルに伴う専門分野の調整および整理がますます必要となってくる。

2 事業部

(1) 展示

C展示室と水族展示室は7月14日にリニューアルオープンした。オープン後の展示室は、たいへんな賑わいとなった。C展示室に設置されたオピニオンボードには、「すごく楽しい。また来たい」や「バイカルアザ

ラシがかわいい」などの来館者の感想が書かれていた。このように来館者が増えたことはうれしい状況であるが、展示交流員の増員はされておらず、展示室運営における今後の重要な課題の一つである。

第24回企画展示「開館20周年記念 びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」は、琵琶湖博物館がこの20年間に行ってきた活動をふりかえり、館長をはじめ、すべての学芸員、特別研究員、研究協力員、資料整理員、水族飼育員、展示交流員、フィールドレポーターやはしかけグループ、地域の団体などが総力をあげて、琵琶湖博物館の活動の中で発見したことをカルタ仕立てのパネルをたどりながら、楽しめるような展示であった。実際にオリジナル「CD付びわ博カルタ」も作成して、ミュージアムショップで販売した。開催時期は、リニューアルオープンと重ならないように、9月から1月の間で開催された。

株式会社商工組合中央金庫大津支店様より寄贈して頂いたデジタルサイネージにより、総合受付前で館内のイベント情報を中心に紹介した。

(2) 資料の整備・活用

2016年7月14日にオープンした第1期リニューアルにおいて、C展示室ではこれまでに収集整理を進めてきた生物標本資料について、生き物コレクションのコーナーを中心に展示することができた。また、水族展示室では、バイカルアザラシをはじめ国内初となるバイカル湖の生きた魚介類を展示するなど、琵琶湖博物館の特徴である生きた生物資料の展示に向けた新たな試みを開始した。資料収集についても、布藤美之氏所蔵昆虫標本25,786点(2,267種)・ドイツ箱360箱、橋本鉄男氏旧蔵図書7,451冊等、伊谷純一郎氏蔵書2,138冊等が寄贈されるなど、着実に進めることができています。しかし、未整理の資料や未公開の資料がまだまだ多く、今後も地道に整理と公開の活動を進めていく必要がある。

資料の収蔵環境については、施設整備が思うに任せないなか、2013年度にとりまとめた資料収蔵環境の調査・情報共有・対策の検討・改善提案を基に、総務課の施設および設備の維持管理担当とも連携して、環境改善に努めてきた。その一環として、IPM対応についても全館的に推進している。

なお、琵琶湖博物館の資料公開の一つの手段としてきたWEB図鑑については、著作権等の問題があり一時中断しているが、全館的に著作権のチェック体制を構築するなどの対策をとり、再公開に向けた作業を進めた。

(3) 交流・サービス活動

2016年度の観察会・見学会では、C展示室と水族展示室がリニューアルオープンした8月以降に博物館周辺や県内各地で観察会等13件の事業を実施した。特に、リニューアルによって新しくなったC展示室と水族展示室の魅力を紹介することに重点を置いた観察会を行った。地域での観察会・見学会は、4件全てで地域の他団体や個人と協働して実施した。

学校行事で来館した入館学校数は518校、児童生徒数は38,487人で、前年度より75校、565人増加した。小学校・特別支援学校の増加と、中学校・高校の減少が目立った。体験学習を実施した学校数は127校、受講人数は9,695人で、前年度より8校、57人増増加し、高校生の受講人数の減少が目立った。

「フィールドレポーター」制度では、「飛び出し坊やを調べよう」「2016年度ミノムシ調査」を実施した。登録者数は222名であった。

「はしかけ」制度については、はしかけグループとして「ちっちゃな子どもの自然あそび」、「近江の巡礼の歴史勉強会」、「虫架け」が新たに結成された。登録者は329名であった。

3 総務部

(1) 来館者の状況

2016年度は、前年度からのリニューアル工事により、4月から7月までC展示室および水族展示室を閉室していたが、7月14日から両展示をリニューアルオープンし、多くの来館者を迎えることが出来た。オープ

ン初日のリニューアルオープンイベントをはじめ、企画展示「びわ博かるた」(9月17日～2017年1月31日)、開館20周年記念シンポジウム(10月22日)、びわ博フェス(11月12・13日)などを開催し、2016年度の来館者数は461,493人となり、目標としていた42万人を大きく上回ることができた。

(2) 来館者サービスの向上

「リニューアルサポーター制度」や「メンバーシップ制度」、「水槽サポーター制度」を創設し、企業や団体を始め、一般の方からも新しい琵琶湖博物館の創造に向けて支援を頂くこととし、積極的な働きかけの結果、多くの賛同を得ることができた。

「倶楽部LBM」の普及に努め、5,878人(H27 1,648人)の方に入会いただいた。

(3) 広報戦略

2016年7月に第1期リニューアルオープンし、また、設立20周年を迎えた。当館に対する県外での認知度を高めるとともに、リニューアルに関する情報発信を積極的に行った。特に、リニューアルオープンの前後の期間にターゲットを定めて、リニューアルの見どころなどを的確かつ魅力的に周知し、来館につながる広報活動を集中的に展開した。

広報業務については、専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者に委託した。業務委託にあたっては、「リニューアルを行う2016年度には42万人を目指すものであること」「訴求するターゲットは、京阪神地域(淀川流域)に居住する未就学児や小学生がいる家族とすること」とし、パブリシティ活動を中心とする広報活動を展開した。

(4) 施設整備

第1期リニューアルオープンに向けて、来館者用駐車場の案内看板の更新や区画線、路面表示の改修などを行い、来館者に利用していただきやすい駐車場となるよう整備した。また、県立施設無料Wi-Fi整備事業により、前年度に館内に4箇所のアクセスポイントを設置したが、今年度には更に1箇所増設し、来館者の利便性の向上や利用機会の拡大につながるものと期待される。

(5) 国際提携

水族展示のリニューアルにあたり、協力協定を結んでいるバイカル博物館からバイカル湖の生物の供給を受けた。20周年記念式典(10月22日)には、当館と協力協定を結んでいるバイカル博物館からウラジミール・フィアルコフ館長、中国科学院水生生物研究所から何舜平博士を招聘した。またマラウィ大学からボスコ・B・ルスワ博士を招聘し、記念シンポジウム「古代湖の魅力」を開催した(何博士は都合により当日欠席)。

2017年1月17日にはマケドニア共和国オフリド水生生物研究所と相互協力協定を締結した。オフリド湖はヨーロッパ最古の古代湖として知られるほか、ユネスコの世界遺産(自然・文化複合)に指定されている。協定の締結はオフリド水生生物研究所で行われ、当館からは館長以下4名が出席した。

また、韓国国立洛東江生物資源館より相互協力協定締結の打診があり、11月には当館から3名が訪韓するとともに、12月には洛東江生物資源館から4名が当館を訪問し、合同セミナーを開いて研究や事業に関する情報交換や協議を行った。

(6) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」のよりよい共存関係を築くことを目的に1996年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題が顕在化し、また、暮らしと環境に対する県民の考え方が多様化し、地域での取

り組みも活発化している。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない状況であった。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかわりを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要がある。

こうしたことから、2012年度に新琵琶湖博物館創造準備室を立ち上げ、リニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、それを踏まえて2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定し、2020年度までの間に3期に分けて、段階的にリニューアルを実施することとなった。

2014年度において、体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるよう、基本計画に基づき第1期リニューアルの実施設計を行い、それに基づき2015年度に展示および建設工事に着手し、計画的な工事の進捗管理により、2016年7月に第1期リニューアルオープンし、C展示室と水族展示の再構築が図れた。

加えて、2016年度において、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため、基本計画に基づき第2期リニューアルとして交流空間の実施設計を行った。

琵琶湖博物館 年報 21号

2016年度

平成29年(2017年)9月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

電話 077-568-4811